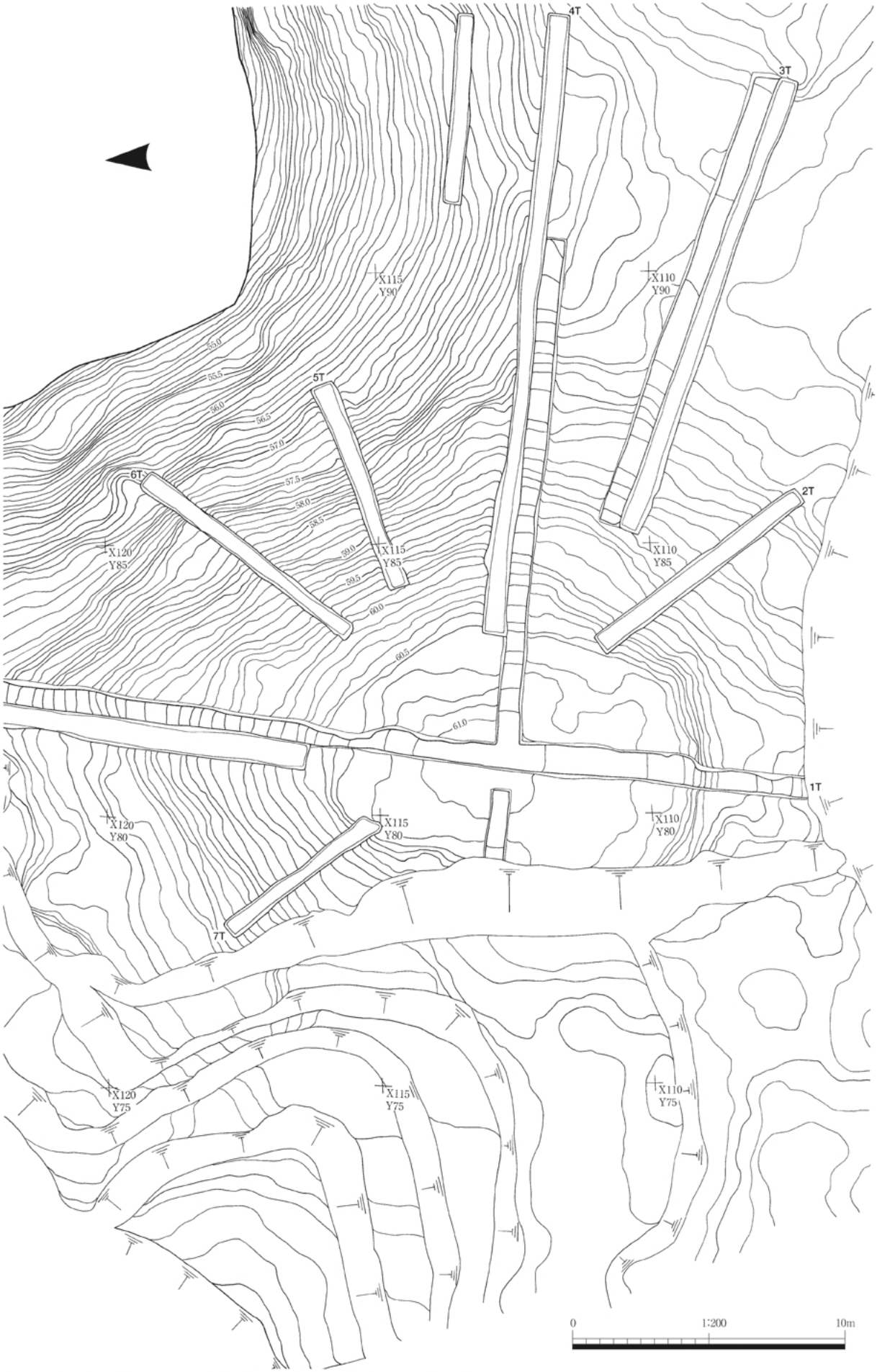
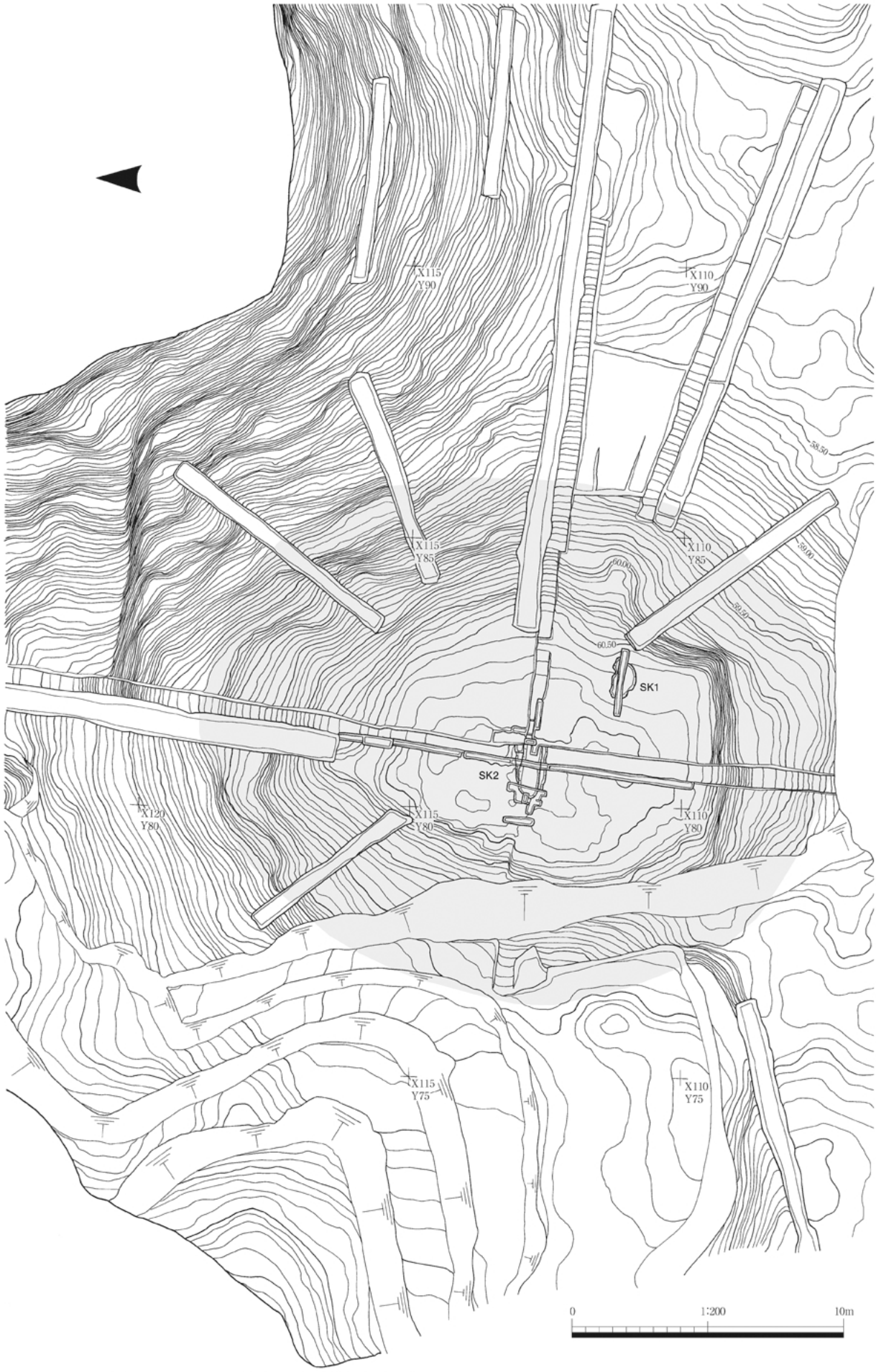


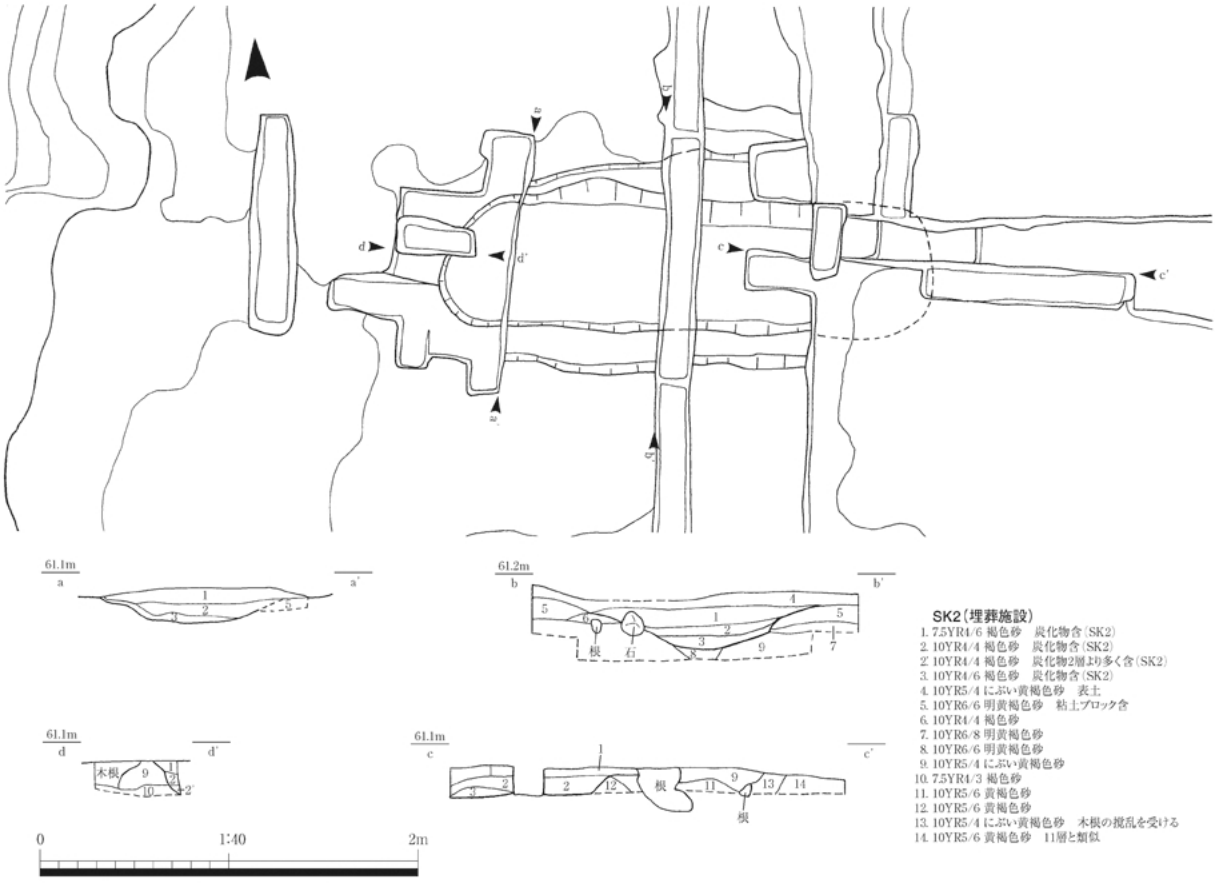
第12図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)

B14号墳（表土除去後）



第13図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)

B14号墳（完掘）



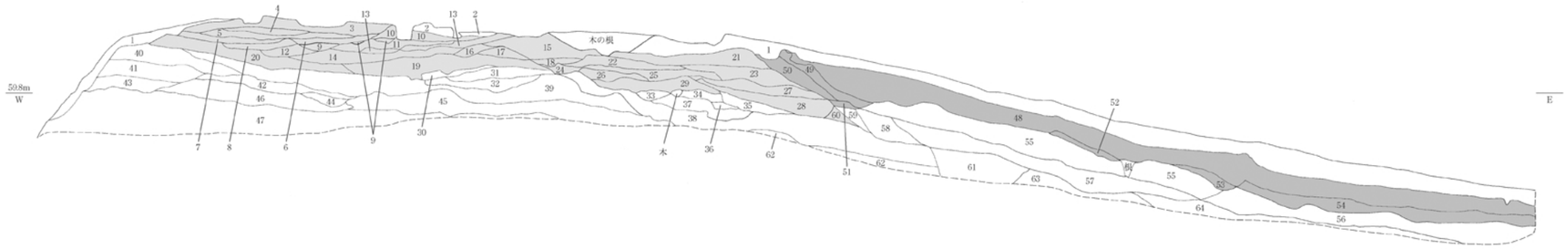
第14図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/40)
B14号墳　SK2

（3） 板屋谷内Ｃ１号墳

Ｃ１号墳は，Ｂ古墳群から続く尾根が南東及び南西方向へ分岐する地点に位置し，南西側にＣ２号墳が隣接する。墳頂の標高は65.7ｍを測り，Ｂ・Ｃ古墳群内で最も標高の高い地点にあたる。墳丘の東側半分は，後世の開墾や土砂の流失により旧地形を留めていない。このため墳丘の形状及び規模，また周溝の有無の確認のため，９本のトレンチを設定した。このうち１・３トレンチは確認調査時のトレンチを延長した。

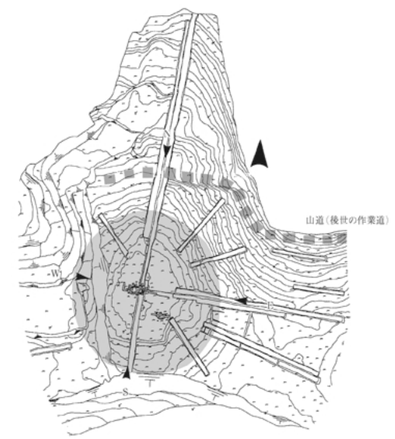
墳丘（第16・17・19図，図版14～17）

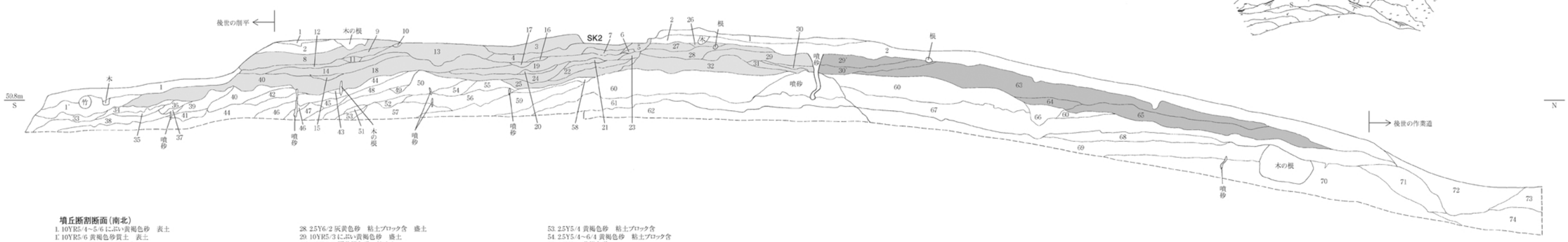
南東方向に延びる尾根は，後世の開発により階段状に改変されており，Ｃ１号墳の東側半分は削平されている。西側には周溝が巡り，この周溝の内径より径24ｍの円墳と推定した。墳頂部に約７ｍの平坦面をもつ。墳丘は地山削出しによって整形し，西側・南側の一部に盛土を施す。盛土は現状で地山上0.6～0.8ｍ認められるが，墳頂部は後世の開墾や土砂の流失により盛土の一部を失っている。現存での比高差は，西側の周溝底面から墳頂までで約1.9ｍである。墳丘の断割土層断面の観察によると，盛土は地山削出し後，土手状の盛土を行い，この土手の内側及び外側に土を盛るという手順で施されている[注1]。土手状盛土の上端まで土を盛った後，暗褐色砂質土（整地層・墳丘断割10層）を盛り，平坦面を形成している。この整地層より上は水平に盛土を行っている。埋葬施設は，盛土後に墓坑を掘り込んで構築されたものとみられる。盛土の土質は，粘土ブロック・炭化物を含む黄褐色又は，褐色の砂・砂質土で，地山の土質と異なるところはなく，削り採った周辺の土砂を中心としている。墳



墳丘断割断面（東西）

1. 10YR4/4 褐色砂　表土
2. 10YR6/6 明黄褐色砂　盛土　南北4層と対応
3. 10YR4/4 褐色砂　盛土
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　盛土
5. 10YR5/8 黄褐色砂　盛土
6. 2.5Y5/4 黄褐色砂　盛土
7. 10YR6/6 明黄褐色砂　盛土
8. 2.5Y5/3～6/3 黄褐色砂　盛土
9. 10Y5/6 黄褐色砂　南北19層と対応　盛土
10. 10YR5/2 灰黄褐色砂　粘土ブロック含　南北7層と対応　盛土
11. 2.5Y5/6 黄褐色砂　粘土ブロック含　南北21層と対応　盛土
12. 2.5Y5/3～6/3 黄褐色砂　盛土
13. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含　南北22層と対応　盛土
14. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂　粘土ブロック含　盛土
15. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　盛土
16. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂　南北22層と対応　盛土
17. 10YR5/2 灰黄褐色土　盛土
18. 7.5YR4/4 褐色土　盛土
19. 2.5Y6/6～6/4 明黄褐色砂　南北25層と対応　盛土
20. 2.5Y5/3～5/4 黄褐色砂　盛土
21. 10YR4/6 褐色砂　粘土ブロック含　盛土
22. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　盛土
23. 7.5YR5/8 明褐色砂質土　盛土
24. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　盛土
25. 2.5Y5/4～5/6 黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
26. 10YR5/3～4/3 にぶい黄褐色砂礫　盛土
27. 2.5Y5/4 黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
28. 10YR5/8 明黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
29. 10YR5/4 にぶい黄橙色土　盛土
30. 2.5Y5/4 にぶい黄色砂　粘土ブロック含　南北58層と対応
31. 2.5Y5/4～4/4 黄褐色砂　粘土ブロック含　南北59層と対応
32. 2.5Y5/4 黄褐色砂質土
33. 10YR5/4～5/6 にぶい黄褐色砂質土
34. 10YR3/4 暗褐色砂質土
35. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂　粘土ブロック含
36. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂
37. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
38. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂質土
39. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　粘土ブロック含　南北60層と対応
40. 2.5Y6/2 灰黄色砂　粘土ブロック含
41. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含
42. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂　粘土ブロック含
43. 10YR5/8 黄褐色砂　粘土ブロック含
44. 2.5Y5/1 黄灰色砂　粘土ブロック含
45. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　南北61層と対応
46. 2.5Y6/1 黄灰色砂　粘土ブロック含
47. 2.5YR6/3～7/3 にぶい黄色砂　粘土ブロック含　南北62層と対応
48. 7.5YR3/2 黒褐色土　流土
49. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂　流土
50. 2.5Y5/4～5/6 黄褐色砂　流土
51. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　流土
52. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含　流土 ｝同一か
53. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含　流土
54. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含　流土
55. 2.5Y5/4 黄褐色砂　粘土ブロック含
56. 10YR5/6 黄褐色砂質土
57. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　粘土ブロック含
58. 7.5YR5/6 明褐色砂
59. 10YR4/6 褐色砂質土
60. 7.5Y5/3 にぶい褐色土　盛土か
61. 2.5Y5/3 黄褐色砂　荒清か
62. 10YR4/6 褐色砂質土
63. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
64. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土





墳丘断割断面（南北）

1. 10YR5/4～5/6 にぶい黄褐色砂　表土
1'. 10YR5/6 黄褐色砂質土　表土
2. 10YR6/6 明黄褐色砂　表土
3. 10YR4/6 褐色砂　炭化物含　盛土
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　盛土　東西2層と対応
5. 10YR6/6 明黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
6. 10YR4/4 褐色砂　盛土
7. 10YR5/2 灰黄褐色砂　粘土ブロック含　東西10層と対応　盛土
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　盛土
9. 10YR4/6 褐色砂　粘土ブロック含　盛土
10. 10YR5/8 黄褐色砂　盛土
11. 10YR5/6 黄褐色砂　盛土
12. 7.5YR5/6 明褐色砂　粘土ブロック含　盛土
13. 10YR4/6 褐色砂　盛土
14. 10YR5/4 にぶい褐色砂　盛土
15. 10YR5/6 黄褐色砂　盛土
16. 7.5YR5/8 明褐色砂　盛土
17. 2.5Y5/4 黄褐色砂　盛土
18. 10YR5/6 黄褐色砂　盛土
19. 10YR5/6 黄褐色砂　東西9層と対応　盛土
20. 2.5Y6/2 灰黄色砂　粘土ブロックを含む　盛土
21. 2.5Y5/3 黄褐色砂　東西13層と対応　盛土
22. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂　東西16層と対応　盛土
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　盛土
24. 2.5Y6/3～6/2 にぶい黄色砂　盛土
25. 2.5Y6/6～6/4 明黄褐色砂　東西19層と対応　盛土
26. 10YR5/8 黄褐色砂　盛土
27. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　盛土
28. 2.5Y6/2 灰黄色砂　粘土ブロック含　盛土
29. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　盛土
29'. 10YR5/6 明黄褐色砂　流土か
30. 10YR6/4～6/6 にぶい黄橙色砂　粘土ブロック含　盛土
30'. 10YR4/4 褐色砂　流土か
31. 10YR5/6～5/4 黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
32. 10YR5/2～4/2 灰黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
33. 2.5Y6/4 にぶい黄褐色砂
34. 10YR6/3～6/2 灰黄褐色砂
35. 10YR6/2 灰黄褐色砂
36. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂
37. 10YR5/8 黄褐色砂　噴砂
38. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂
39. 10YR5/2 灰黄褐色砂
40. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含
41. 10YR6/8 明黄褐色砂
42. 2.5Y5/3 黄褐色砂
43. 2.5Y5/3 黄褐色砂
44. 10YR6/2 灰黄褐色砂
45. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂
46. 10YR5/3 褐色砂
47. 10YR5/3 褐色砂　粘土ブロック含
48. 2.5Y6/6 明黄褐色砂　粘土ブロック含
49. 2.5Y5/4～6/4 黄褐色砂
50. 2.5Y5/4 黄褐色砂
51. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂　粘土ブロック含
52. 2.5Y6/2 灰黄色砂
53. 2.5Y5/4 黄褐色砂　粘土ブロック含
54. 2.5Y5/4～6/4 黄褐色砂　粘土ブロック含
55. 2.5Y5/4 黄褐色砂
56. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含
57. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂　粘土ブロック含
58. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂　粘土ブロック含　東西30層と対応
59. 2.5Y5/4～4/4 黄褐色砂　粘土ブロック含　東西31層と対応
60. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　粘土ブロック含　東西39層と対応
61. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　東西45層と対応
62. 2.5Y6/3～7/3 にぶい黄色砂　東西47層と対応
63. 10YR5/4～5/3 にぶい黄褐色砂　流土
64. 10YR5/2～5/3 灰黄褐色砂　粘土ブロック含　流土
65. 7.5YR5/3 にぶい褐色砂　流土
66. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂
67. 10YR6/1～6/2 褐灰色砂
68. 2.5Y5/3 黄褐色砂質土　粘土ブロック層と類似
69. 10YR6/1～5/1 褐灰色砂
70. 2.5Y6/2 灰黄色砂
71. 10YR6/3～6/4 にぶい黄橙色砂
72. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土
73. 10YR4/2～4/3 灰黄褐色砂質土
74. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂

盛土

流土

0　1:80　4m

第15図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/80)

B14号墳　墳丘断割

頂平坦面の北西1/4の部分では表土直下で，土師器片が出土している。

周溝（ＳＤ１，第20図，図版16）

尾根筋を切断して溝としており，平面プランは歪んだ円形を呈する。墳丘西側半分に半円状に巡り，最大幅4.0m，深さ0.28～0.74mを測る。断面は半円形を呈し，埋土は黒褐色砂質土・暗褐色砂質土を主体とする。周溝は３トレンチ・確認調査の９トレンチ周辺で浅くなり，幅約３mほど途切れる。この周辺の溝底からは，墳頂から転落した状態の土師器がまとまって出土している。

埋葬施設（ＳＫ５，第18図，図版15・16）

地表面下30～40㎝と浅い位置で墓坑底部を検出しており，墓坑の上部は後世の開墾や土砂の流失等により削平されているとみられる。墳頂部平坦面の中心より西側にずれた地点にあり，尾根の最も標高の高い付近に位置する。主軸はＮ－51°－Ｅで，ほぼ北東方向に振れる。墓坑の規模は長さ6.4m，幅1.9m，深さ0.2mを測る。墓坑底には長さ5.7m，幅1.1mの掘り込みがあり，断面Ｕ字状を呈することから，割竹形木棺の木棺直葬と想定される。一部で粘土塊を確認したが，面的・層的には認められなかった。棺の北東幅は1.0m，南西幅は0.85mを測る。墓坑の南半は竹・樹木による攪乱が著しく，ほぼ中心部に確認トレンチ及び中世の土坑が重複しており，遺存状態は悪い。北側1/3は比較的状態が良く，一部に赤色土の堆積が認められた。

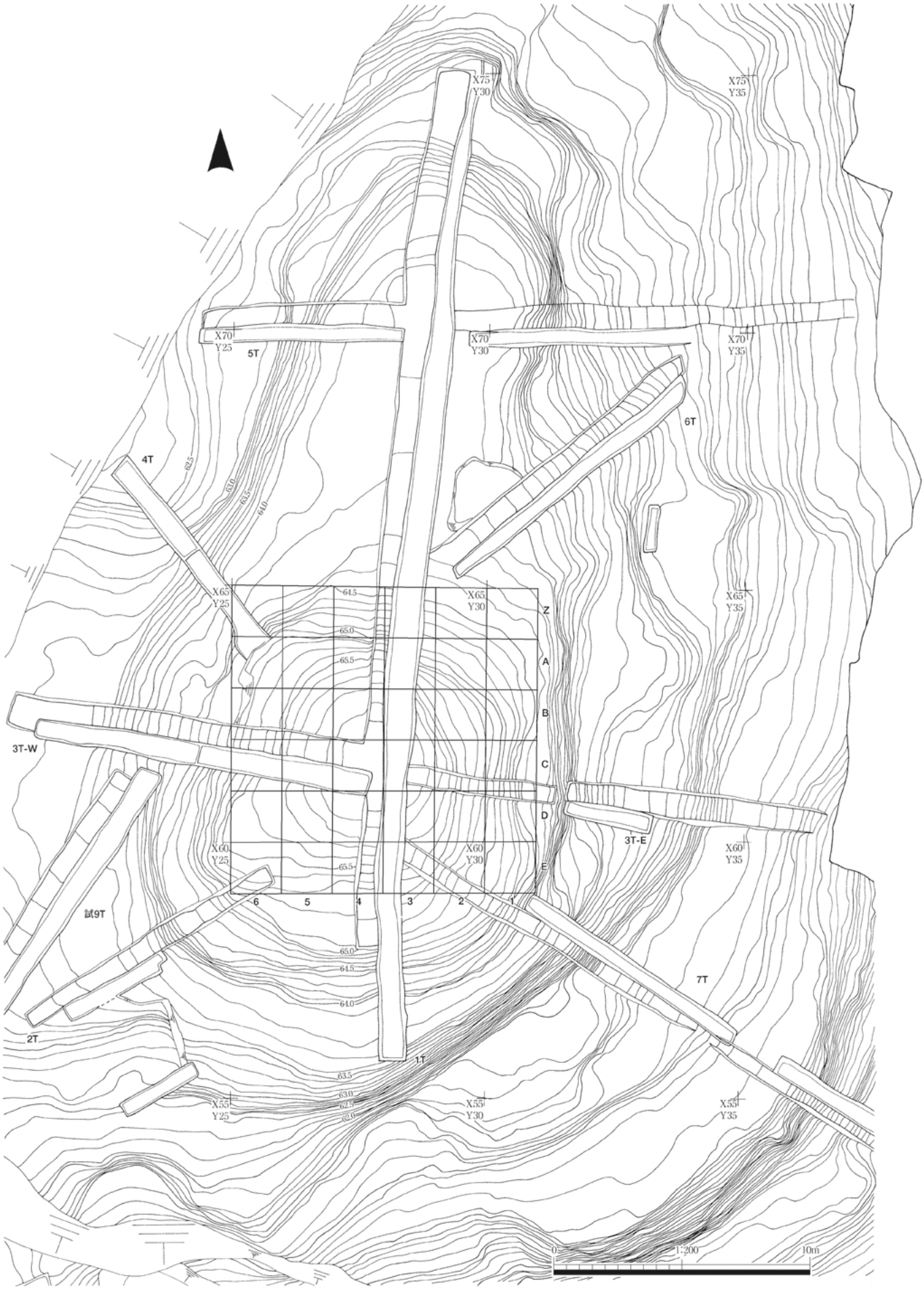
赤色土は棺底から墓坑東側の立上がり面にかけて40㎝×80㎝の範囲に最大８㎝ほどの厚さで堆積している。分析結果では，赤色顔料としては水銀朱・ベンガラの可能性があるが，どちらも微量で特定には至っていない[注2]。この赤色土の上下でヤリが折れたような状態で出土しており，鉄器が酸化して赤色錆化した可能性も考えられるが，周辺地山とは異質であること，Ｃ４号墳，Ｃ６号墳等の鉄器出土周辺では検出されていないことから，鉄器の酸化による赤色化の可能性は低いであろう。顔料としては抽出されていないが，「赤色」を意識して人為的に用いられたもので，棺底部内面に塗布されたか，遺骸の頭胸部付近に撒かれたものの可能性が挙げられる。

副葬品と考えられる遺物はヤリとガラス小玉がある。ヤリは３片に折れ，赤色土の上面でヤリの切先（ａ）の部分，ａの取り上げ後赤色土を掘り下げた段階で茎（ｂ）の部分が出土している。木根の攪乱等が激しく副葬時の元位置を留めていない可能性はあるが，赤色土が棺内面に塗布されたものであるなら，ヤリは棺内体側に切先を南方向に向けて配置されたと考えられる[注3]。ガラス小玉は出土位置は確認していないが，赤色土周辺棺内埋土の土壌洗浄により出土している。

出土遺物（第21図，図版29・32・36・38・44）

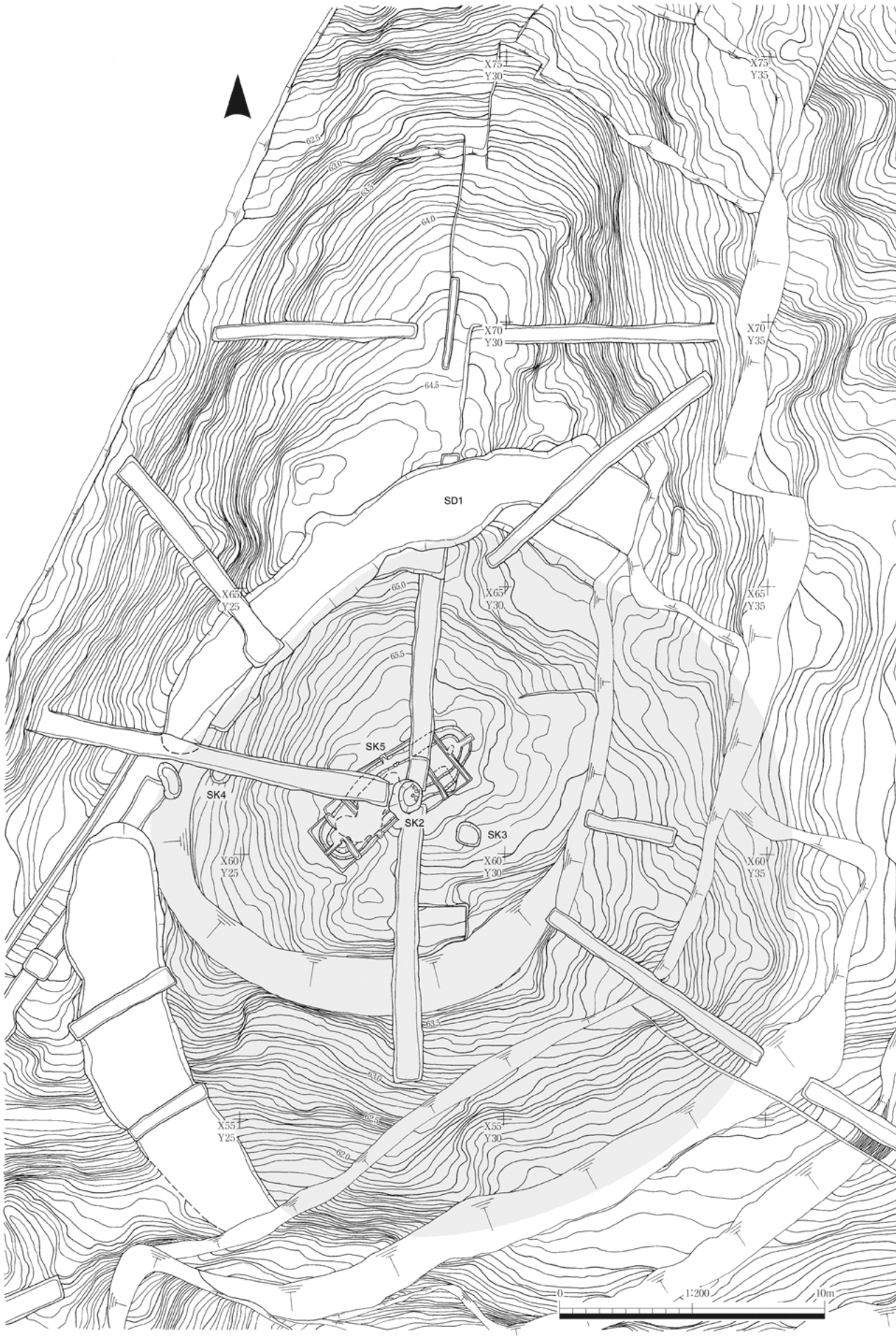
埋葬施設に伴う遺物は，ヤリ１点，ガラス小玉１点である。ヤリ（*17*）は錆膨れのためやや中空になっているが，断面菱形を呈する。身の一部に布が付着する。茎部分には一部木質と漆膜が認められ，木質を木皮で巻いて漆を塗布しており，柄木の一部と考えられる。糸巻の痕跡は確認できないが，漆表面を柄の表面と考えると，柄が刃幅より細いことから，調査時は刀としていたが，ヤリの可能性が高いと考える[注4]。ガラス小玉（*16*）は，直径0.50㎝で水色を呈し，Ｃ６号墳出土のガラス玉に比べ小型で，色調も淡い。

周溝出土の遺物は，土師器がある。土師器は墳頂から周溝底部にかけて出土したもので，有段口縁壺（*10*），甕（*11・14*），鉢（*12・13*）がある。*10*は，外反する頸部から直線的に開く口縁部を持ち，頸部以下の破片は風化が激しく接合はできないが，球形の胴部がつくと思われる。表面の風化が著しく調整は不明瞭であるが，外面にミガキと赤彩，内面にハケの痕跡が認められ，古府クルビ式期に位置付けられると考える。*14*は，長めの頸部が直立気味に立上がり，口縁部付近で外反する。口縁端部



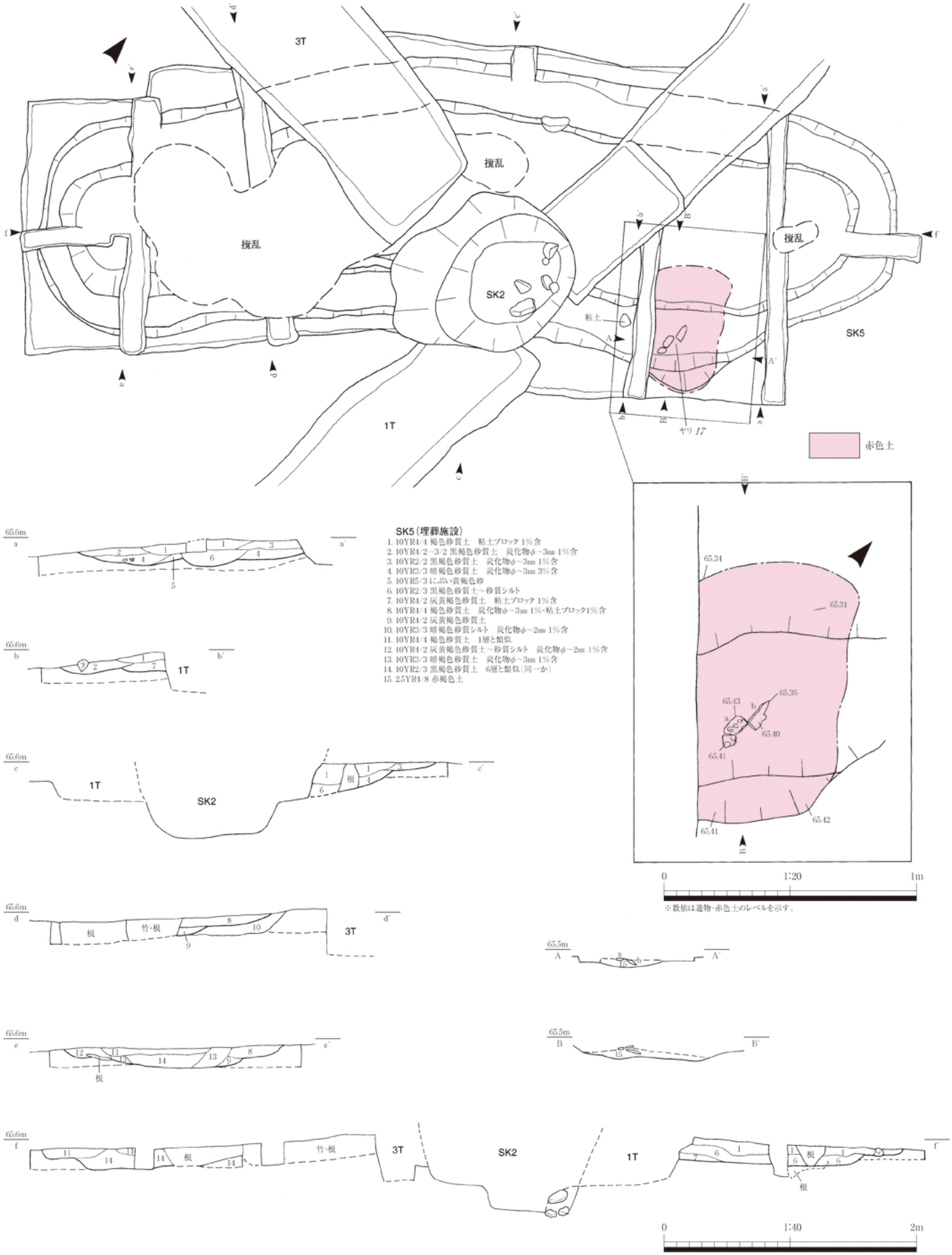
第16図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)

C1号墳（表土除去後）



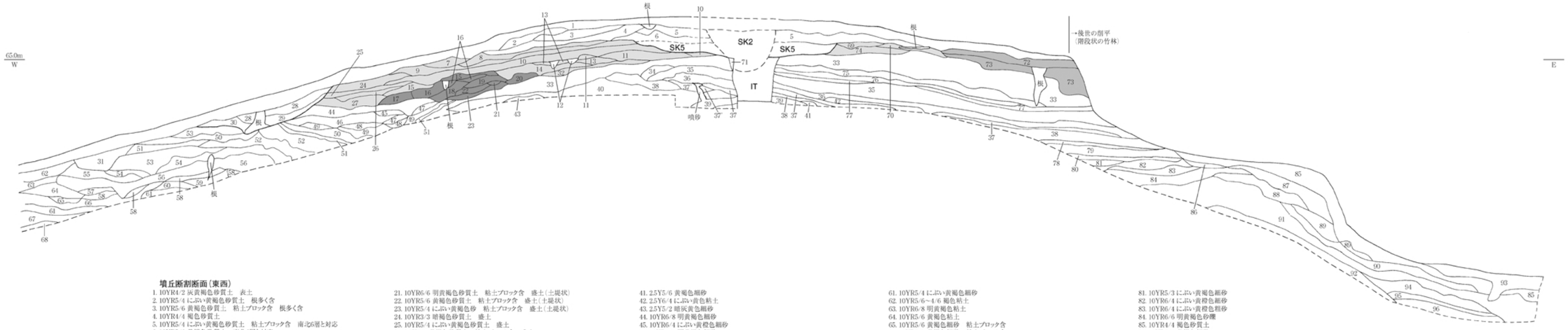
第17図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)

C1号墳（完掘）



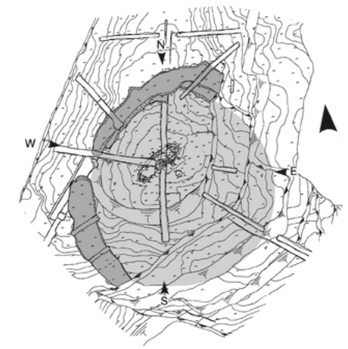
第18図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　（1/20，1/40）

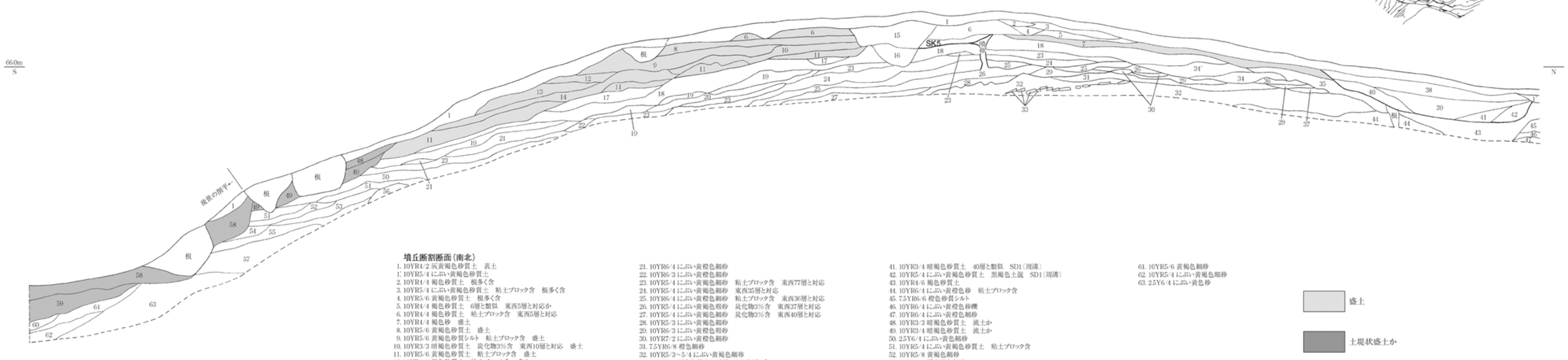
C1号墳　SK5



墳丘断割断面（東西）

1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　根多く含
3. 10YR5/6 黄褐色砂質土　粘土ブロック含　根多く含
4. 10YR4/4 褐色砂質土
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　南北6層と対応
6. 10YR5/6 黄褐色砂質土　南北6層と対応
7. 10YR4/6 褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
8. 10YR4/4 褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
10. 10YR3/4 暗褐色砂質土　炭化物3%含　盛土　南北10層と対応
11. 10YR4/6 褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
12. 10YR3/4 暗褐色砂質土　木の根
13. 5YR5/6 明赤褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土
14. 10YR6/6 明黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
15. 10YR5/6 黄褐色砂質土　盛土（土堤状）
16. 10YR5/6 黄褐色砂　盛土（土堤状）
17. 10YR4/6 褐色砂質土　盛土（土堤状）
18. 10YR4/6 褐色砂質シルト　盛土（土堤状）
19. 10YR5/6 黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土（土堤状）
20. 10YR7/6 明黄褐色粘土　盛土（土堤状）
21. 10YR6/6 明黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土（土堤状）
22. 10YR5/6 黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土（土堤状）
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土（土堤状）
24. 10YR3/3 暗褐色砂質土　盛土
25. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　盛土
26. 2.5Y5/4 黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
27. 10YR5/8 黄褐色砂質土　盛土
28. 10YR4/4～4/6 褐色砂質土　SD1（周溝）
29. 10YR4/4 褐色砂質土　SD1（周溝）
30. 10YR6/6 明黄褐色砂礫　SD1（周溝）
31. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
32. 10YR5/6 黄褐色細砂　盛土
33. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂　南北18層と対応
34. 10YR4/4 褐色細砂
35. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　南北24層と対応
36. 10YR6/3～6/4 にぶい黄橙色細砂　粘土ブロック含　南北25層と対応
37. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　炭化物3%含　南北26層と対応
38. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂　粘土ブロック含
39. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂
40. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　炭化物3%含　南北27層と対応
41. 2.5Y5/6 黄褐色細砂
42. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土
43. 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂
44. 10YR6/8 明黄褐色細砂
45. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
46. 10YR6/6 明黄褐色細砂
47. 2.5Y5/6 黄褐色細砂
48. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂礫
49. 2.5Y6/3 にぶい黄色細砂
50. 7.5YR4/6 褐色粗砂
51. 5YR5/8 明赤褐色粘土
52. 10YR6/8 明黄褐色砂質土　粘土ブロック含
53. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含
54. 7.5YR6/8 橙色砂質シルト　粘土ブロック含
55. 10YR6/6 明黄褐色粘土
56. 2.5Y7/3 浅黄色粘土
57. 10YR7/8 黄橙色粘土
58. 5YR4/8 赤褐色粘土
59. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　粘土ブロック含
60. 10YR6/3 にぶい黄橙色細砂
61. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂
62. 10YR5/6～4/6 褐色粘土
63. 10YR6/8 明黄褐色粘土
64. 10YR5/6 黄褐色粘土
65. 10YR5/6 黄褐色細砂　粘土ブロック含
66. 10YR5/6 黄褐色細砂　粘土ブロック含
67. 2.5Y5/6 黄褐色細砂
68. 10YR5/6 黄褐色細砂
69. 10YR4/4 褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
70. 10YR3/3～3/4 暗褐色砂質シルト　盛土
71. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　南北16層と対応　SK2
72. 10YR4/4 褐色砂質土　流土
73. 10YR5/6 黄褐色砂質土　流土
74. 10YR5/6 黄褐色細砂　盛土
75. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色細砂　南北19層と対応
76. 10YR6/3 にぶい黄橙色細砂　南北20層と対応
77. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　粘土ブロック含　南北23層と対応
78. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂　粘土粒含
79. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
80. 10YR4/6 褐色細砂
81. 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂
82. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
83. 10YR6/4 にぶい黄橙色粗砂
84. 10YR6/6 明黄褐色砂礫
85. 10YR4/4 褐色砂質土
86. 10YR5/6 黄褐色細砂
87. 10YR3/4 暗褐色砂質土
88. 10YR6/6 明黄褐色細砂
89. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土
90. 10YR7/6 明黄褐色細砂
91. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
92. 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂
93. 10YR4/4 褐色砂質土
94. 10YR6/4～5/4 にぶい黄橙色細砂
95. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
96. 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂





墳丘断割断面（南北）

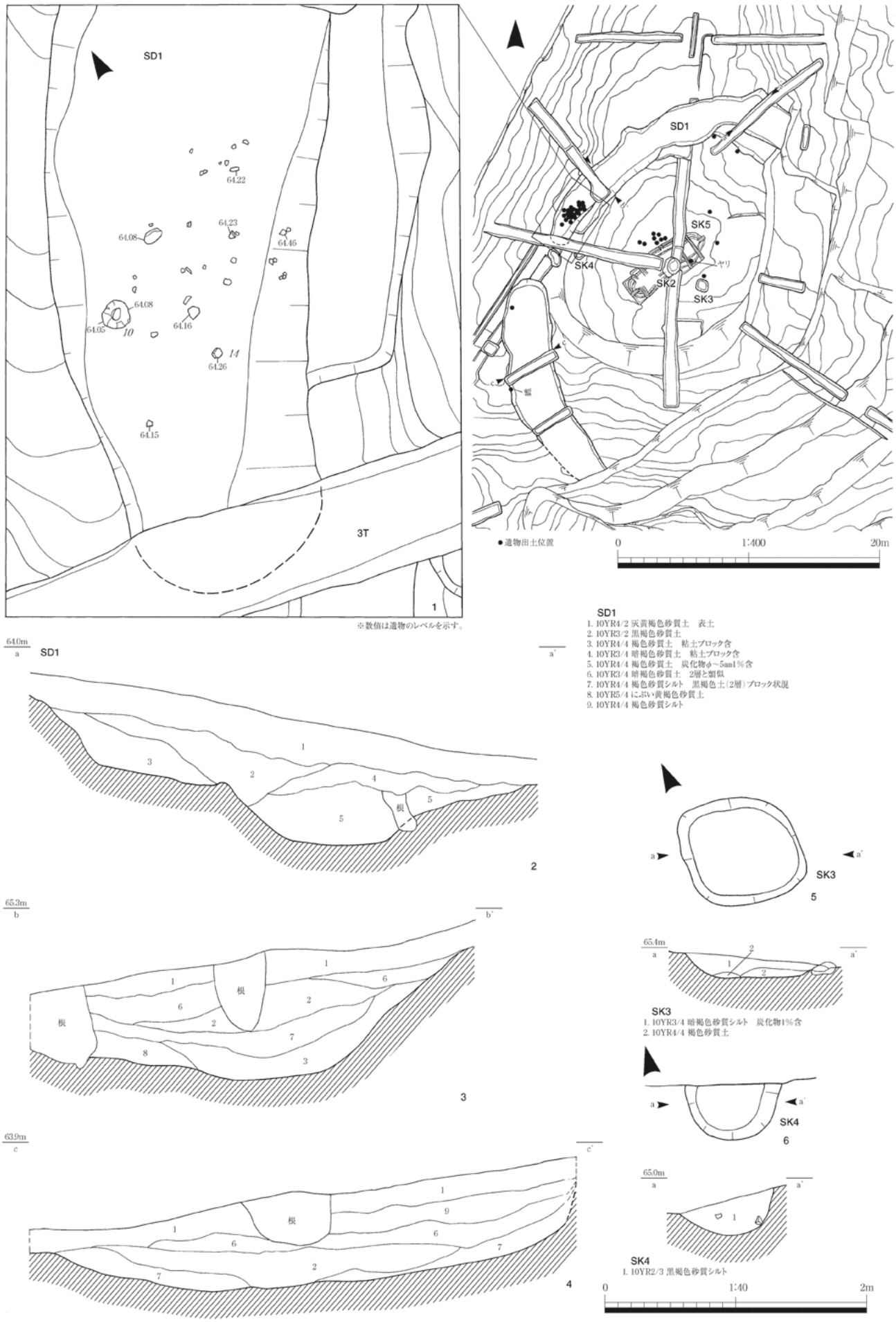
1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土
3. 10YR4/4 褐色砂質土　根多く含
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　根多く含
5. 10YR5/6 黄褐色砂質土　根多く含
6. 10YR4/4 褐色砂質土　6層と類似　東西5層と対応か
7. 10YR4/4 褐色砂質土　粘土ブロック含　東西5層と対応
8. 10YR5/6 黄褐色砂質土　盛土
9. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土
10. 10YR3/3 暗褐色砂質土　炭化物3%含　東西10層と対応　盛土
11. 10YR5/6 黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
12. 10YR4/4 褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　盛土
14. 10YR3/2 黒褐色砂質土　炭化物1%含　10層と類似　盛土
15. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト　SK2
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　東西71層と対応　SK2
17. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂
18. 10YR5/4 にぶい黄橙色細砂　東西33層と対応
19. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色細砂　東西75層と対応
20. 10YR6/3 にぶい黄橙色細砂　東西76層と対応
21. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
22. 10YR6/3 にぶい黄橙色細砂
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　粘土ブロック含　東西77層と対応
24. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　東西35層と対応
25. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂　粘土ブロック含　東西36層と対応
26. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂　炭化物3%含　東西37層と対応
27. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　炭化物3%含　東西40層と対応
28. 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂
29. 10YR6/3 にぶい黄橙色粗砂
30. 10YR7/2 にぶい黄橙色細砂
31. 7.5YR6/8 橙色細砂
32. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色細砂
33. 10YR7/1 灰白色粘土　地震による分断・ズレ
34. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
34. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂　炭化物1%含
35. 10YR5/6 黄褐色砂質土
36. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト
37. 10YR6/6 明黄褐色粗砂
38. 10YR4/4～3/4 暗褐色砂質土　SD1（周溝）
39. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト　SD1（周溝）
40. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト　SD1（周溝）
41. 10YR3/4 暗褐色砂質土　40層と類似　SD1（周溝）
42. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　黒褐色土混　SD1（周溝）
43. 10YR4/6 褐色砂質土
44. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂　粘土ブロック含
45. 7.5YR6/6 橙色砂質シルト
46. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂礫
47. 10YR6/4 にぶい黄橙色細砂
48. 10YR3/3 暗褐色砂質土　流土か
49. 10YR3/4 暗褐色砂質土　流土か
50. 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂
51. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含
52. 10YR5/8 黄褐色細砂
53. 10YR6/6 明黄褐色細砂
54. 2.5Y5/4 黄褐色細砂
55. 10YR6/8～5/8 明黄褐色細砂
56. 2.5Y5/4 黄褐色細砂
57. 10YR5/6 黄褐色細砂
58. 10YR4/4 褐色砂質土　流土
59. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　粘土ブロック含　流土か
60. 10YR3/2 黒褐色砂質土　粘土ブロック含　流土か
61. 10YR5/6 黄褐色細砂
62. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂
63. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂

盛土
土堤状盛土か
流土

0　1:80　4m

第19図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/80)

C1号墳　墳丘断割



第20図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/40, 1/400)

1. C1号墳　SD1遺物出土状況　2～4. C1号墳　SD1　5. C1号墳　SK3　6. C1号墳　SK4

を面取りし，１ヶ所押さえている。調整は頸部内外面と胴部外面にハケ調整を行い，胴部内面はハケ調整の後ナデを行う。底部片は調整及び胎土等が同一個体と考えられたため，図上復元をした。*13*はやや内湾気味に立ち上がる器形で，鉢と考える。*11*～*14*の土器の時期は，*10*より古い様相を含むものである。

古墳築造時期

出土遺物が少なく決め手に欠けるが，周溝出土の土器によれば古墳時代前期中葉以降と考えられる。

その他の遺構・遺物

２号土坑（ＳＫ２，第18・19・21図　図版32）

埋葬施設のほぼ中央部に重複する円形土坑で，長軸1.4m，短軸1.16m以上，深さ0.8mを測る。１トレンチにより大半を失っており詳細は不明であるが，表土直下でプランを検出した。埋土は黒褐色砂質シルトとにぶい黄褐色砂の２層で，拳大の礫を含む。埋土中の礫は表土に含まれるものと変わりがなく，人為的なものではないと考える。ＳＫ２を中心に半径約1.2mの範囲は褐色砂質土（墳丘断割断面５・６層）が削平された墓坑埋土を水平に覆い，ＳＫ２に伴う盛土の可能性があり，中世段階の塚等の可能性も考えられる。遺物は珠洲（*15*）片が出土している。*15*は擂鉢口縁で，口縁端部は外傾し，内端を爪状に尖らせたもので，吉岡編年のⅡ期に比定される。卸目はまばらである。

３号土坑（ＳＫ３，第20図）

埋葬施設南東側，墳頂平坦面のほぼ中央に位置する。長軸0.8m，短軸0.7m，深さ0.18mを測る円形土坑。埋土は暗褐色砂質シルトと炭化物混じりの褐色砂質土である。出土遺物はなく，時期不明。

４号土坑（ＳＫ４，第20図）

墳丘西側斜面に位置する。３トレンチに半截されており，長軸0.7m，短軸0.4m以上，深さ0.3mを測る円形土坑である。埋土中から縄文土器が出土している。

遺物（第21図，図版42・48）

埋葬施設埋土の土壌洗浄により金属片１点（*18*）が出土している。真鍮製[注5]の小さな金具状のもので，古墳時代より新しい時期のものと考えられ，ＳＫ２に由来する可能性がある。また，Ｃ２号墳側の周溝肩部より鏨（*19*）が出土しており，古墳時代より新しい時期の可能性が高い。この他に表土及び，周溝埋土から縄文土器が出土している。小片のため，時期は不明。　（金三津道子）

注

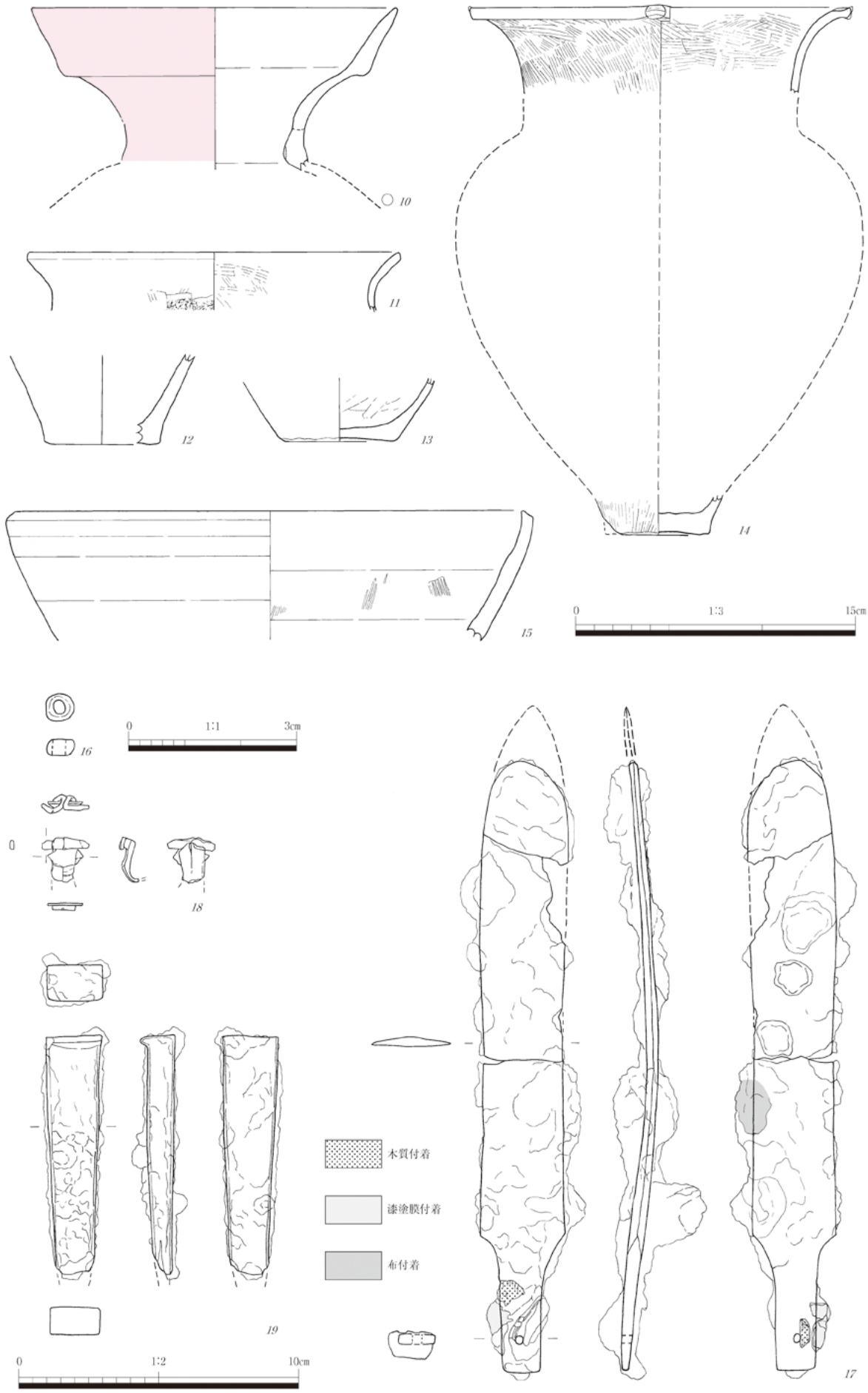
注１　青木　敬　2003「第２章　墳丘構築法の再検討」『古墳築造の研究』六一書房
墳丘断割断面（東西方向）の観察から土手状盛土と平坦面を併用していると想定した。

注２　第Ⅴ章　自然科学分析「１　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　（１）自然科学分析」に詳しい。

注３　出土位置が副葬時の配置を留めていると仮定した場合，赤色土は棺底から墓坑立ち上がり面にかけての範囲で検出されており，ヤリが赤色土の上面～中位にかけての出土であることから，棺が腐食して潰れたと推定した場合の状態に最も近いと判断した。

注４　野島　永氏の御教示による。短剣タイプの剣形武器で，茎部の木質と漆膜・木皮の残存状態より，柄の構造は糸巻の痕跡は確認できていないが，４枚合わせ，もしくは凹字状の２枚合わせになると想定され，剣よりはヤリである可能性が高いと判断した。

注５　第Ⅴ章　自然科学分析「１　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　（８）金属製品の蛍光Ｘ線分析」に詳しい。



第21図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　（*16・18*　1/1，*17・19*　1/2，*10～15*　1/3）
C1号墳

（4） 板屋谷内Ｃ２号墳

Ｃ２号墳はＢ古墳群より続く尾根筋に位置し，Ｃ１号墳から南西に延びる小丘分岐点に立地する。Ｃ２号墳の西側，尾根筋上にはＣ３号墳が存在するとみられる。標高は60mを測る。

墳丘（第22・24図，図版18・19）

径15mの円墳と推定される。墳丘は墳頂部全面が後世の削平を受けている。尾根上段は地山削り出しの整地によって整形されているとみられる。墳丘は旧表土を整地し，その上に盛土を施している。盛土は尾根の傾斜分を補うように施され，現状では南側で最大0.7m，西側で最大0.6mが認められる。墳丘南側では，階段状に地山を整形し，その上に盛土をおこなっている。また，墳丘断割断面（南北面）では，古墳築造以後の地震により盛土直下の旧表土が滑落している状態が観察できる。段築・埴輪等の外表施設は認められない。

周溝（ＳＤ５，第23図，図版19）

周溝は墳丘北側1/2に巡り，調査区境界の壁面で確認されることから，調査区外南西方向に延び，尾根上段の掘削可能な部分にはほぼ周溝が廻ると想定される。尾根下段には整地跡と思われる平坦面が確認できるが，周溝は巡らない。周溝は最大幅3.0m，深さ1.4mを測り，断面は逆台形を呈す。遺物は須恵器片が出土している。

埋葬施設（ＳＫ４，第23図，図版19）

墳頂部の削平が著しく，表土直下が検出面であったため，墓坑底部のごく一部を確認したに過ぎない。墳丘のほぼ中央に位置し，主軸はＮ－42°－Ｗで北西に向く。北側を確認トレンチにより切断され，ほぼ中心部と思われる地点に中世の土坑が重複しており，遺存状態は悪い。現存幅は0.7mを測る。木棺直葬であったと想定される。棺底面に砂岩が点在していたが，副葬品はない。

出土遺物（第25図，図版31）

周溝出土の須恵器片がある。杯底部（*20*）と杯の口縁部片があり，これら２点の須恵器は胎土分析の結果，陶邑製品の可能性が高いと推定されている[注1]。

古墳築造時期

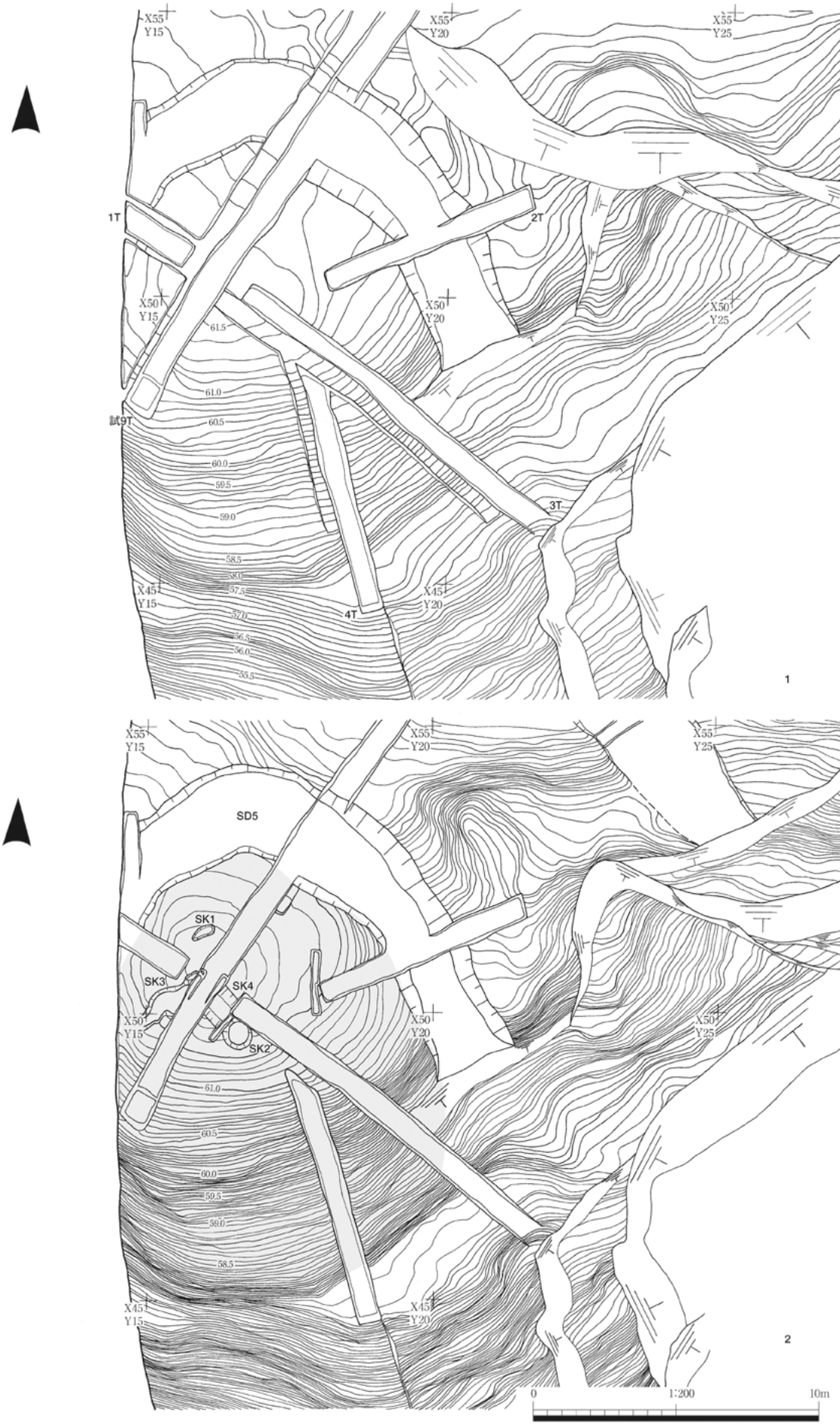
埋葬施設の遺存状態が悪く，出土遺物もないことから，時期の特定はできない。

その他の遺構・遺物

２号土坑（ＳＫ２，第23・25図　図版32）

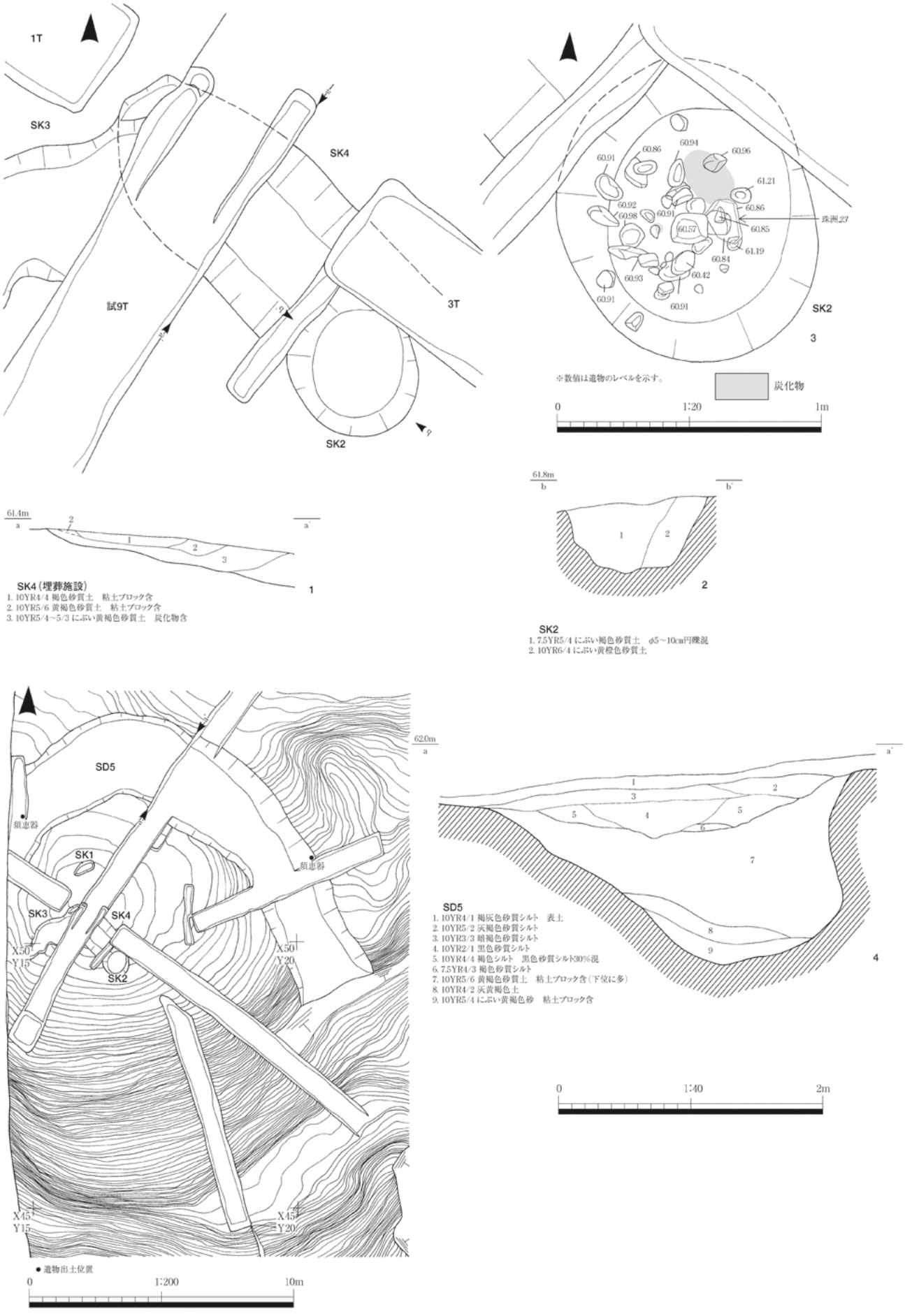
埋葬施設のほぼ中心部と思われる地点に位置する。埋葬施設南半を深く掘り込み，深さ0.72mを測る。平面形態は方形気味の楕円形を呈する。底面直上より珠洲の擂鉢（*21*・*22*）・甕（*23*）が破片で出土している。埋土全層にわたり小円礫を多量に含み，中世段階の土坑墓，あるいは埋納土坑等の可能性もあるが，性格は不明である。なお，埋土中の炭化物３点を放射性炭素年代測定にかけた結果，11世紀中頃～13世紀前半頃という年代を示した[注2]。

珠洲擂鉢は，*21*が口縁部片で，吉岡編年Ⅱ期に比定される。*22*は底部で，確認調査で出土したものだが，出土位置からみてＳＫ２に伴うものと考えられる。



第22図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)

1．C2号墳（表土除去後）　2．C2号墳（完掘）

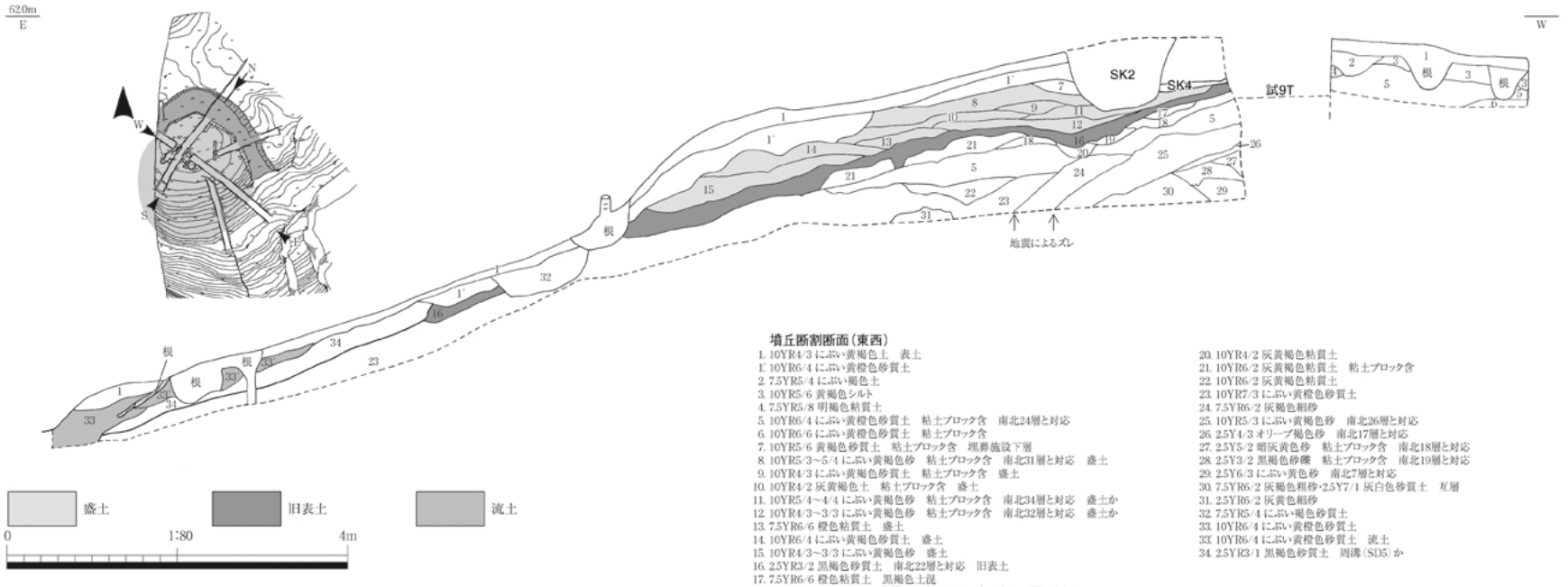


第23図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　（1/20，1/40，1/200）

1．C2号墳　SK4　2．C2号墳　SK2　3．C2号墳　SK2遺物出土状況　4．C2号墳　SD5

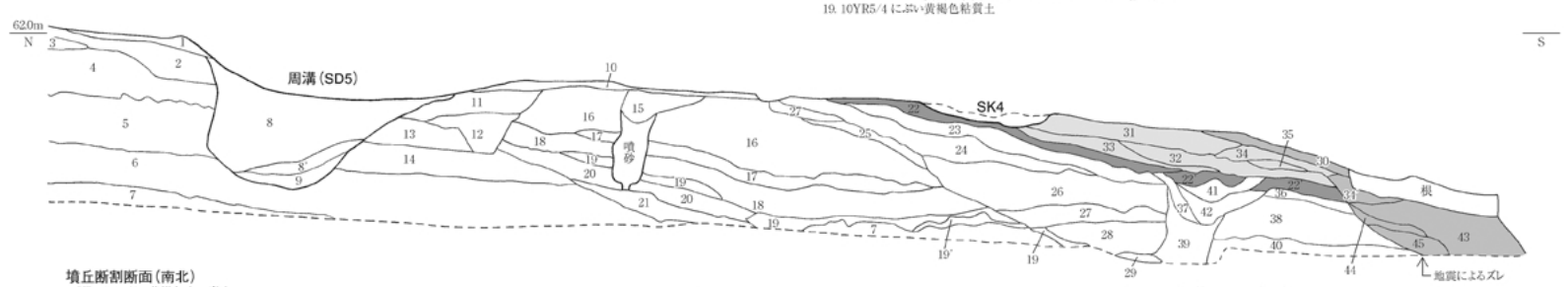
第24図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/80)

C2号墳　墳丘断割



墳丘断割断面（東西）

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　表土
1'. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色土
3. 10YR5/6 黄褐色シルト
4. 7.5YR5/8 明褐色粘質土
5. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土　粘土ブロック含　南北24層と対応
6. 10YR6/6 にぶい黄橙色砂質土　粘土ブロック含
7. 10YR5/6 黄褐色砂質土　粘土ブロック含　埋葬施設下層
8. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　南北31層と対応　盛土
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
10. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘土ブロック含　盛土
11. 10YR5/4～4/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　南北34層と対応　盛土か
12. 10YR4/3～3/3 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　南北32層と対応　盛土か
13. 7.5YR6/6 橙色粘質土　盛土
14. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質土　盛土
15. 10YR4/3～3/3 にぶい黄褐色砂　盛土
16. 2.5YR3/2 黒褐色砂質土　南北22層と対応　旧表土
17. 7.5YR6/6 橙色粘質土　黒褐色土混
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　南北23層と対応
19. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土
20. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
21. 10YR6/2 灰黄褐色粘質土　粘土ブロック含
22. 10YR6/2 灰黄褐色粘質土
23. 10YR7/3 にぶい黄橙色砂質土
24. 7.5YR6/2 灰褐色細砂
25. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　南北26層と対応
26. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　南北17層と対応
27. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　粘土ブロック含　南北18層と対応
28. 2.5Y3/2 黒褐色砂礫　粘土ブロック含　南北19層と対応
29. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂　南北7層と対応
30. 7.5YR6/2 灰褐色粗砂・2.5Y7/1 灰白色砂質土　互層
31. 2.5YR6/2 灰黄色細砂
32. 7.5YR5/4 にぶい褐色砂質土
33. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
33'. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土　流土
34. 2.5YR3/1 黒褐色砂質土　周溝（SD5）か



墳丘断割断面（南北）

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　表土
2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土
3. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂
4. 10YR5/6 黄褐色砂
5. 10YR6/6 明黄褐色砂
6. 2.5Y5/3 黄褐色砂
7. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂　東西29層と対応
8. 10YR5/6 黄褐色砂質土　粘土ブロック含（下位に多）　周溝
8'. 10YR4/2 灰黄褐色土　周溝
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　周溝
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂
11. 10YR4/4 褐色砂
12. 10YR4/3～5/3 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　20層と同一か
14. 2.5Y5/3 黄褐色砂
15. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土　粘土ブロック含　噴砂
16. 2.5Y5/4 黄褐色砂
17. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　東西26層と対応
18. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　粘土ブロック含　東西27層と対応
19. 2.5Y3/2 黒褐色砂礫　粘土ブロック含　東西28層と対応
19'. 2.5Y3/2 黒褐色砂
20. 10YR5/4～5/6 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　13層と類似
21. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含
22. 2.5Y3/2 黒褐色砂質土　東西16層と対応　旧表土
22'. 10YR4/2 暗灰黄色砂質土
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　東西18層と対応
24. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土　粘土ブロック含　東西5層と対応
25. 10YR5/2 灰黄褐色砂
26. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　東西25層と対応
27. 10YR3/4 暗褐色砂
28. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含
29. 10YR6/3～7/3 にぶい黄橙色粗砂　噴砂か
30. 10YR5/4～4/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　流土か
31. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　東西8層と対応 盛土
32. 10YR4/3～3/3 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　東西12層と対応 盛土
33. 10YR5/4～5/6 黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
34. 10YR5/4～4/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　東西11層と対応　盛土
34'. 10YR5/3～4/3 にぶい黄褐色砂
35. 10YR5/4～4/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
36. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含
37. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　地震による崩落土
38. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　26層と同一か　炭化物やや多く含
39. 10YR4/2 灰黄褐色砂　噴砂か　地震による地割・崩落土
40. 2.5Y5/3 黄褐色砂
41. 10YR4/3～4/2 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　地震による崩落土
42. 10YR3/2～3/1 黒褐色砂質土　粘土ブロック含　地震による崩落土
43. 10YR5/3～4/3 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　流土
44. 10YR4/4 褐色砂　粘土ブロック含　流土
45. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂質土　粘土ブロック含　流土

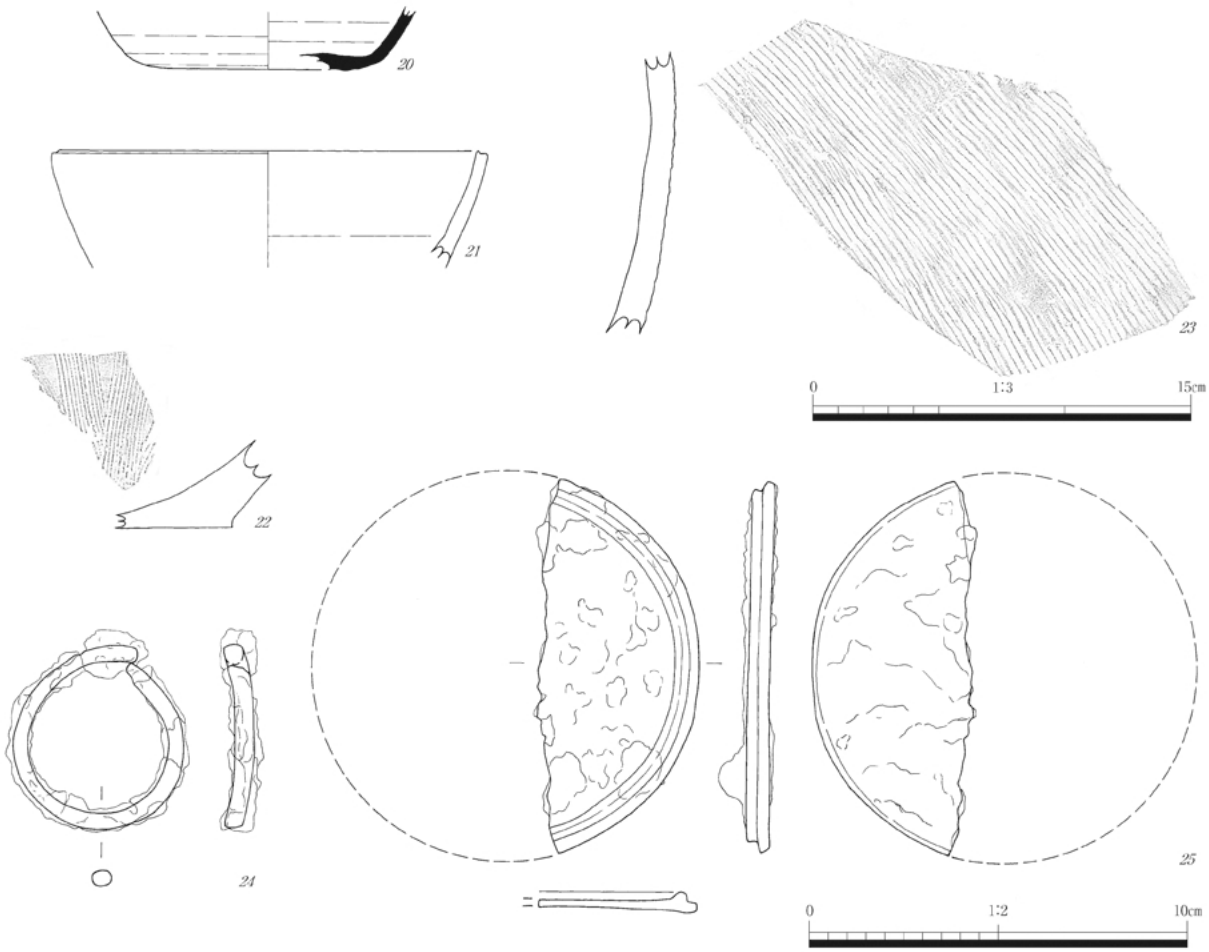
遺物（第25図，図版32・42・45・48）

墳頂表土から珠洲，金属製品（*24*）が出土している。*24*は0.5㎝の棒を径4.5㎝の円形に曲げたもので，古墳時代より新しい時期のものである。また，Ｃ２号墳の南側20ｍの尾根で金属製品（*25*）が表土から出土している。*25*は復元径10.3㎝を測る円形板で，半分は欠損している。凸帯が巡る蓋状のものである。古墳時代より新しい時期のものであると考えられる。（杉山大晋）

注

注１　第Ⅴ章　自然科学分析「１　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　（４）須恵器の蛍光Ｘ線分析」に詳しい。

注２　第Ⅴ章　自然科学分析「１　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　（１）自然科学分析」に詳しい。
ＡＭＳ法による分析で，３つの資料の暦年較正結果がcalAD1042－1209，calAD1043－1213，calAD1050－1223となり，いずれも11世紀中頃～13世紀前半を示す値であった。



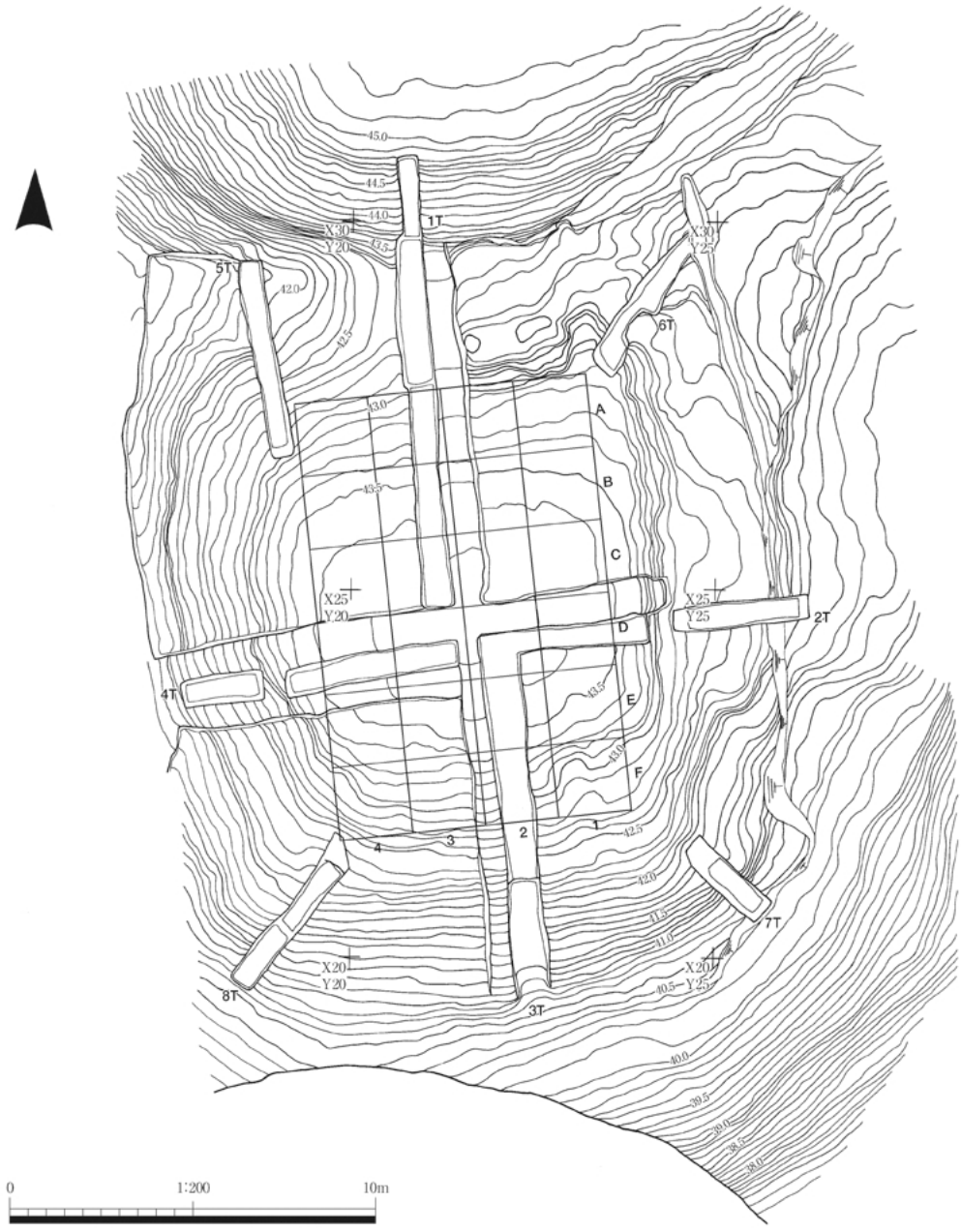
第25図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　（*24*・*25*　1/2，*20*～*23*　1/3）
C2号墳　尾根

（５） 板屋谷内Ｃ４号墳

Ｃ１号墳から南西に延びる尾根上に位置し，標高は44ｍを測る。Ｃ４号墳の南側，Ｃ５号墳が存在していたと思われる尾根先端部は工事により削平されており，急斜面となっている。また，東側は階段状の削平を受けているが，墳丘への損傷は少なく全体としては墳丘形状をよく残す。墳丘の形状及び規模，周溝の有無の確認のため８本のトレンチを設定したが，このうち１・３トレンチは確認調査時のトレンチを延長した。

墳丘（第26～28図，図版20～22）

南・東側は削平されており，西側は調査区外となるが，一辺18ｍの方墳と推定した。平面形は隅丸方形を呈する。現存での比高差は，南側墳裾から墳頂までで９ｍ，北側周溝底から墳頂までで４ｍを測り，尾根の原地形を利用した墳丘である。墳丘は地山削り出しによる整形の上，南側の尾根の傾斜



第26図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)
C4号墳（表土除去後）

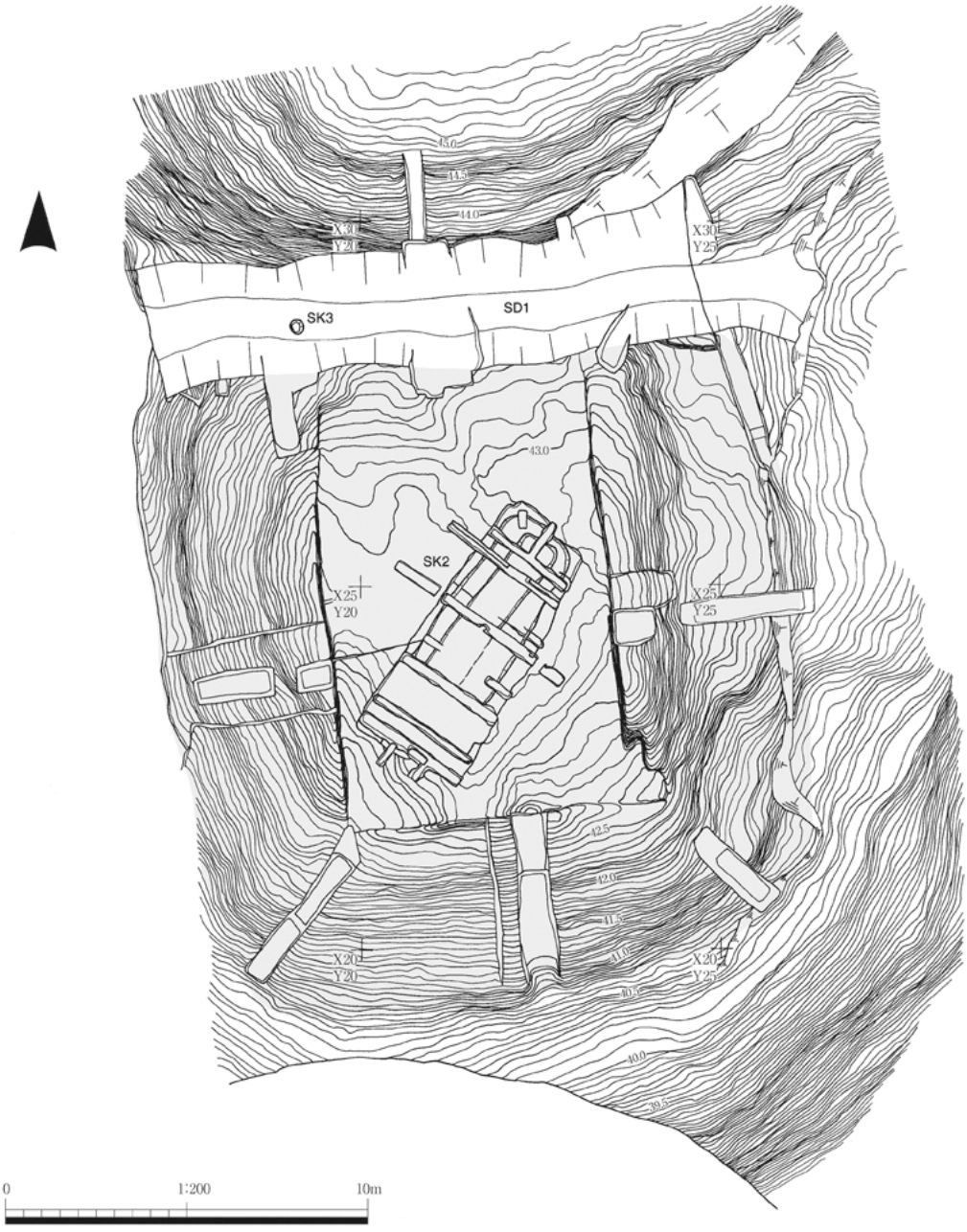
分を補うように盛土が施される。墳丘断割断面では，２段の階段状の地山削り出し面が確認でき，下段削り出し面に沿って平坦面を意識した盛土を施している。盛土は，炭化物・ブロック土を含み，周溝掘削による排土と整地土を使用したものとみられる。段築・埴輪等の外表施設は認められない。

周溝（ＳＤ１，第30図，図版22）

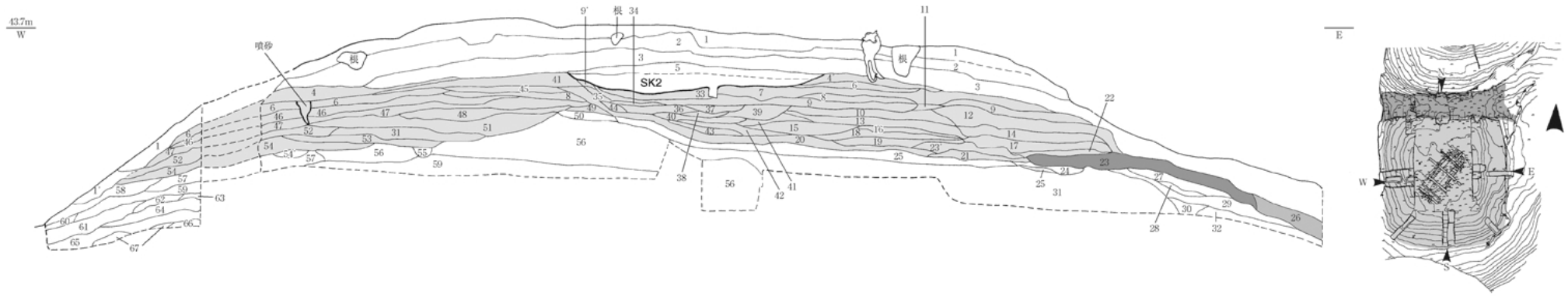
墳丘北側に尾根を断ち切る不定形の溝があるが，全周はしない。尾根を深く切り込むが，尾根上段側は崖面状に削平されており正確な平面プランは確認できなかった。幅４～4.5m，深さ0.7mを測り，断面形は半円形を呈する。埋土は黒褐色土を主体とし，最下層あるいは底面直上から土師器がまとまって出土している。

埋葬施設（ＳＫ２，第29図，図版21）

墳頂部のほぼ中央に位置し，主軸はＮ－37°－Ｅで，北東に向く。墓坑底部のみを検出しており，

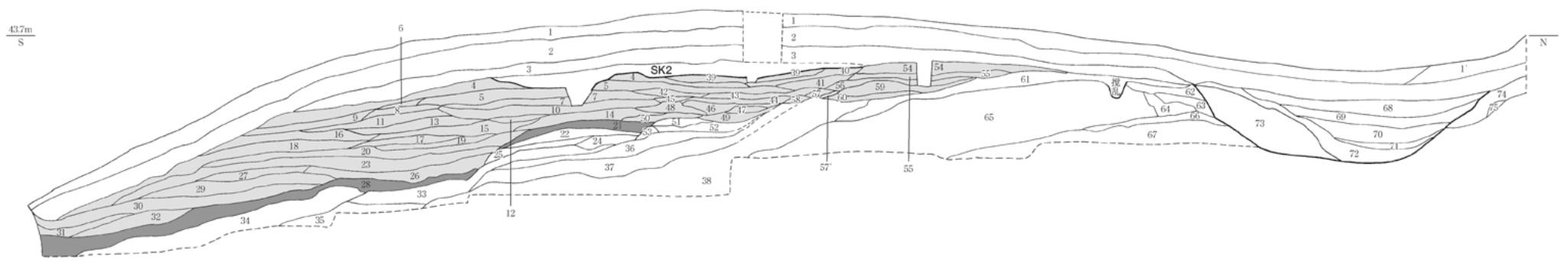


第27図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)
C4号墳（完掘）



墳丘断割断面（東西）

1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土　南北1層と対応
1'. 10YR4/4 褐色砂質土　表土
2. 10YR4/4 褐色砂　南北2層と対応
3. 10YR5/6～4/6 黄褐色砂　南北3層と対応
4. 10YR4/4 褐色砂質土　盛土
4'. 10YR4/4 褐色砂　盛土
5. 10YR4/4 褐色砂　埋葬施設（SK2）
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　盛土
7. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂　炭化物含　盛土
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　南北4層と対応
9'. 2.5Y4/2～4/3 暗灰黄色砂　盛土
10. 10YR4/2 灰黄褐色砂　炭化物含　盛土
11. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　盛土
12. 10YR4/2 灰黄褐色砂　盛土
13. 2.5Y4/3～4/2 オリーブ褐色砂　盛土
14. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂　盛土
15. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
16. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
17. 7.5YR4/3 褐色砂　炭化物含　白色礫含　盛土
18. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　白色礫含　盛土
19. 10YR4/4 褐色砂　南北47層と対応　盛土
20. 10YR4/2 灰黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
21. 10YR4/3～3/3 にぶい黄褐色砂　炭化物含　盛土
22. 10YR6/6 明黄褐色砂　黒褐色砂含　盛土
23. 10YR3/2 黒褐色砂　粘土ブロック含　南北28層と対応　旧表土か
23'. 10YR3/2 黒褐色砂　盛土か
24. 10YR4/4～5/4 褐色砂　黒褐色砂含
25. 2.5YR5/4 黄褐色砂　南北49層と対応
26. 10YR3/3 暗褐色砂　粘土ブロック含　流土か
27. 10YR3/4 暗褐色砂　炭化物含
28. 10YR5/6 黄褐色砂
29. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　南北33層と対応
30. 7.5YR5/8～5/6 明褐色砂　地震による崩落土
31. 10YR6/8 明黄褐色砂
32. 10YR5/3～5/3 にぶい黄褐色砂　地震による崩落土
33. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　南北30層と対応　盛土
34. 2.5Y5/2～5/3 暗灰黄色砂　白色礫含　盛土
35. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　盛土
36. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　炭化物含　南北5層と対応　盛土
37. 10YR4/3 褐色砂　南北42層と対応　盛土
38. 10YR4/2 灰黄褐色砂　白色礫含　南北45層と対応　盛土
39. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　炭化物含　南北43層と対応　盛土
40. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　炭化物含　南北44層と対応　盛土
41. 2.5Y6/4～5/4 にぶい黄色砂　白色礫含　南北52層と対応　盛土
42. 10YR5/4 にぶい黄色砂　盛土
43. 2.5Y5/4 黄褐色砂　南北46層と対応　盛土
44. 2.5Y5/4 黄褐色砂　白色礫含　盛土
45. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　粘土ブロック含　盛土
46. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　炭化物含　盛土
47. 2.5Y4/3～4/4 オリーブ褐色砂　盛土
48. 2.5Y5/2～4/2 暗灰黄色砂　盛土
49. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　粘土ブロック含　盛土
50. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　盛土
51. 2.5Y6/2 灰黄色砂　白色礫含　盛土
52. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
53. 2.5Y5/3 黄褐色砂　盛土
54. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
54'. 10YR3/3 黒褐色砂　盛土か
55. 2.5Y5/4～4/4 黄褐色砂
56. 2.5Y6/2～5/2 灰黄色砂　南北38層と対応
57. 2.5Y 4/3～4/2 オリーブ褐色砂　白色礫含
58. 10YR3/4～4/4 暗褐色砂
59. 2.5Y6/2～5/2 灰黄色砂　南北65層と対応
60. 10YR3/4～3/3 暗褐色砂
61. 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂　炭化物含
62. 7.5YR5/6 明褐色砂　炭化物含
63. 2.5Y5/4 黄褐色砂
64. 10YR5/6～5/8 黄褐色砂　白色礫含
65. 2.5Y6/6～5/6 明黄褐色砂
66. 2.5Y4/6～5/6 オリーブ褐色砂　白色礫含
67. 7.5YR5/6 明褐色砂　白色礫含



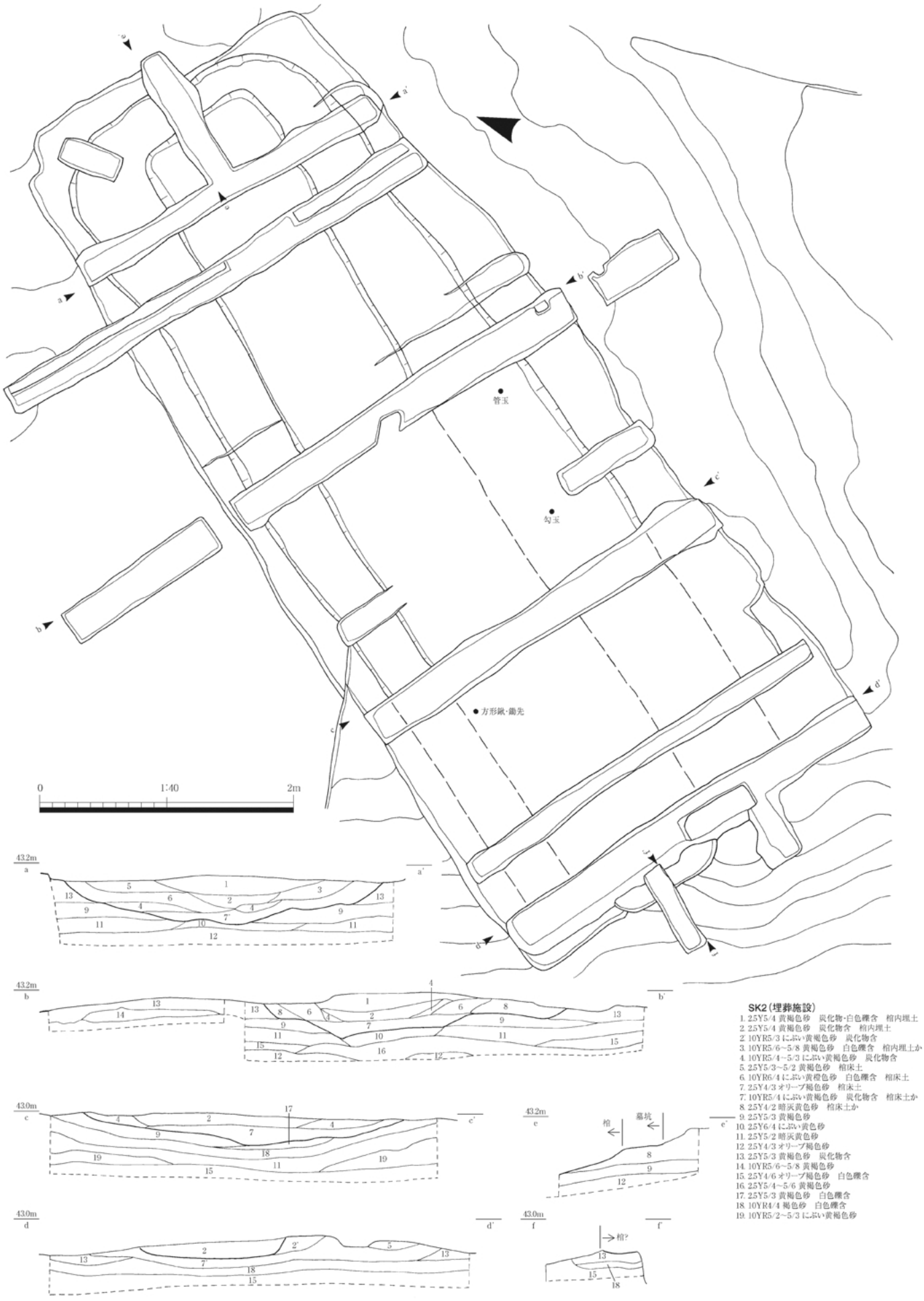
墳丘断割断面（南北）

1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土　東西1層と対応
1'. 10YR4/6 褐色砂　表土
2. 10YR4/4 褐色砂　東西2層と対応
3. 10YR5/6～4/6 黄褐色砂　東西3層と対応
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　東西9層と対応　盛土
5. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　炭化物含　東西36層と対応　盛土
6. 2.5Y5/3 黄褐色砂　盛土
7. 7.5YR4/4 褐色砂　盛土
8. 2.5Y5/3 黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
9. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂　盛土
10. 10YR4/6 褐色砂　盛土
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
12. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂　盛土
13. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂　盛土
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
15. 10YR4/4～5/4 褐色砂　盛土
16. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　盛土
17. 10YR4/4 褐色砂　盛土
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　盛土
19. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　盛土
20. 2.5Y5/3 黄褐色砂　盛土
21. 2.5Y4/3～5/3 オリーブ褐色砂　旧表土か
22. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
23. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　盛土
24. 7.5YR5/6 明褐色砂
25. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂　炭化物含
26. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　黒褐色砂混　盛土
27. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　黒褐色砂混　盛土
28. 2.5Y3/2 黒褐色砂　東西23層と対応　旧表土か
29. 10YR4/2 灰黄褐色砂　盛土
30. 2.5Y5/2～4/2 暗灰黄色砂　粘土ブロック含　盛土
31. 10YR4/4 褐色砂　盛土
32. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　盛土
33. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　炭化物含　東西29層と対応
34. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂
35. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂
36. 2.5Y6/1 黄灰色砂　粘土ブロック含
37. 2.5Y6/4～5/4 にぶい黄色砂　粘土ブロック含
38. 2.5Y5/4 黄褐色砂　東西56層と対応
39. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　東西33層と対応　盛土
40. 2.5Y4/4～4/6 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
41. 10YR5/4～5/3 にぶい黄褐色砂　盛土
42. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色砂　炭化物含　東西37層と対応　盛土
43. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　炭化物含　東西39層と対応　盛土
44. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　炭化物含　東西40層と対応　盛土
45. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂　炭化物含　東西38層と対応　盛土
46. 2.5Y5/4 黄褐色砂　東西43層と対応　盛土
47. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　炭化物含　東西19層と対応　盛土
48. 10YR4/4 褐色砂　炭化物含　盛土
49. 10YR5/2 灰黄褐色砂　炭化物含　東西25層と対応　盛土
50. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
51. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂　粘土ブロック含
52. 2.5Y5/4～4/4 黄褐色砂　炭化物・白色礫含　東西41層と対応
53. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂　白色礫含
54. 10YR5/6 黄褐色砂　炭化物含　盛土
55. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　粘土ブロック含　盛土
56. 10YR5/2～5/3 灰黄褐色砂　盛土
57. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂　盛土
57. 10YR4/4 褐色砂　盛土
58. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　炭化物含　盛土
59. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂　炭化物含　盛土
60. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　炭化物含　盛土
61. 2.5Y5/4～5/3 黄褐色砂
62. 10YR4/4 褐色細砂
63. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂
64. 10YR5/2～5/3 灰黄褐色砂　粘土ブロック含
65. 2.5Y6/2～5/2 灰黄色砂　東西59層と対応
66. 10YR5/2 灰黄褐色砂
67. 2.5Y5/4 黄褐色砂
68. 10YR3/3 暗褐色砂質土　SD1（周溝）
69. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト　SD1（周溝）
70. 10YR2/2～2/3 黒褐色砂質シルト　SD1（周溝）
71. 10YR4/3～3/3 にぶい黄褐色砂質シルト　SD1（周溝）
72. 10YR3/4 暗褐色砂質土　SD1（周溝）
73. 10YR4/4 褐色砂　SD1（周溝）
74. 10YR3/4 暗褐色砂質土
75. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂

盛土
旧表土
流土

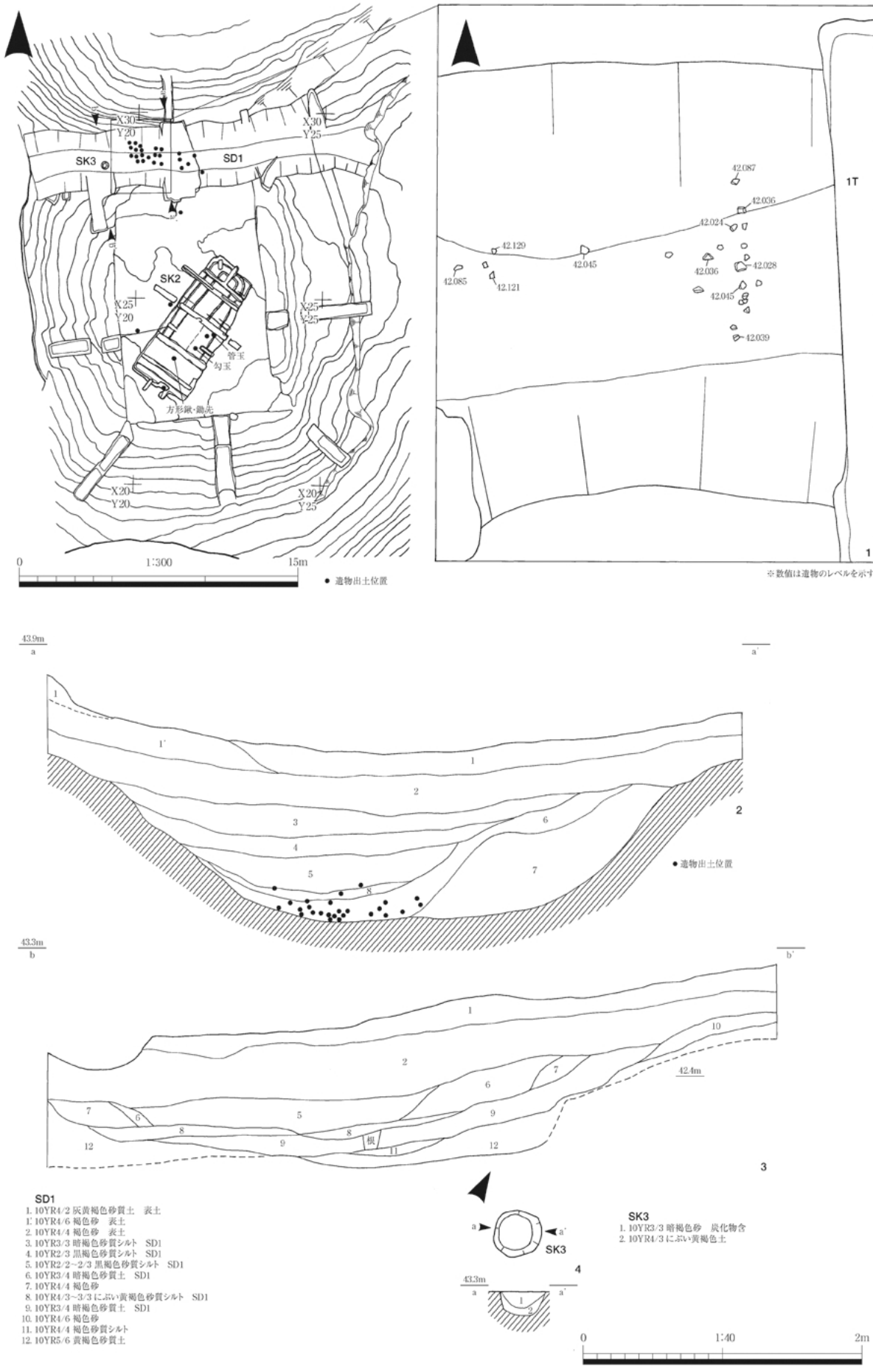
0　1:80　4m

第28図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　（1/80）
C4号墳　墳丘断割



第29図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/40)

C4号墳　SK2



第30図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/40, 1/300)

1. C4号墳　SD1遺物出土状況　2・3. C4号墳　SD1　4. C4号墳　SK3

現存長4.9m，幅2.15m，現存の棺長は4.6m，幅0.85～0.9mを測る。南側は木根の攪乱が著しく検出できなかったが，棺長は最大で７m台に収まると想定される。割竹形木棺とみられ，墓坑底部には粘土質の棺床土が北東端部で認められたが，南側は部分的で確認できなかった。棺床土が確認できなくなる地点（ｃセクション以南）から方形鍬・鋤先が出土している。この他，埋葬施設から土師器，勾玉，管玉が出土しているが，玉類は埋葬施設埋土の土壌洗浄によるもので出土状況は不明である。

出土遺物（第31図，図版29・30・35・38・45）

埋葬施設出土の遺物は，土師器，方形鍬・鋤先１点，勾玉１点，管玉１点である。土師器は小片で図示はできないが，外面ハケ，内面ケズリ・ナデ調整で，一部赤彩を施しており，棺上又は埋葬施設埋土上，墳頂に置かれたものと考える。方形板鍬・鋤先（*29*）は，折り返し部が広く幅広のもので，残存長5.3㎝，幅11.3㎝を測る。刃先は鋭利な面が残るが，全体的にはよく使い込まれたと思われる状態である。勾玉（*27*）は透明度の高い水晶製で小振りのものである。管玉（*28*）は緑色凝灰岩製で，長さ0.80㎝，径0.20㎝を測る細身のものである。勾玉・管玉とも古墳時代中期にはくだらない時期のものと思われる[注1]。

周溝出土遺物は，土師器（*26*），須恵器，金属小片がある。*26*は平底の壺底部と考える。その他の土師器片は壺を主体とし，外面ハケ，内面ケズリ・ナデで，一部に赤彩が認められる。埋葬施設出土の土師器と同様の傾向を示しており，墳頂からの転落遺物と考えられる。須恵器は周溝最下層から甕体部とみられる小片１点が出土しているが，小片のため詳細は不明である。

古墳築造時期

遺物が少なく時期を特定する決め手に欠けるが，埋葬施設出土の玉類が中期にはくだらない時期のものと考えられることと，周溝出土土器の時期により，古墳時代前期後半から前期末頃と考えられる。

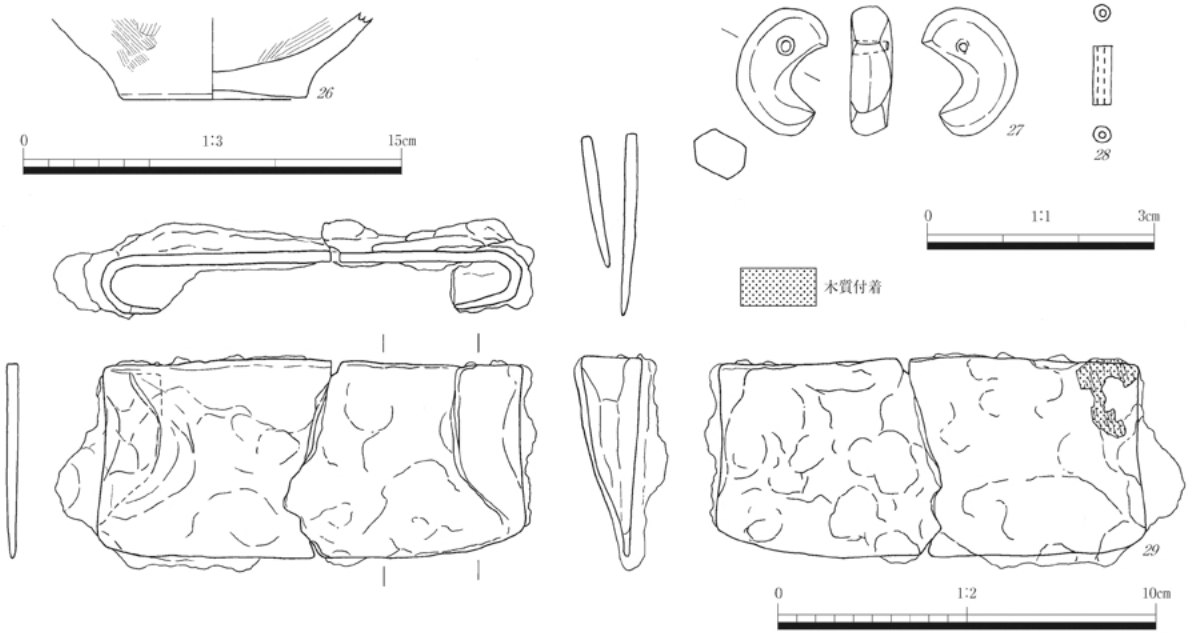
その他の遺構・遺物

３号土坑（ＳＫ３，第30図）

周溝の西端付近の底面に位置する。径0.4m，深さ0.18mの円形土坑である。埋土に小量の炭化物が混じる。古墳とのつながりをみいだせない帰属時期不明の遺構である。　（杉山大晋）

注

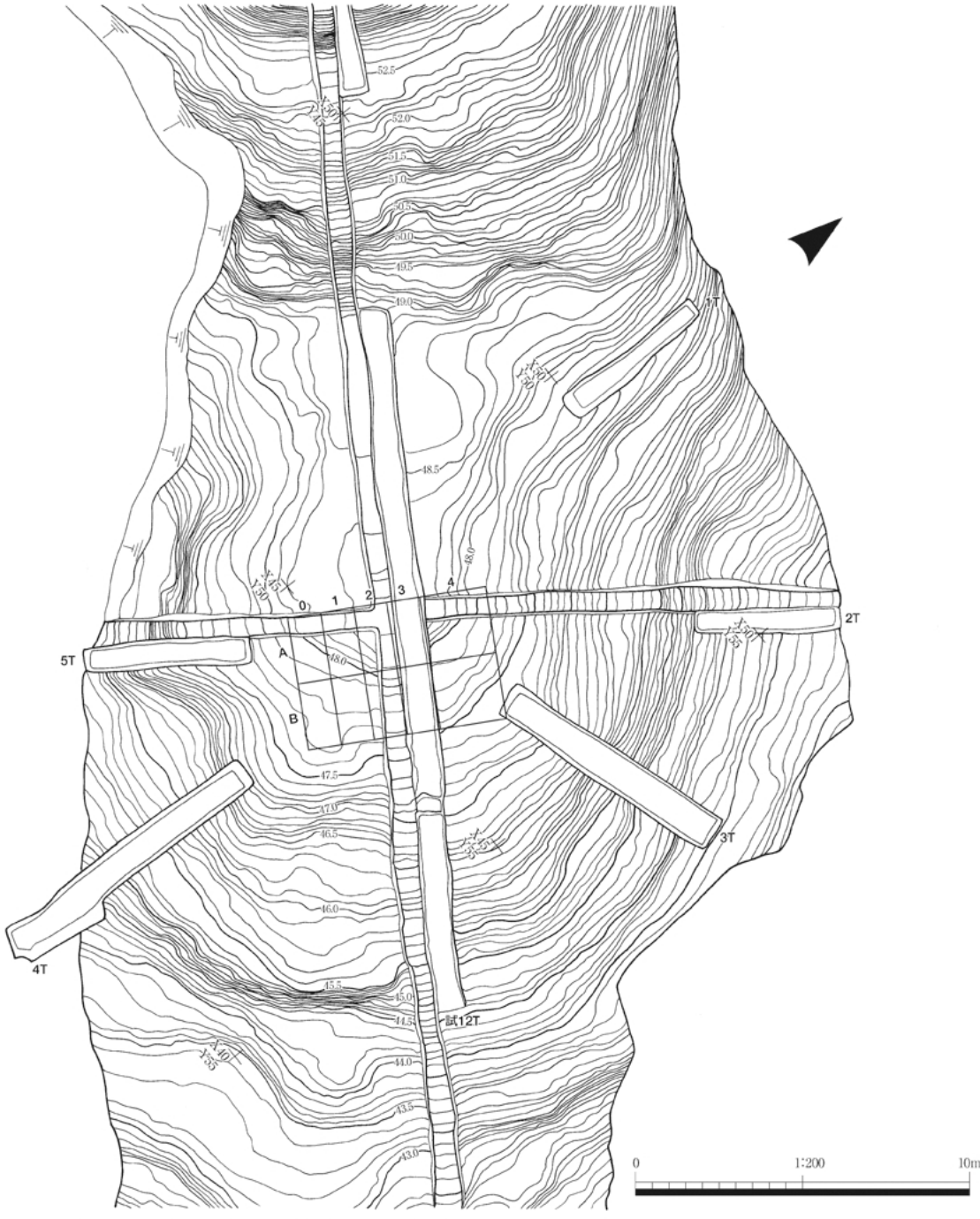
注１　大賀克彦氏の御教示による。



第31図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　（*27*・*28*　1/1，*29*　1/2，*26*　1/3）
C4号墳

（6） 板屋谷内Ｃ６号墳

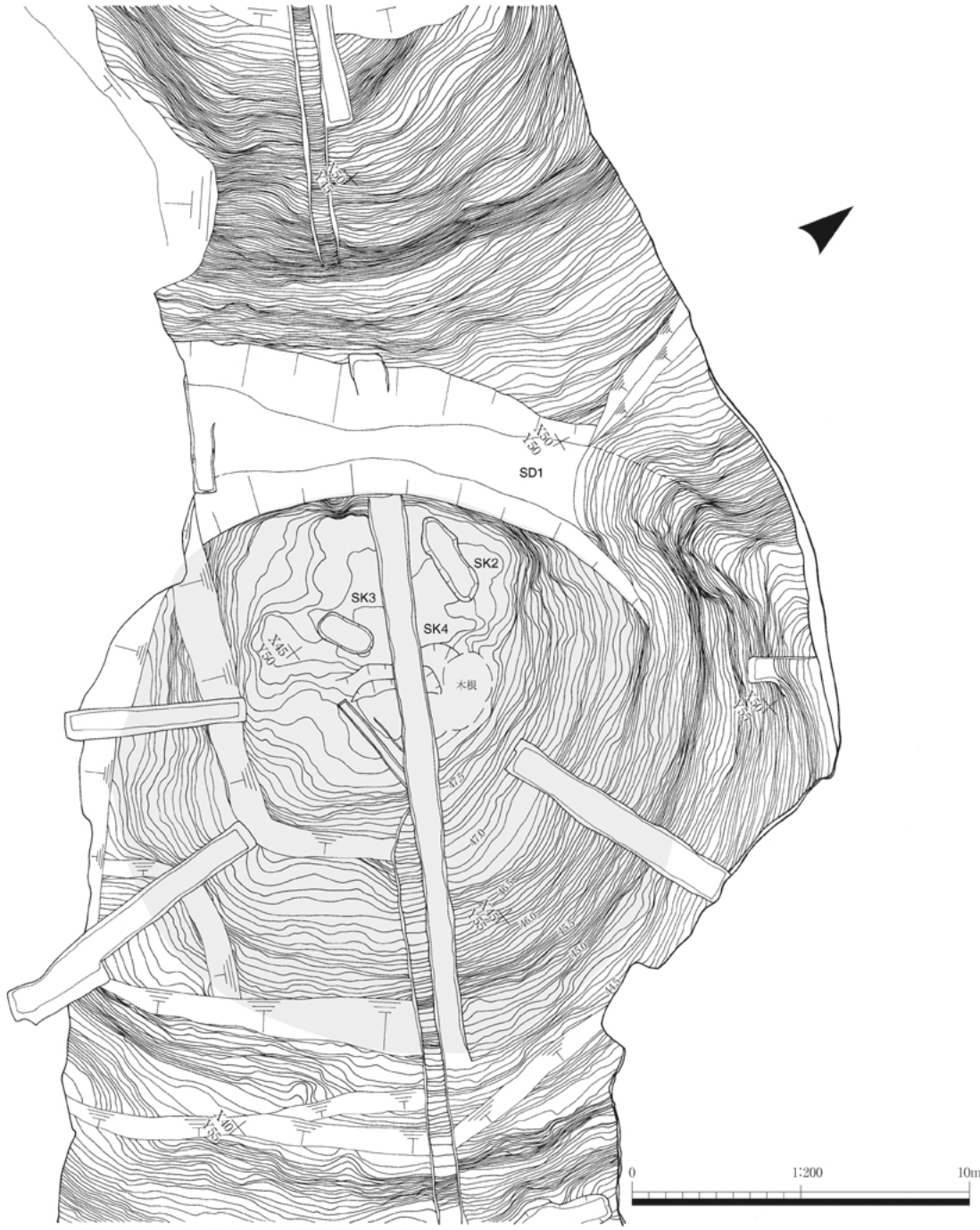
Ｃ１号墳から南東方向に派生する尾根は，北東側は板屋集落に向け開口する谷へ急激に落ち込み，南西側も岩坪方面に開く谷の急斜面になっている。Ｃ６号墳はこの急峻で狭小な尾根の中段に占地する。標高は約48.3mを測り，小矢部川方面の平野を見下ろす位置にある。Ｃ１号墳とは直線距離で約55m，比高差で約17mあり，Ｃ７号墳とは直線距離で約18m，比高差で約９mある。古墳の東側から南西側は削平により旧地形を残さないが，北東側は旧地形を残しており，Ｂ古墳群からみると綺麗な円墳にみえる。なお，墳丘の形状・規模，周溝の有無の確認のため４本のトレンチを設定した。



第32図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)
C6号墳（表土除去後）

墳丘（第32・33・43図，図版23・24・26）

北西側（Ｃ１号墳側）の尾根を断ち切るような周溝をもち，この溝内側から南東側（Ｃ７号墳側）の墳裾まで17mを測る円墳である。墳頂部に約８mの平坦面をもち，溝底面と墳頂部の比高差約0.6m，南東側墳裾と墳頂部との比高差約3.5mを測る。墳頂部から北西側は表土層直下に地山層がみられるが，南東側は盛土とみられる層が旧表土上層に最大で0.8m認められた。盛土は地山である明黄褐色砂質土及び旧表土とみられる黒褐色シルト・黒褐色砂質シルト等の混土を中心としている。盛土からの出土遺物はない。



第33図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)
C6号墳（完掘）

周溝（ＳＤ１，第43図，図版25）

Ｃ１号墳側の尾根を断ち切り，溝としているが全周しない。古墳築造時のものと考えるが，埋土上層から中世の遺物が出土しており，中世段階で手が加えられている可能性がある。検出面での幅4.0ｍ，深さ1.1ｍを測り，断面形は逆台形を呈す。埋土は３層に分かれ，１層は黄褐色砂質土，２層は黄褐色砂質土・黒褐色砂質シルト混じりの暗褐色砂，３層は黒褐色砂質シルトである。１層及び２層からは中世土師器片，銅銭及び刀子とみられる鉄製品が出土している。

埋葬施設（ＳＫ４，第34・35図，図版25・26）

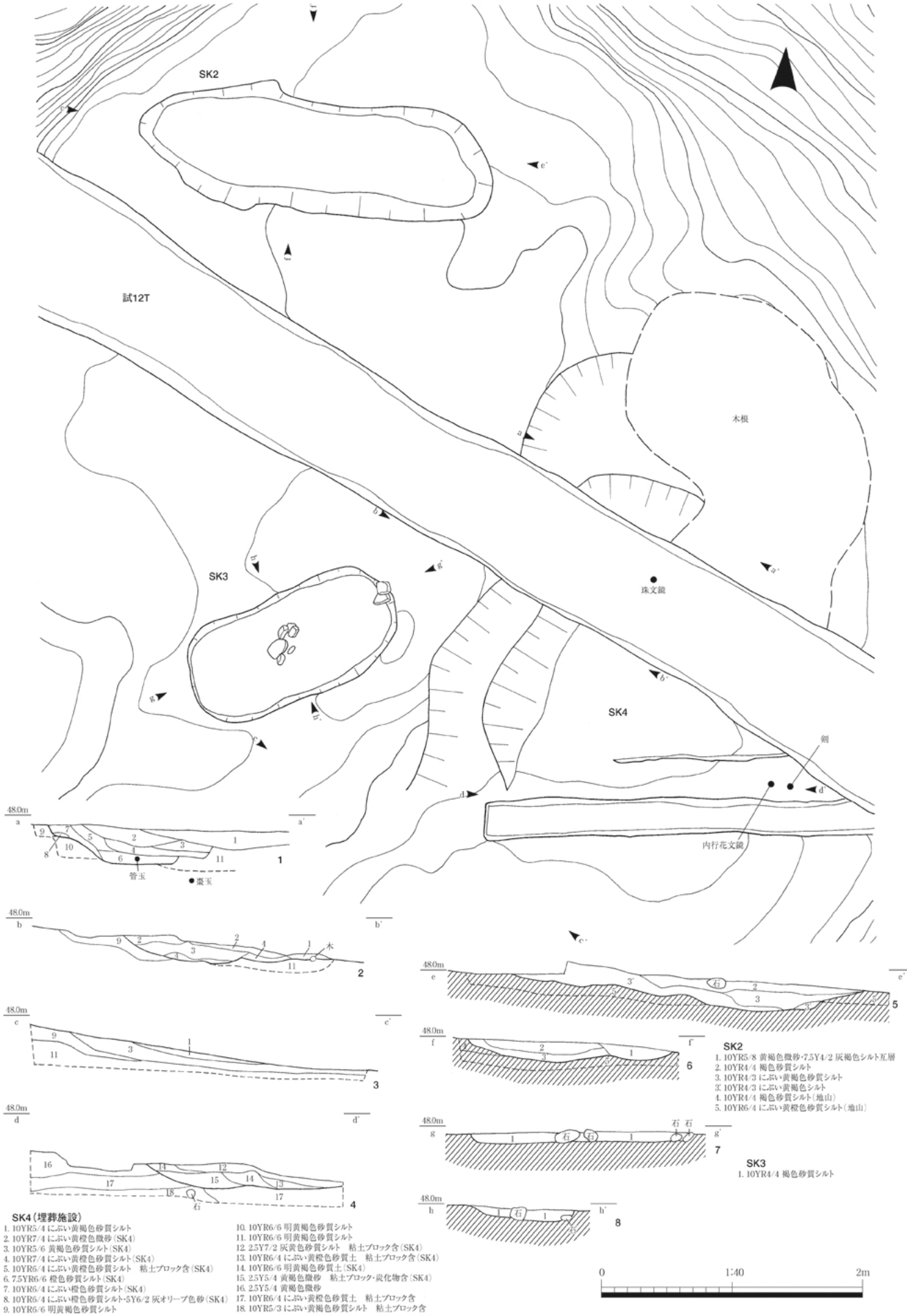
墳丘中心よりやや北西側に偏った位置で落ち込みを検出した。表土層の流失，樹木の根荒らし等により遺構の全体を把握していないが，埋葬施設（墓坑）の北西コーナーにあたるとみられ，遺物の出土状況などから墓坑の掘形と判断した。木棺直葬とみられるが平面・断面による墓坑の確認はできなかった。残存する長軸の方向はＮ－32°－Ｅで北北東に振れ，ほぼ尾根に直交する。埋土は灰黄色砂質シルト，明黄褐色砂質土，にぶい黄橙色砂質土等で，地山層である黄橙色粘土ブロックを５～30％混在する。北東部の一部で深さ0.3ｍを測るが，南東方向は徐々に薄くなり肩部は消失する。

副葬品とみられる銅鏡，鉄剣，玉類が出土している。銅鏡の内，珠文鏡は平成15年度の確認調査時に出土したが，不注意により出土状況を確認していない。また，玉類では管玉14点，棗玉111点，ガラス管玉１点，ガラス小玉３点，琥珀玉２点の出土原位置を記録したが，その他は確認トレンチの埋め戻し土及びＳＫ４埋土の土壌を洗浄したことにより確認された。古墳表土，盛土等Ｃ６号墳に係る全ての土壌を洗浄したが，ＳＫ４とした地点以外での玉類の出土はない。出土状況の明らかな遺物は，1.5ｍ×3.4ｍの範囲に散逸して出土していること，垂直レベルで46㎝の高低差があること等から，上層の流失・樹木の根荒らし等により埋葬時の原位置は失われているものとみられる。内行花文鏡と鉄剣は，珠文鏡出土地点から約２ｍ東南の表土直下で出土した。内行花文鏡は鏡背面を上に向け，４点の破片で出土しており，２点の破片は若干離れて同レベルで，１点は大きな破片の下３㎝から出土している。鉄剣は内行花文鏡から東に10㎝の地点で鏡と同レベルで，刃部を立て，切先を南側に向けた状態で出土している。

出土遺物（第36～42図，図版33～36・38～41・45～47）

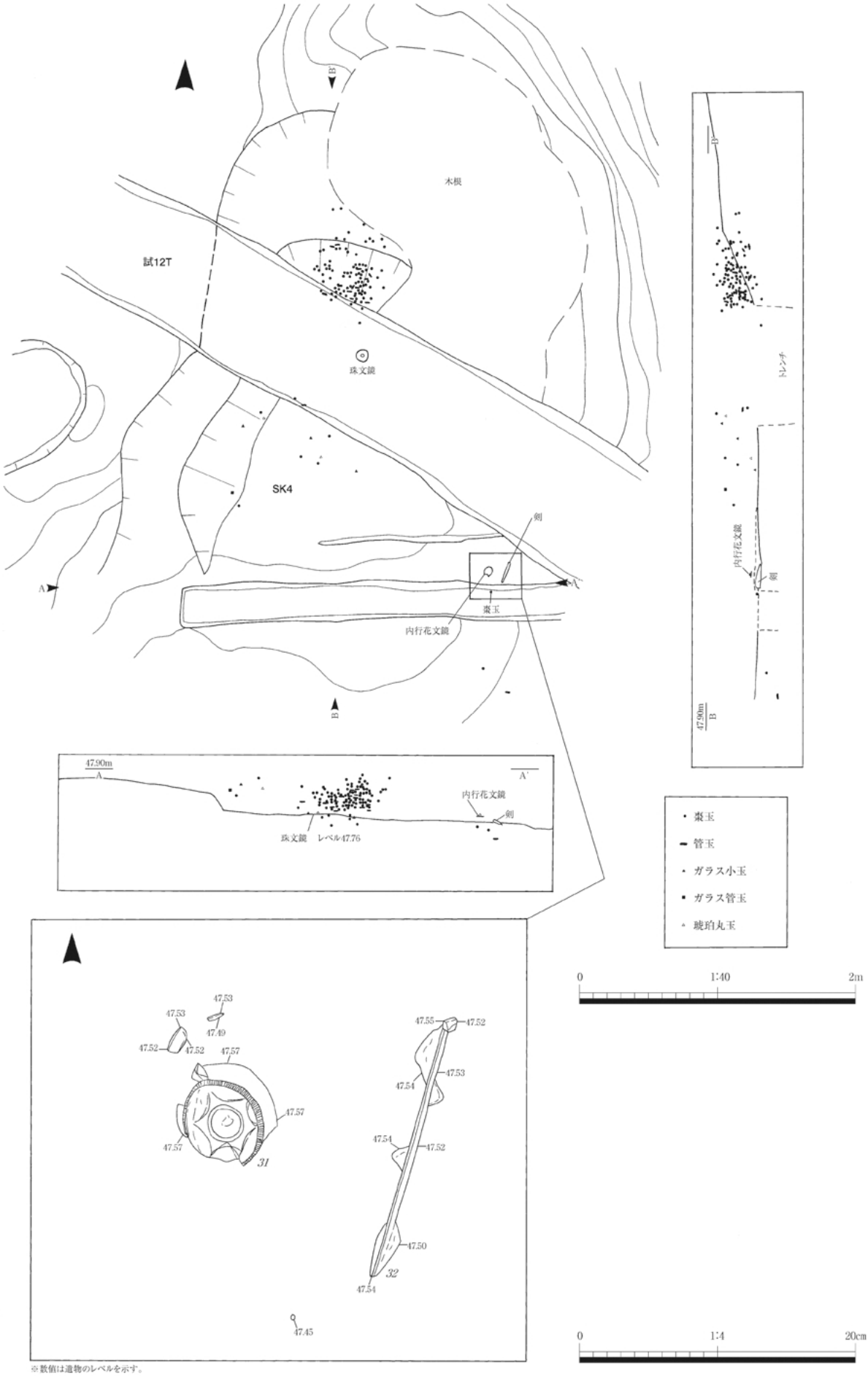
埋葬施設にともなう出土遺物は，銅鏡２面，鉄剣１振り，勾玉３点，管玉27点，棗玉234点，丸玉２点，ガラス管玉１点，ガラス小玉15点がある。土器類は表土層から古墳時代とみられる小破片１点が出土しているが，摩耗が著しく詳細な時期等は不明である。

銅鏡は珠文鏡（*30*）と内行花文鏡（*31*）の２面がある。*30*は四区画珠文鏡である。直径9.3㎝，厚さ0.3㎝，鈕の高さ1.0㎝，重さ108.31ｇを測る。鏡背文様は外から平縁・鋸歯文・円圏・珠文帯・円圏・鈕座である。平縁は僅かに凹み，縁の稜は鋭さがなく柔らかい。珠文帯は隆線で放射状に４区に区画され，２本１組の補助線を鈎状に入れて珠文を配す。線・珠文は比較的鮮明である。珠文は１区画に３列18個を配すが，１区画だけ19個ある。鋸歯文帯から鈕座まで赤色顔料[注1]が付着しているが，鈕・鈕口・縁には認められない。また，蛍光Ｘ線分析においても鈕及び顔料の付着していない部位に関しては，水銀は認められず，鉄分の含有量も極端に少ない。これらのことから，赤色顔料・ベンガラは当初から珠文鏡の内区文様帯にのみ塗布されていたものと考えられる[注2]。鏡面は現況では一部に緑青がみられるが，白銀色を呈し，僅かな光沢を放ち，遺存状態は良好である。紐ズレがみられるほか，鏡面には擦痕が認められる。なおＸ線写真によると，19個珠文帯の対角の区画の縁から鋸歯文帯にかけて約１㎝の不整形な円があり，鋳直しとみられる。*31*は六弧内行花文鏡である。直径6.9㎝，



第34図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/40)

1～4．C6号墳　SK4　5・6．C6号墳　SK2　7・8．C6号墳　SK3

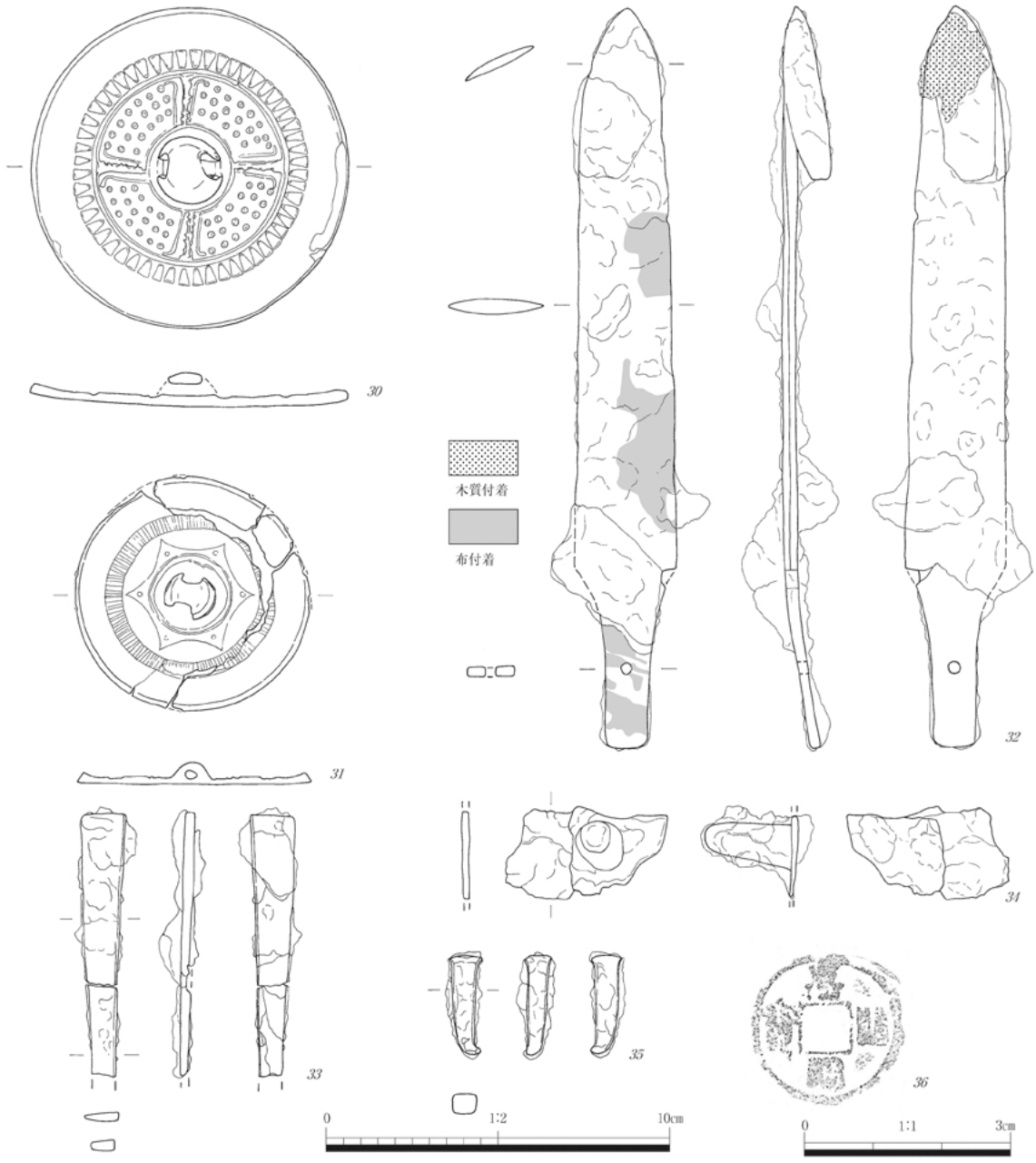


※数値は遺物のレベルを示す。

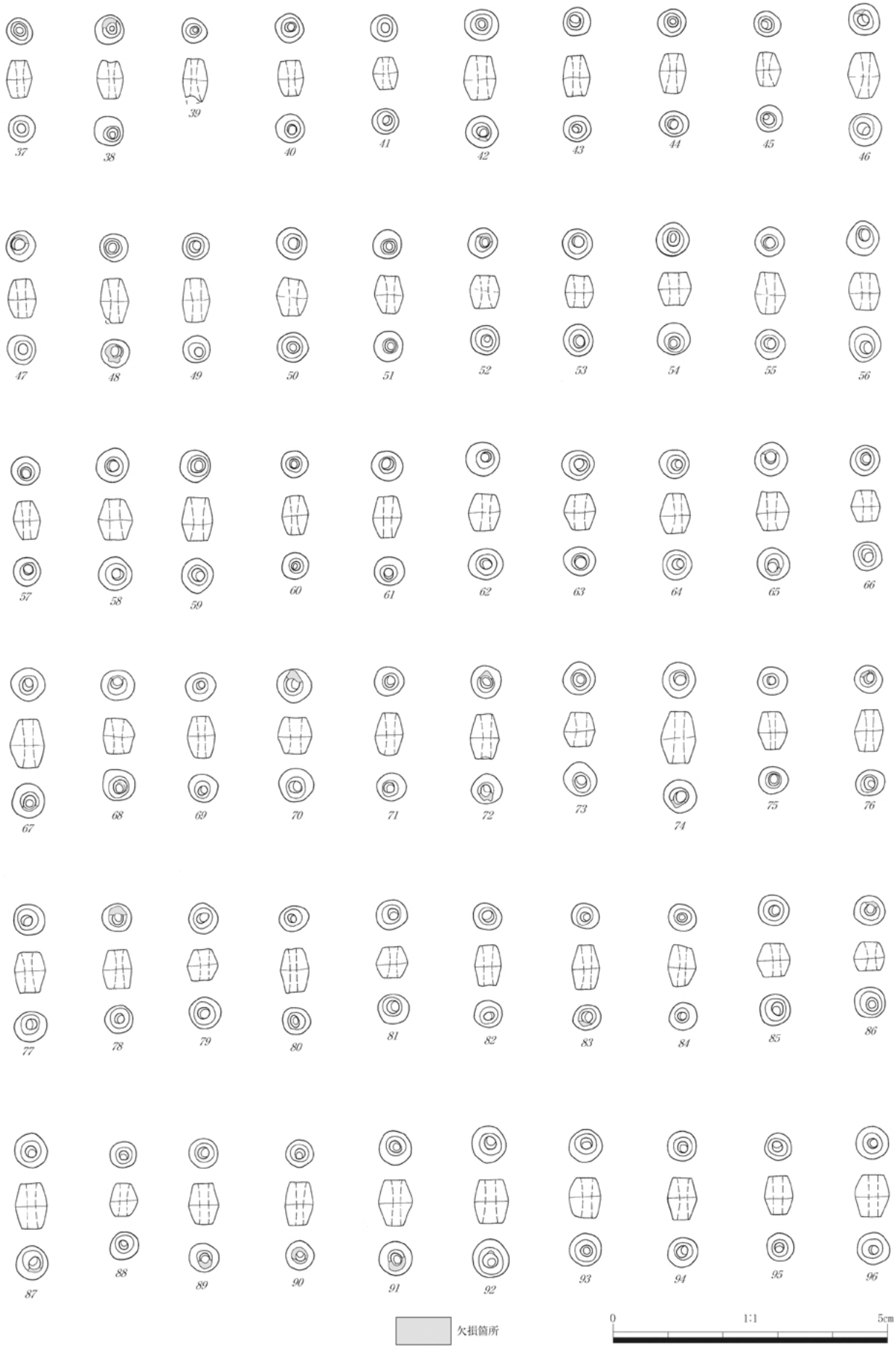
第35図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/4，1/40)
C6号墳　SK4遺物出土状況

厚さ0.2㎝，鈕の高さ0.6㎝，重さ18.67ｇを測る。鏡背文様は外から平縁・櫛歯文・花文・円圏（二重）・鈕座である。花文は６花文で，花文間に１粒の珠文を配す。鏡面，鏡背ともに緑青等による腐食が著しく，遺存状態は極めて悪い。*32*は短茎式の短剣または剣形武器とみられ，長さ21.6㎝，刃部の長さ16.3㎝，最大幅2.8㎝を測る。茎部のほぼ中央に0.3㎝の目釘孔がある。身と茎に布の痕跡がみられるが、織り目の細かさの違いから、それぞれ別の布を巻いていたと考えられる。刃部先端の一部には剣身と平行する木質を残している。腐食が進んでいるが，比較的遺存状態は良好である。

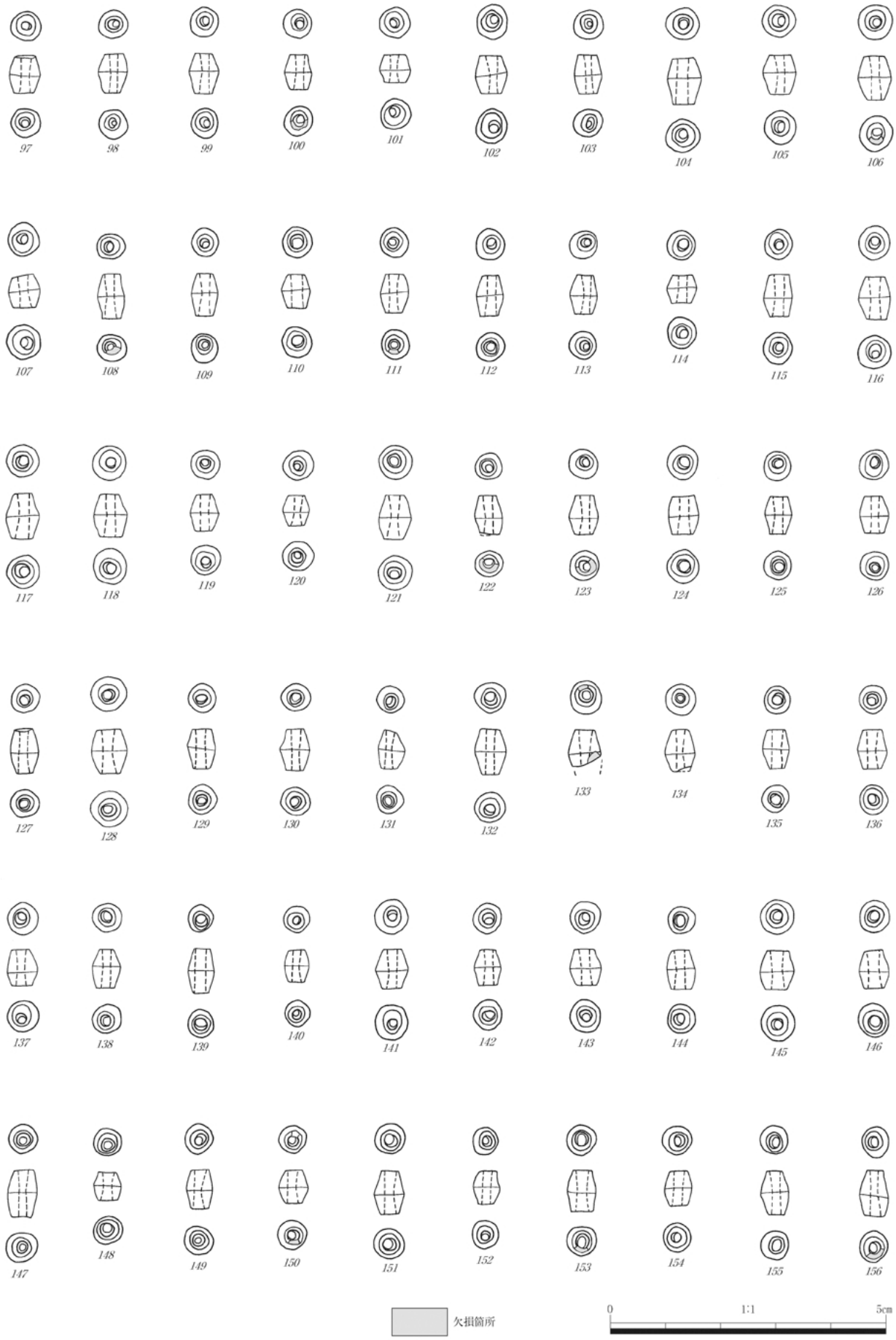
棗玉は234点（*37*～*270*）出土しており，石材は滑石系である。法量は長さ0.45～0.95㎝で平均0.71㎝，幅0.45～0.65㎝で平均0.52㎝，上下面径0.25～0.45㎝で平均0.34㎝，重さ1.5～4.8ｇで平均2.6ｇを計測する[注3]。法量にバラツキがみられるが，色調は全て淡い緑色と灰白色の斑模様である。管玉は27点（*271*～*297*）出土している。石材は*289*が滑石系の材で，他は緑色凝灰岩製である。*289*の他に図化できなかった滑石系の管玉の小破片は，ＳＫ４南半部で数個体分が散逸して出土しており，埋葬時には滑石系の管玉が複数あったとみられる。法量は*271*が最大で長さ3.20㎝，径0.55㎝，重さ1.75ｇあり，



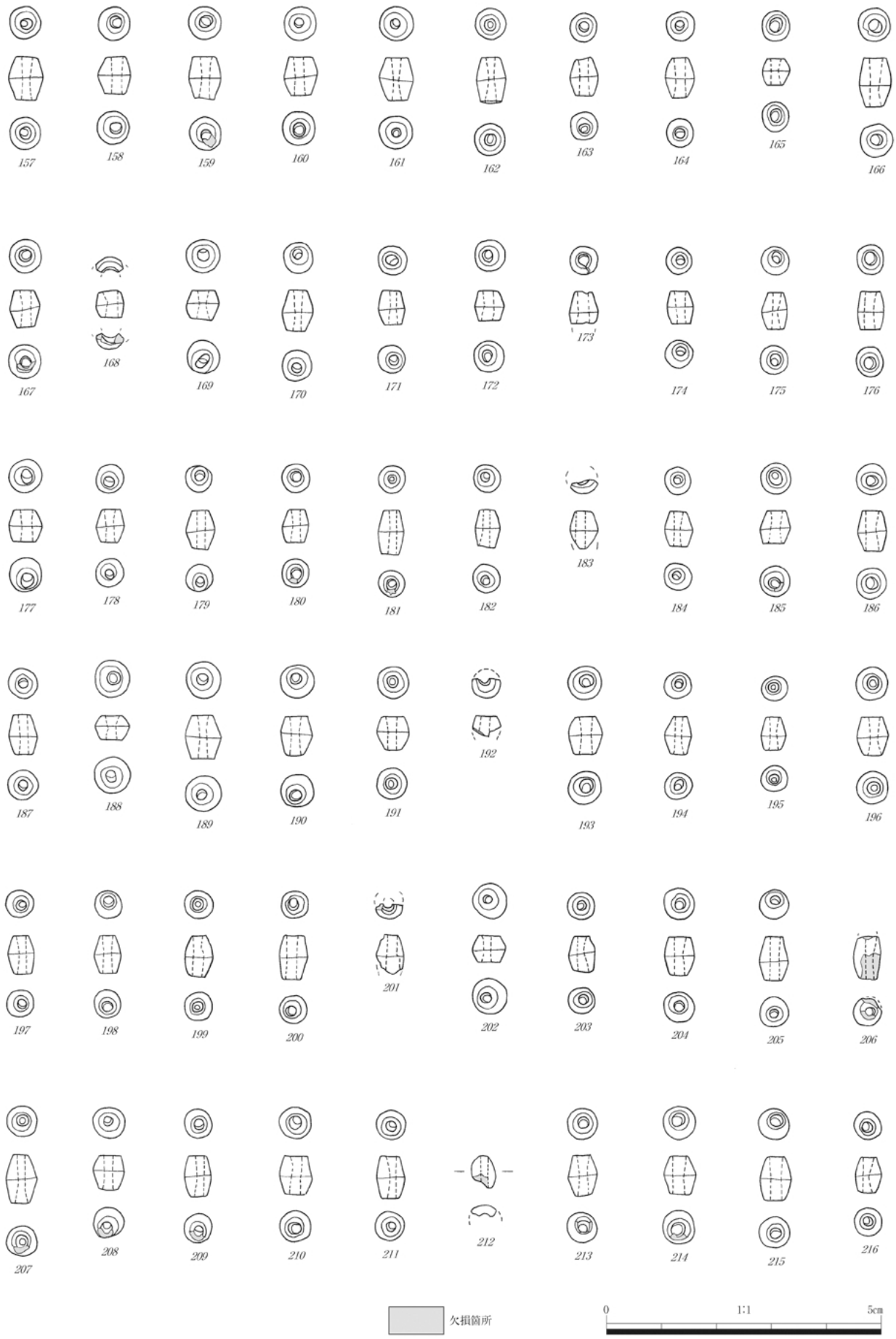
第36図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　（*36*　1/1，*30*～*35*　1/2）
C6号墳



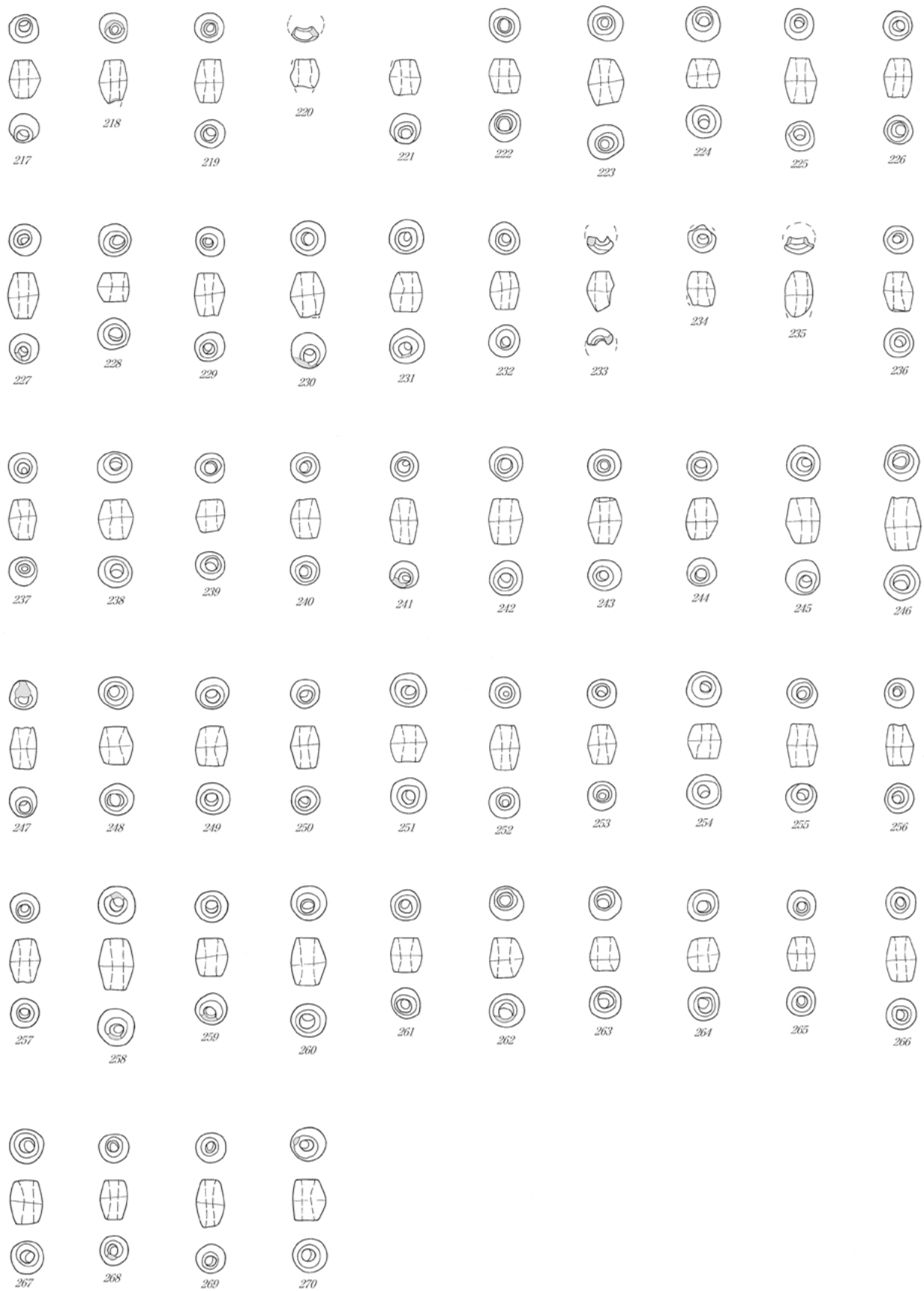
第37図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　(1/1)
C6号墳



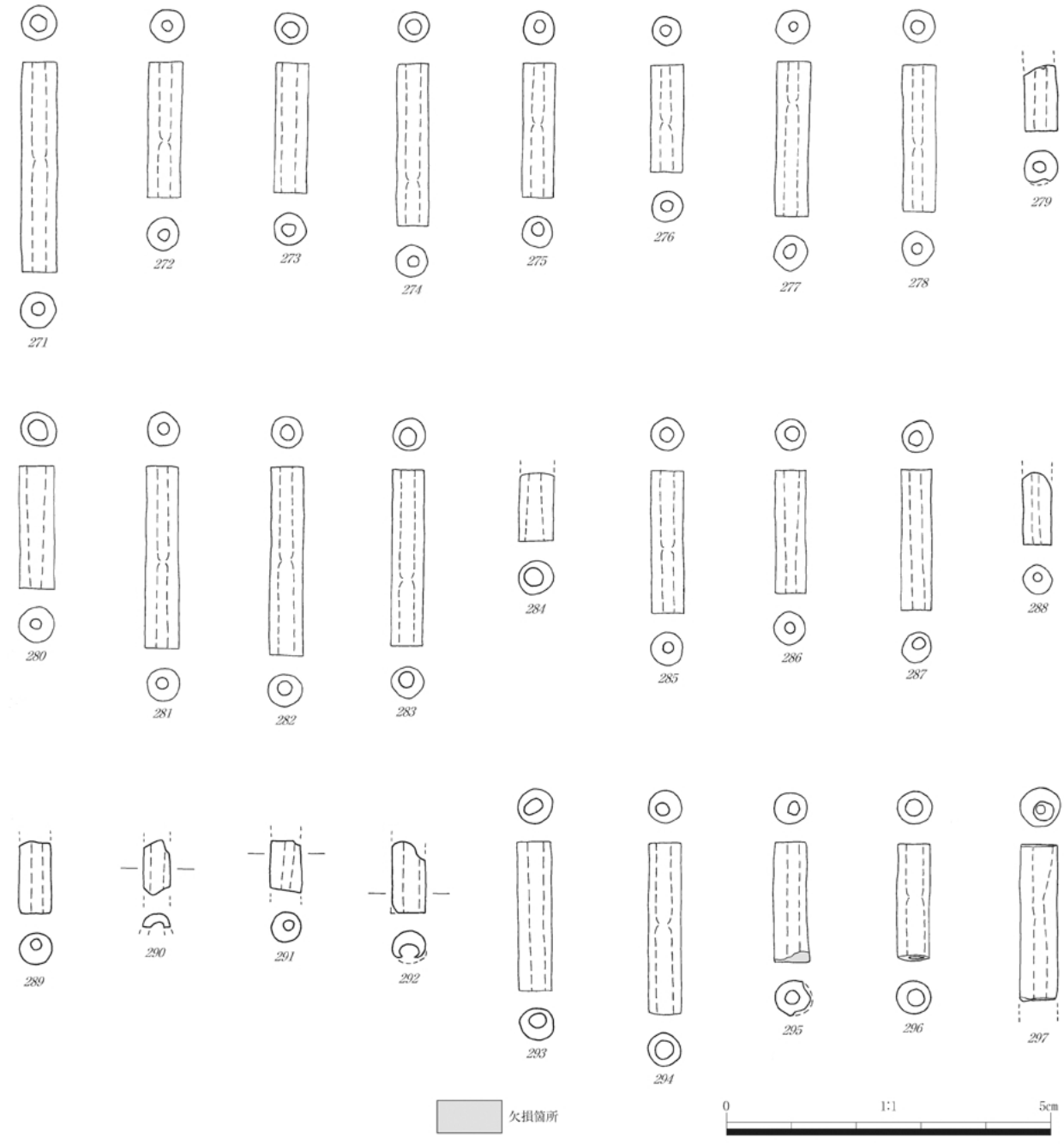
第38図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　(1/1)
C6号墳



第39図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　(1/1)
C6号墳

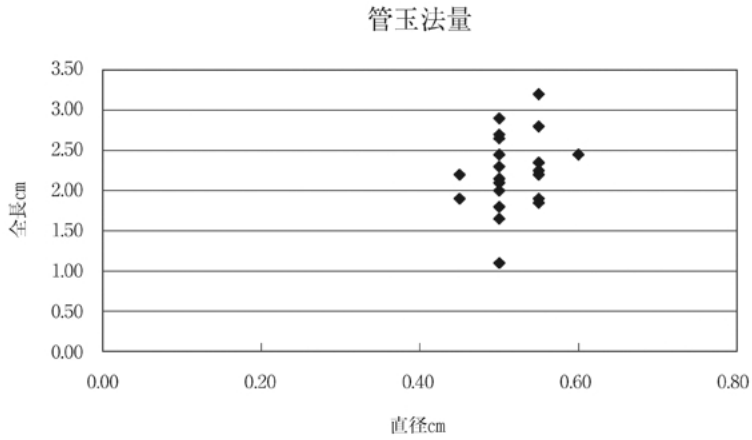


第40図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　(1/1)
C6号墳



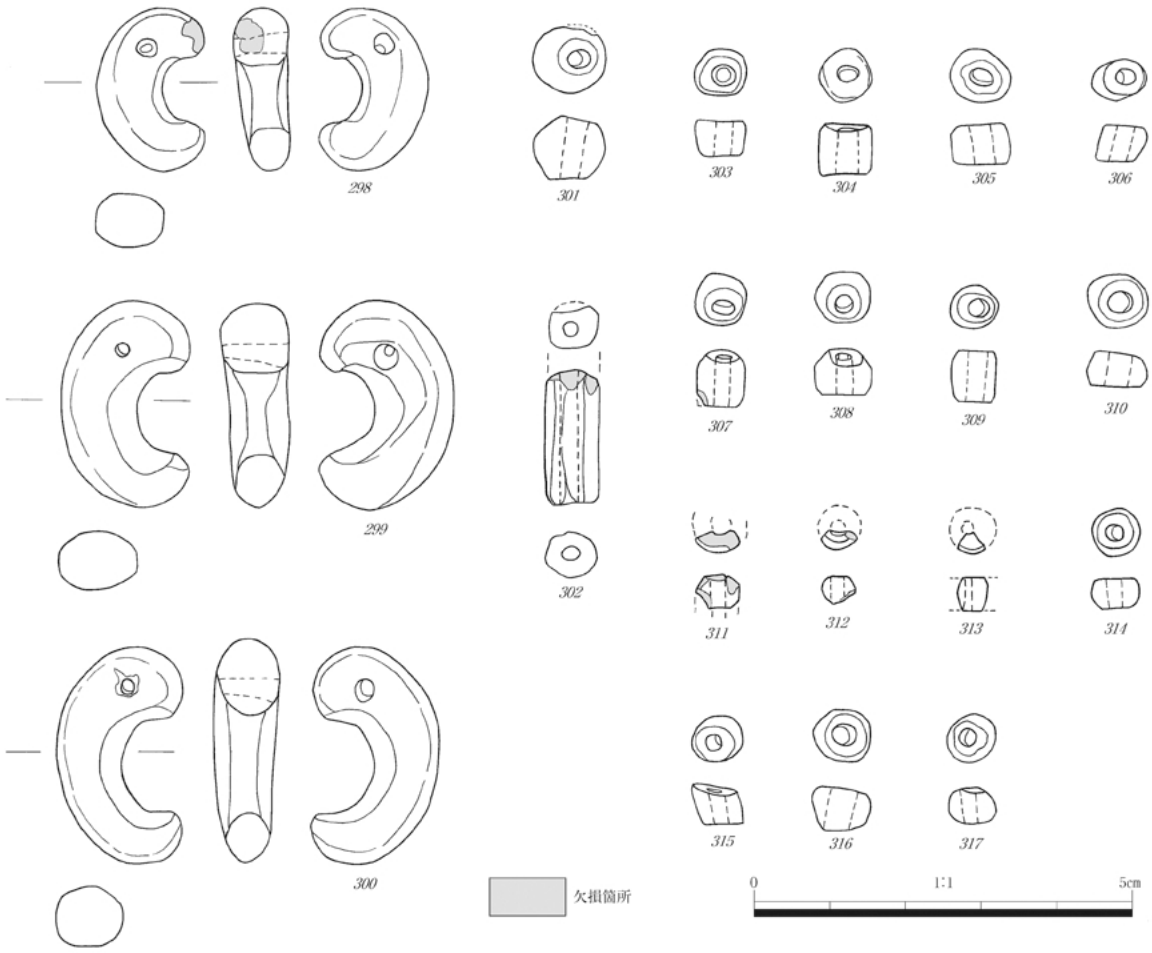
第41図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　(1/1)
C6号墳

遺物番号	直径(cm)	全長(cm)
271	0.55	3.20
272	0.50	2.10
273	0.50	2.00
274	0.50	2.45
275	0.50	2.15
276	0.50	1.65
277	0.55	2.35
278	0.55	2.25
280	0.55	1.90
281	0.55	2.80
282	0.50	2.90
283	0.50	2.70
285	0.55	2.20
286	0.45	1.90
287	0.45	2.20
289	0.50	1.10
293	0.50	2.30
294	0.50	2.65
295	0.55	1.85
296	0.50	1.80
297	0.60	2.45
計	11.30	44.45
平均	0.54	2.17



第５表　板屋谷内C６号墳　出土管玉法量一覧

最も小さい*289*で長さ1.10㎝，径0.80㎝，重さ0.23ｇを測る。管玉には長さが1.65～2.30㎝のものと，2.60㎝を超える大きさの長・短２グループがある[注4]。*284*と*297*は同一個体で完形長3.5㎝を測り，出土管玉では最大のものとなる。管玉に長・短の２グループがあることから，意図的に折った可能性も指摘できる[注5]。勾玉は３点出土している。*300*は瑪瑙製である。透き通ったにぶい赤褐色から明赤褐色を呈し，不透明な暗赤褐色部分が斑模様となっている。*299*は翡翠製で，プロポーションは均整のとれたＣ字または逆Ｃ字を呈し，金属工具による片面穿孔である。全体に透明感のない灰白色から緑黄色を呈し，背から片側にかけて褐色の斑模様があるが良質な翡翠である。*298*は滑石系石材である。プロポーションは*299*と同じだが一回り小型である。孔は両面穿孔で，片面はいびつな円形を呈している。透明感・光沢の全くない黄白色で，淡い緑色，黒色の輝石雲母等により斑模様を呈す。丸玉は２点あり，琥珀製である。*301*はほぼ完形で，長さ0.85㎝，幅1.00㎝，上下面径0.50㎝，重さ0.42ｇを測る。光沢はなく暗赤褐色を呈す。他に丸玉とみられる破片が出土しているが，小片なため図化できない。これら２点の琥珀製品の赤外吸収スペクトルおよび熱分析による産地同定の結果は，岩手県久慈市および福島県いわき市産の可能性が高いことがわかった[注6]。ガラス玉は16点（*302*～*317*）出土しており，*302*はガラス製の管玉である。小口面は欠損しており，現存長1.85㎝，径0.70㎝，重さ1.29ｇを測る。色調は透明感はなく深いコバルトブルーを呈する。*303*～*317*はガラス製の小玉である。法量は長さは0.40～0.70㎝，径は0.50～0.80㎝，重さは0.25～0.44ｇを測り，バラツキがある。平均では長さ0.54㎝，径0.69㎝，重さ0.3ｇである[注7]。色調は濃紺色を呈すが，Ｃ１号墳出土ガラス玉（*16*）と同様な水色に発色する小破片が２点ある。



第42図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　（1/1）
C6号墳

周溝からは刀子とみられる鉄製品１点（*33*）が出土している。残存長7.6㎝，最大幅1.3㎝，厚さ0.3㎝を測る。両端を欠損しているが，茎との間に段を持たない古いタイプの刀子と考えられる。出土状況からはＣ６号墳に伴う遺物かは判断できず，Ｃ１号墳からの崩落遺物の可能性がある。

古墳築造時期

埋葬施設のごく一部を検出したのみで，全体像の把握にいたっておらず，特定の時期を決めがたいが，玉類の個々の様相や組合せ，副葬品の鏡・剣・玉という組合せからみて，古墳時代前期末から中期かと考えられる。

その他の遺構・遺物

２号土坑（ＳＫ２，第34図）

墳頂平坦面に位置する。長軸2.8ｍ，短軸0.82ｍ，深さ0.24ｍを測り，平面形は楕円形を呈す。底面は平坦で，埋土は黒褐色砂質土である。摩耗した土師器片が１点出土している。時期は不明。

３号土坑（ＳＫ３，第34図）

墳頂平坦面に位置する。長軸1.7ｍ，短軸0.82ｍ，深さ0.1ｍを測る平面楕円形の土坑である。底面は平坦で，埋土は黒褐色砂質土であるが，拳大の円礫が多く含まれている。出土遺物はない。

遺物（第36図，図版38・45）

ＳＤ１の上層から中世土師器，銅銭，鏨，金属片が出土している。中世土師器は摩耗著しい小破片で，時期の判別，図化はできない。銅銭は３点出土している[注8]。*36*は嘉祐通寶で嘉祐元（1056）年初鋳の北宋銭である。他の２点は破片で全形は不明であるが，うち１点は紹聖元寶で哲宗紹聖元（1094）年初鋳の北宋銭である。鏨（*35*）は細部加工用の鏨とみられ，古墳時代より新しい時期のものと考えられる。金属片（*34*）は，薄い板に2.5㎝ほどの突起が付く座金具状のもので，古墳時代より新しい時期のものとみられる。

（菅田　薫）

注

注１　第Ⅴ章　自然科学分析「１　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　（５）鏡の分析」に詳しい。
分析報告によれば大半に黄色の強い赤橙色，一部に赤味の強い濃赤色が認められ，赤橙色部分はベンガラ，濃赤色部分は水銀朱とされる。

注２　珠文鏡が埋葬施設に副葬された時に，鏡面を上に向けて置かれ，棺床に敷かれた赤色顔料が付着したものと推定することもできるが，顔料の付着位置が限られることや，分析結果等から判断した。

注３　棗玉完形品224点を計測。

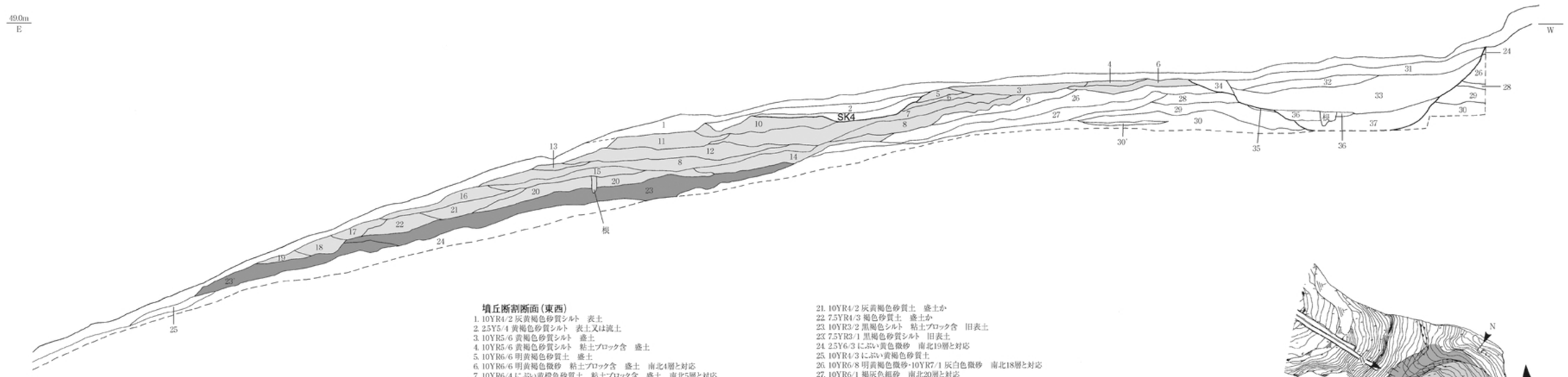
注４　管玉完形品21点を計測。

注５　黒崎　直・豊島直博・大賀克彦氏の御教示による。

注６　第Ⅴ章　自然科学分析「１　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　（３）琥珀玉の科学分析」に詳しい。
久慈市産といわき市産の琥珀は生成年代がほぼ同じで，同じ植物に由来する可能性が高いため，どちらであるかを科学分析から決定することは現時点では不可能であるとのことである。

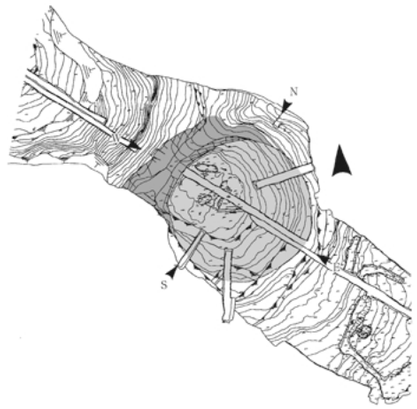
注７　ガラス小玉完形品11点を計測。

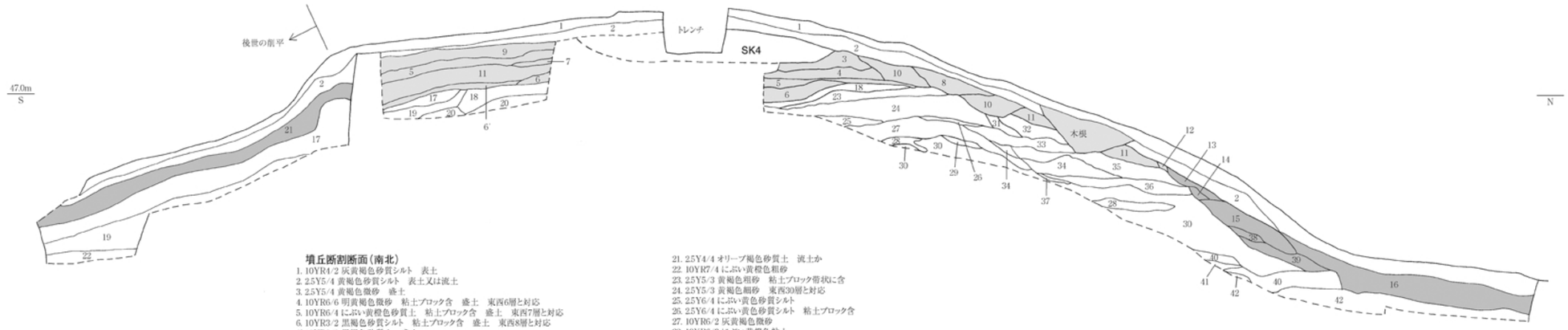
注８　永井久美男　2002『中世出土銭の分類図版』高志書院



墳丘断割断面（東西）

1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　表土
2. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト　表土又は流土
3. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト　盛土
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土
5. 10YR6/6 明黄褐色砂質土　盛土
6. 10YR6/6 明黄褐色微砂　粘土ブロック含　盛土　南北4層と対応
7. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土　粘土ブロック含　盛土　南北5層と対応
8. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土　南北6層と対応
9. 10YR5/6 黄褐色粗砂　南北17層と対応
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色微砂　粘土ブロック含　盛土　南北9層と対応
11. 10YR5/6 黄褐色砂質土　盛土　南北10層と対応
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土　南北11層と対応
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂　盛土
14. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土　盛土か
17. 10YR4/3 にぶい黄褐色微砂　盛土か
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土　盛土か
19. 10YR4/4 褐色微砂　盛土か
20. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　粘土ブロック含　盛土
21. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　盛土か
22. 7.5YR4/3 褐色砂質土　盛土か
23. 10YR3/2 黒褐色シルト　粘土ブロック含　旧表土
23' 7.5YR3/1 黒褐色砂質シルト　旧表土
24. 2.5Y6/3 にぶい黄色微砂　南北19層と対応
25. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
26. 10YR6/8 明黄褐色微砂・10YR7/1 灰白色微砂　南北18層と対応
27. 10YR6/1 褐灰色細砂　南北20層と対応
28. 10YR6/4 にぶい黄橙色微砂
29. 10YR5/6 黄褐色微砂
30. 2.5Y5/3 黄褐色細砂　南北24層と対応
30' 2.5Y3/1 黒褐色細砂
31. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土　SD1（周溝）
32. 10YR3/3 暗褐色砂　SD1（周溝）
33. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト　SD1（周溝）
34. 10YR4/6 褐色砂質土　SD1（周溝）
35. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト　SD1（周溝）
36. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト　SD1（周溝）
37. 10YR6/4 にぶい黄橙色微砂　SD1（周溝）





墳丘断割断面（南北）

1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　表土
2. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト　表土又は流土
3. 2.5Y5/4 黄褐色微砂　盛土
4. 10YR6/6 明黄褐色微砂　粘土ブロック含　盛土　東西6層と対応
5. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土　粘土ブロック含　盛土　東西7層と対応
6. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土　東西8層と対応
6' 10YR3/2 黒褐色砂質土　盛土
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土
8. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土　盛土
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色微砂　粘土ブロック含　盛土　東西10層と対応
10. 10YR5/6 黄褐色砂質土　盛土　東西11層と対応
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト　粘土ブロック含　盛土　東西12層と対応
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土　流土か
13. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト　流土か
14. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト　流土か
15. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト　流土
16. 7.5YR4/2 灰褐色砂質シルト・10YR5/4 にぶい黄褐色微砂　流土
17. 10YR5/6 黄褐色粗砂　東西9層と対応
18. 10YR6/8 明黄褐色微砂・10YR7/1 灰白色微砂　東西26層と対応
19. 2.5Y6/3 にぶい黄色微砂　東西24層と対応
20. 10YR6/1 褐灰色細砂　東西27層と対応
21. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土　流土か
22. 10YR7/4 にぶい黄橙色粗砂
23. 2.5Y5/3 黄褐色粗砂　粘土ブロック帯状に含
24. 2.5Y5/3 黄褐色細砂　東西30層と対応
25. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト
26. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト　粘土ブロック含
27. 10YR6/2 灰黄褐色微砂
28. 10YR6/3 にぶい黄橙色粘土
29. 2.5Y3/1 黒褐色細砂
30. 2.5Y7/3 浅黄色微砂
31. 7.5YR4/4 褐色微砂・10YR5/2 灰黄褐色土
32. 7.5YR6/6 橙色粗砂
33. 10YR6/3 にぶい黄橙色細砂
34. 7.5YR6/6 橙色砂質シルト
35. 2.5Y6/4 にぶい黄色微砂
36. 2.5Y6/4 にぶい黄色粗砂　粘土ブロック含
37. 2.5Y3/1 黒褐色細砂
38. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト
39. 2.5Y4/4 オリーブ褐色微砂
40. 2.5Y7/3 浅黄色微砂　粘土ブロック含
41. 5Y5/3 灰オリーブ色砂質シルト　噴砂か
42. 2.5Y5/4 黄褐色細砂

盛土
旧表土
流土

0　1:80　4m

第43図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　（1/80）
C6号墳　墳丘断割

（７） 板屋谷内Ｃ７号墳

Ｃ７号墳はＣ６号墳の東側，Ｃ１号墳から南東に延びる尾根の先端部に位置する。標高は39～40mを測り，調査区内では最も標高の低い地点にある。確認調査では確認できなかったが，本調査時に尾根全面の表土を除去したことにより初めて所在を確認した古墳である。

墳丘（第44図，図版27）

後世の開墾や土砂の流失等により，旧地形を留めておらず，墳丘のすべてを削平されている。コ字状に巡る周溝の規模から一辺約11.6mの方墳と推定した。Ｃ７号墳については，墳丘が遺存しないこと，時期を特定する遺物が少ないことなどから，周溝墓とする見解もある。しかし，周溝墓は複数で存在し，土坑墓が近接して作られる類例が多いことが知られており，Ｃ古墳群として捉えた場合，古墳と考えるのが妥当と判断した。また，周溝出土土器の年代とも矛盾はないものと考える。

周溝（ＳＤ１，第45図，図版27）

周溝は四方を巡るものと考えられるが，尾根中央に残した畦を挟んで北側では検出できなかった。北側は，南側と比べ，標高が0.4～0.5m低く，後世の削平により破壊されたものと考えられる。周溝は西辺が最も残りがよく，最大幅1.5m，深さ0.44mを測る。南辺は最大幅0.9m，深さ0.14mで，残りが悪い。東辺は，断面の形状から，尾根斜面の傾斜を利用して溝を掘削したものと考えられる。最大幅2.2m，深さ0.5mを測る。遺物は赤彩された有段口縁壺がある。西辺でまとまって出土しているが，溝底から10㎝ほど浮いた状態での出土であることから，周溝掘削時期には当てはまらず，古墳の年代を確定できるものではない。また，土器の出土地点が西辺に偏ることから，Ｃ６号墳からの転落遺物である可能性も残るが，確実な根拠がないためＣ７号墳の周溝出土遺物として判断する。

埋葬施設（ＳＫ２，第45図）

埋葬施設は検出できていないが，墳丘西よりで土坑１基を確認しており，墓坑の残骸である可能性がある。規模は長軸1.52m，短軸1.26m，深さ0.56mを測る。出土遺物はない。

出土遺物（第46図，図版31・42・48）

遺物は少なく，周溝出土の土師器と表土中出土の鏃１点である。土師器（*318*）は，有段口縁壺で口縁から頸部にかけてほぼ全周し，底部及び胴部の破片がある。口縁部は直線的に広がり，口縁端部を上方につまみ，２条の沈線が巡る。有段部は不明瞭な段をなす。胴部は球形平底。調整は口縁外面はハケの後ナデ，胴部は斜めハケの後ミガキ，底部はナデ。口縁内面はハケの後，ミガキもしくはナデ，胴部から底部はヘラナデ。外面及び口縁内面は赤彩が施される。時期は古府クルビ式期と考える。

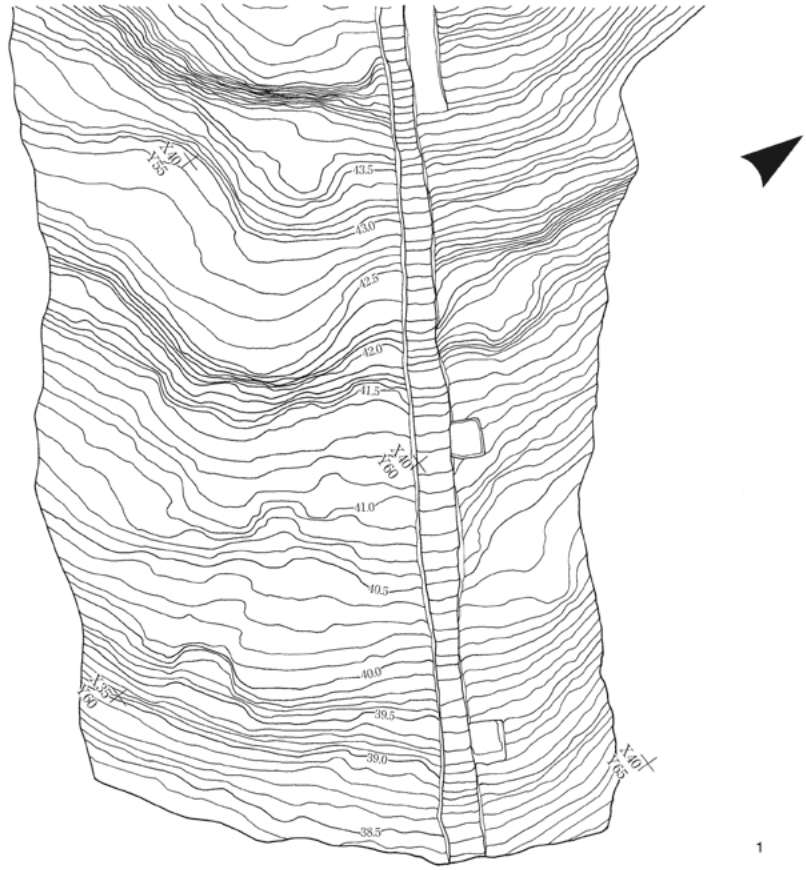
鏃（*319*）は無肩式の叩鏃である。全体に錆膨れしており，芯金と皮金の３枚に割れている。造りは厚手で，刃部は片刃と思われるが摩滅のため不明瞭である。古瀬清秀氏の分類[注1]によれば，ⅡＡ類にあたる。現代の向町鏃に近い形態を呈し，柱材，板材等の切断，柄孔の穿孔などに使用された叩鏃と想定される。時期は古墳時代より新しい時期のものであろう。

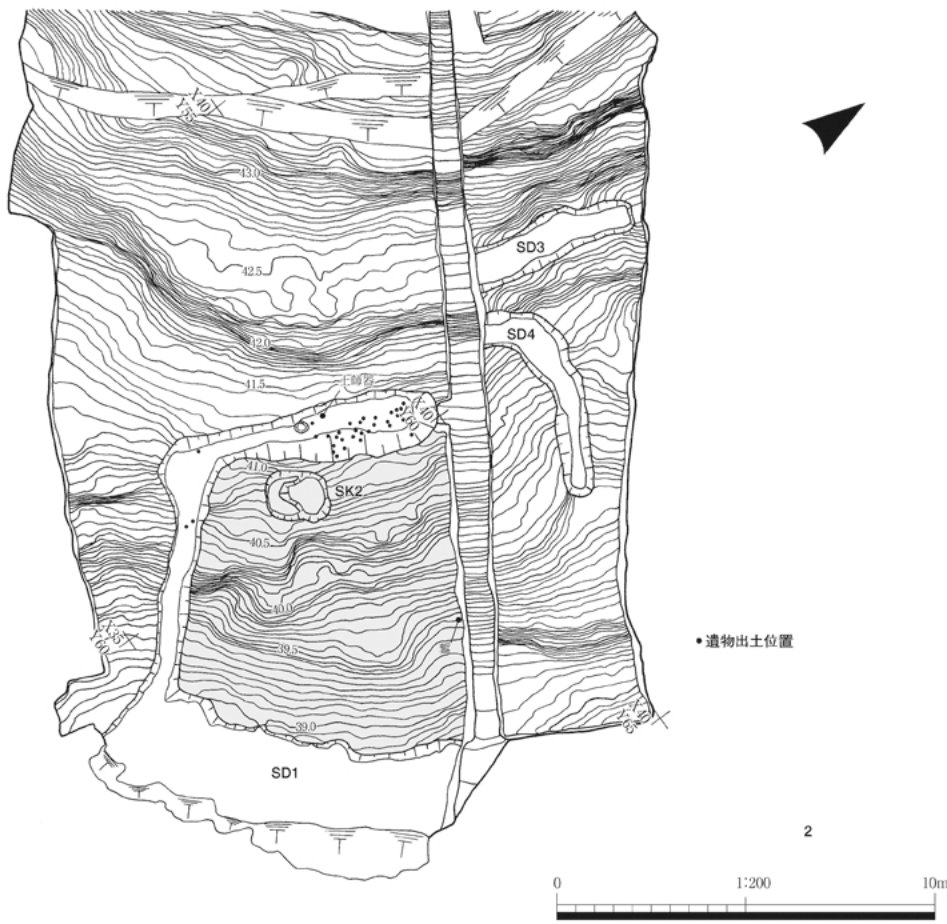
古墳築造時期

墳丘が削平され，埋葬施設も遺存しておらず，出土遺物も少なく，明確な時期の特定はできないが，周溝出土土器の時期によれば，古墳時代前期中葉以降と考えられる。（西川麻野）

注

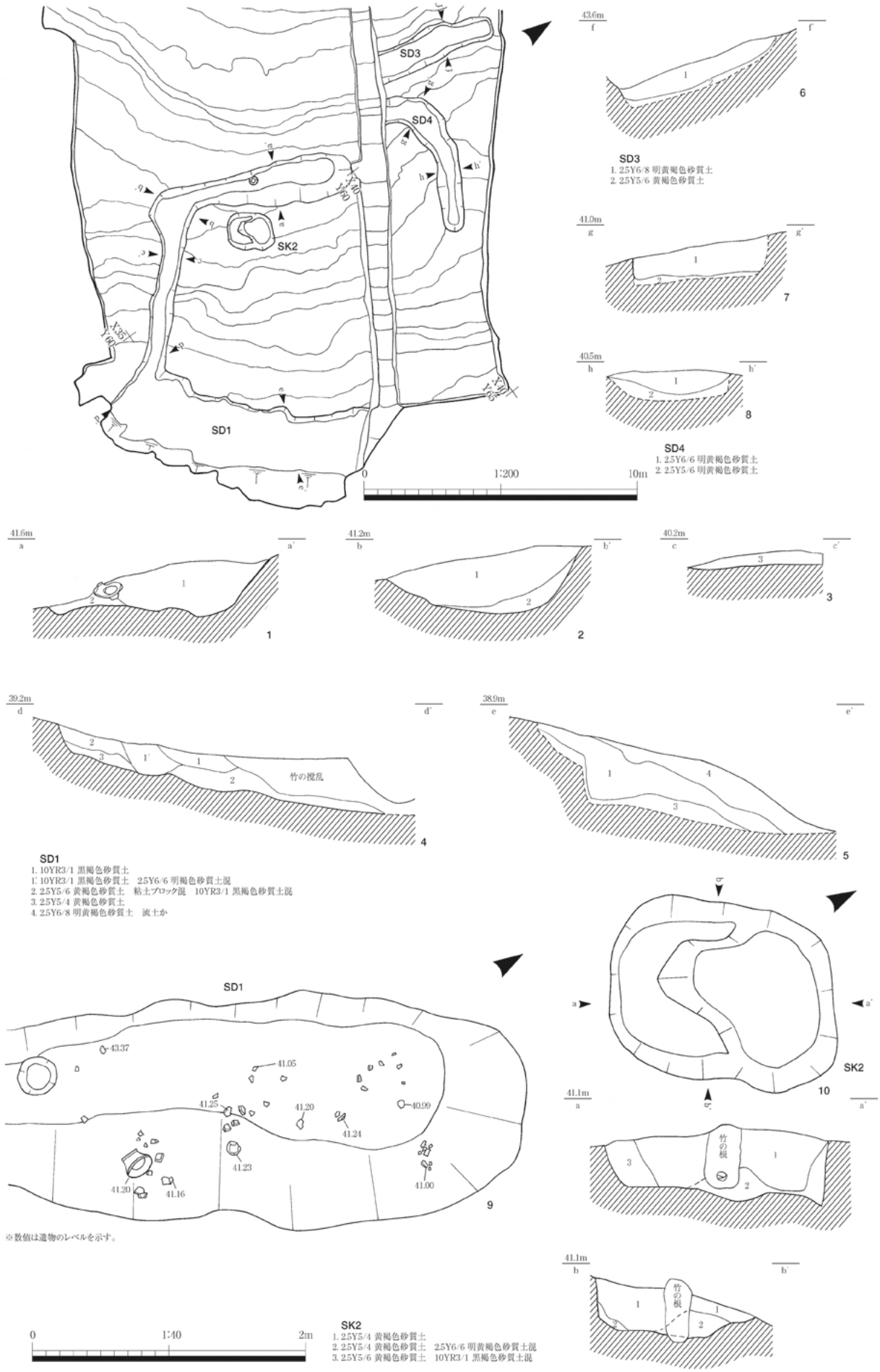
注１　古瀬清秀　1991「２副葬品の種類と編年　４農工具」『古墳時代の研究８　古墳Ⅱ副葬品』雄山閣





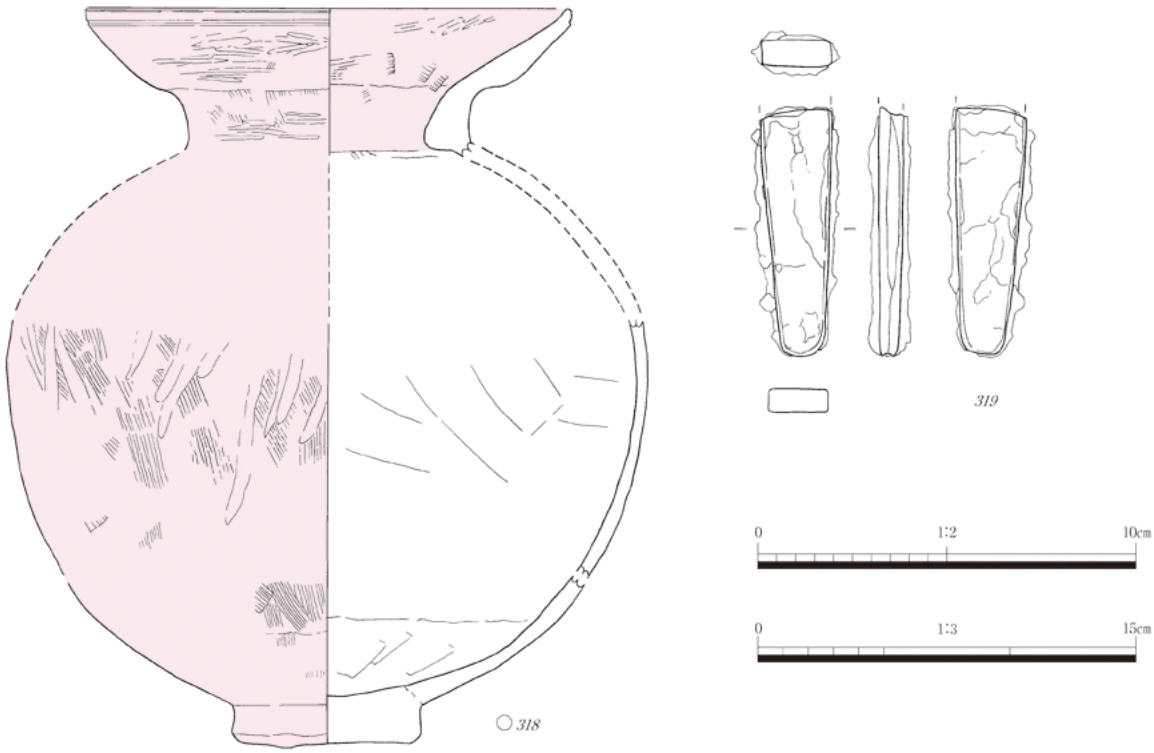
第44図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/200)

1．C7号墳（表土除去後）　2．C7号墳（完掘）



第45図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　(1/40, 1/200)

1～5. C7号墳　SD1　6. C7号墳　SD3　7・8. C7号墳　SD4　9. C7号墳　SD1遺物出土状況
10. C7号墳　SK2



第46図　板屋谷内B・C古墳群　遺物実測図　（*319*　1/2，*318*　1/3）
C7号墳

（8）尾根

尾根地区はＢ古墳群とＣ古墳群を画す狭小な尾根の鞍部にあたり，標高53～56mを測る。Ｂ14号墳からＣ１号墳にかけての小矢部川に面した斜面は，戦後におこなったとみられる旧地形の改変が著しく，棚田状の小区画が数多く認められる。現況は竹，杉等を中心とした雑木林である。

尾根地区の調査目的は，削平された古墳の検出とその他の時代の遺構を検出することにあった。本調査着手前におこなった板屋谷内古墳群全体での古墳確認（踏査）では，Ｂ15号墳の確認はできず，Ｂ15号墳の検出に主眼をおいたが，開墾等により完全に削平されたものとみられ，確認することはできなかった。検出した遺構は溝１条，土坑３基である。溝はＣ１号墳側にやや登った位置で，土坑は尾根筋の最も標高の低い地点で検出した。また，土坑は2.6mの等間隔で並ぶが筋は通らない。

尾根地区の層序は，基本的に竹根・葉を含む腐植土を主とする表土層下に無遺物層である明黄褐色砂質土（地山）が堆積している。一部ににぶい黄色砂の堆積がみられるが，棚田造成時の整地層または流土とみられる。

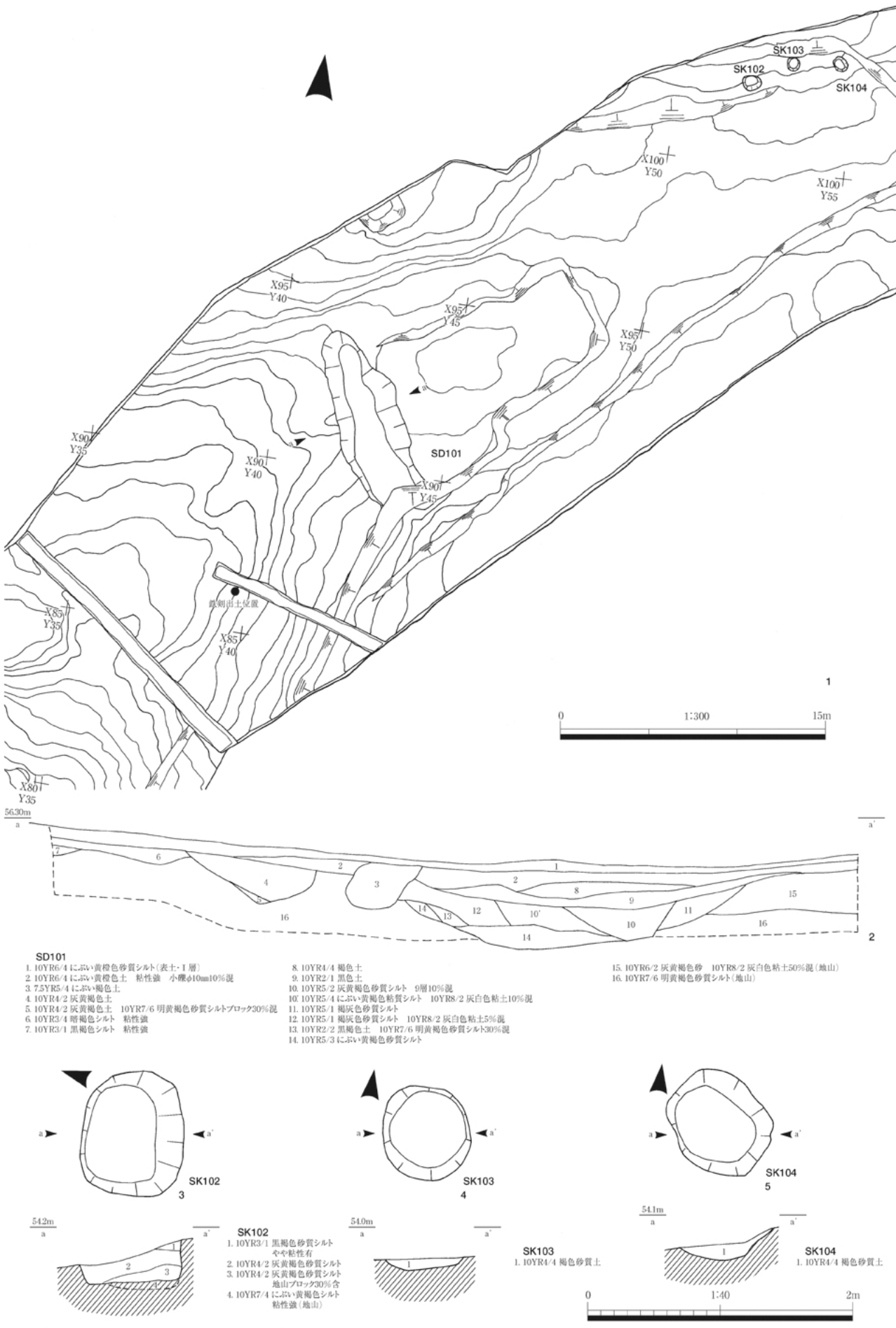
Ａ　遺構

101号溝（ＳＤ101，第47・48図）

最大幅3.45m，深さ0.55mを測る。尾根を断ち切った溝ではなく，最も標高の高い位置から東側へ約9.5mにわたり検出した。東端は開墾による削平を受けている。断面形は逆台形を呈し，埋土は黒褐色土，灰黄褐色土，暗褐色土の３層に分層される。遺物は下層の地山直上で銅銭１点（寛永通寶）（*322*）が出土しているが，土器類の出土はない。

102号土坑（ＳＫ102，第47図）

平面形は楕円形を呈す。長軸0.94m，短軸0.77m，深さ0.17mを測る。出土遺物はない。



第47図　板屋谷内B・C古墳群　遺構実測図　（1/40，1/300）

1．尾根　2．SD101　3．SK102　4．SK103　5．SK104

103号土坑（ＳＫ103，第47図，図版28）

平面形は円形を呈す。長軸0.72ｍ，短軸0.64ｍ，深さ0.09ｍを測る。出土遺物はない。

104号土坑（ＳＫ104，第47図，図版28）

平面形は不整形な円形を呈す。長軸0.80ｍ，短軸0.65ｍ，深さ0.23ｍを測る。出土遺物はない。

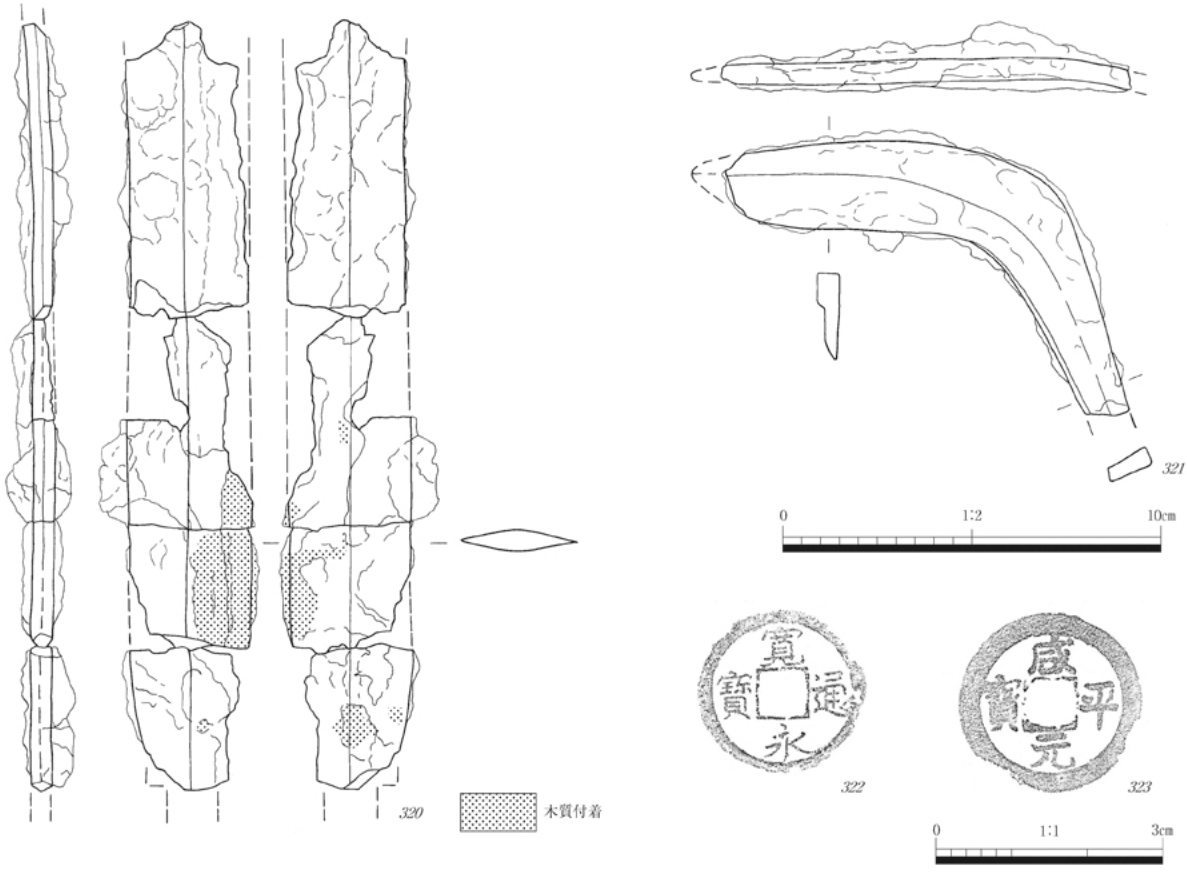
Ｂ　遺物（第48図，図版41・42・46・48）

ＳＤ101から銅銭１点（*322*）が出土しているが，他は表土層出土で，銅銭１点（*323*），鉄剣１振り（*320*）のみである。また，Ｂ14号墳東側の表土から鎌（*321*）が出土している。*323*は咸平元寶で，初鋳咸平元（998）年の北宋銭である。*320*は鉄剣とみられる金属片で，残存長20.2㎝，幅3.2㎝，厚さ0.5㎝を測る。腐食が著しく外装は不明であるが，剣身と茎部分に一部木質が残る。断面は菱形を呈し鎬があり，Ｃ６号墳出土鉄剣（*32*）に比し厚手の作りである。出土地点はＣ１号墳よりの緩やかな傾斜面で，３片に割れた状態であった。*321*は有茎鎌で，中世以降の新しい時期のものとみられる。

Ｃ　まとめ

尾根部の調査の結果，その目的としたＢ15号墳の検出はできなかった。板屋谷内古墳群は西井氏により昭和52年に踏査がおこなわれ，昭和58年には高岡市教育委員会によって再度踏査がおこなわれているが，Ｂ古墳群の最西端に位置する古墳のドットの大きさが異なっている。西井氏の踏査では，主脈から北に支丘が分岐する箇所に14号墳があり径16ｍを測る円墳とされ，その西側にある径６ｍの円墳を15号墳としている。高岡市の分布調査報告では，最西端の古墳に大きなドットが落とされ，北に延びる支丘の分岐箇所に記されている。現況では，Ｂ14号墳の南東部から南西にかけては地形を大きく削平し，棚田状に改変されている。これらのことから，Ｂ15号墳は昭和52年以降58年までの間に完全に削平されたものとみられる。

（菅田　薫）



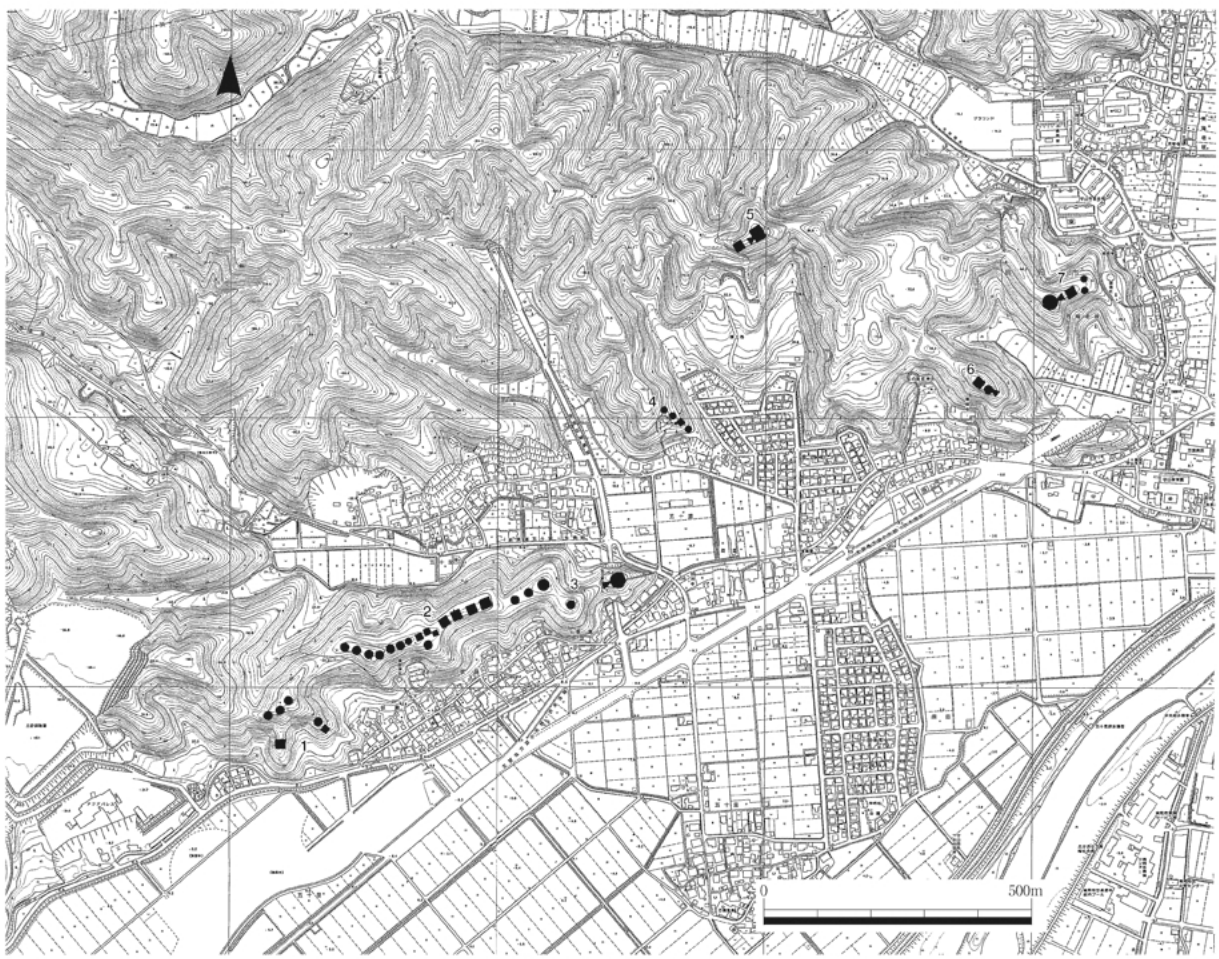
第48図　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群　遺物実測図　（*322・323*　1/1，*320・321*　1/2）
尾根

3　小結

今回の調査では，Ｂ古墳群２基，Ｃ古墳群５基の計７基の古墳の調査を実施した。ここでは，古墳群の立地状況，古墳の構造，出土遺物，古墳群の時期等について考えまとめとしたい。

（１）　立地状況（第49図）

板屋谷内古墳群は，西山丘陵から東へ細く張り出した支丘上に位置する。この支丘の東端よりＡ～Ｄの古墳群が尾根上に連なる。最も東端に位置するＡ１号墳は，全長約51mの前方後円墳で，昭和56年度に富山県教育委員会により試掘調査が実施されている。試掘調査の結果，墳丘裾部から鉄剣１振りと，周溝から月影Ⅰ式の土器が出土しており，西山丘陵における最古期の古墳に位置付けられている。板屋谷内古墳群の連なる尾根は，北側に開析谷，南東側に平野が広がり，蛇行する小矢部川が山裾まで迫る。標高はＡ１号墳で約32m，Ｂ13号墳で約61m，Ｃ１号墳で約66mを測る。Ｂ古墳群は北東方向へ延びる尾根筋に列状に続き，Ａ古墳群へ至る。Ｃ古墳群はＣ１号墳を頂点に２方向へ分岐する支丘の中腹に立置し，Ｂ古墳群とは尾根鞍部により画されている。７基の古墳の立地状況は，Ｂ13・Ｂ14・Ｃ１号墳が尾根筋上の支丘分岐点にあたる高所，Ｃ４・Ｃ６・Ｃ７号墳が尾根上（Ｃ１号墳）からの比高差約17～25mの斜面傾斜がやや緩やかになる支丘中腹に位置しており，地形を有効に利用した選地がなされている。Ｃ２号墳は尾根筋から比高差約４ｍ下がった支丘分岐点の狭小な平坦地に位置しているが，Ｃ４・Ｃ６号墳上段の斜面は傾斜が急であり，Ｃ２号墳築造時に既に他の４基が存在していたために築造場所が限定されたか，意図的に選地したかのどちらかであろう。



第49図　板屋谷内古墳群　周辺古墳分布図
1．板屋谷内C古墳群　2．板屋谷内B古墳群　3．板屋谷内A古墳群　4．五十里道神社古墳群
5．五十里古墳群　6．須田不動山古墳群　7．西海老坂小田谷内古墳群

（2） 古墳の構造

Ｃ４・Ｃ７号墳の２基が方墳，Ｂ13・Ｂ14・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ６号墳の５基は径15～26mの円墳である。各古墳とも地山削り出しによる整形後，斜面下側を主として盛土が施される。盛土は，周辺地山の砂質土及び旧表土と考えられる黒褐色シルト・砂質シルト等の混土を中心としているが，後世の削平や土砂の流失等により遺存状態は悪い。また，Ｂ13・Ｃ２号墳の墳丘断割では，盛土・旧表土の崩落や噴砂，小断層が認められ，古墳築造後の地震の影響を受けているものとみられる。Ｃ古墳群においては，旧表土及び整地層と考えられる土層をサンプリングして，古植生の復元を目的とした花粉並びに植物珪酸体の分析を行った。結果は，砂質の土壌であること，乾燥した尾根上であること等により，いずれの試料も遺存状態は不良であったが，周辺遺跡での分析結果からは中～低木の落葉樹が生育していたと推定されるとのことであった。

Ｃ古墳群においては周溝が巡るが，厳密には斜面上側の尾根を断ち切り溝としたもので，全周はしない。Ｃ７号墳は墳丘の全てを削平されており，周溝のみを検出したが，斜面上側及び南・東側に溝を巡らせている。Ｂ古墳群においては，周溝は検出されていない。

埋葬施設は，上部は削平や流失により失われているが，Ｃ７号墳を除く６基で検出された。盛土構築後に掘り込まれた竪穴系埋葬施設（墓坑）で，Ｃ１・Ｃ２号墳は墓坑底が地山まで達していたが，Ｃ１・Ｃ２号墳の盛土は部分的であるためと考えられる。いずれも木棺直葬と考えられ，断面観察から，Ｂ13号墳は組合式木棺，Ｂ14・Ｃ１・Ｃ４号墳は割竹形木棺と推測される。Ｃ６号墳は木根による攪乱が激しく，掘形のごく一部を検出したのみである。Ｃ１号墳では，埋葬施設の一部に赤色土の堆積が確認され，由来する赤色顔料を特定することを目的として分析を行ったが，水銀朱とベンガラの両方の可能性はあるが，いずれも微量で特定には至らなかった。検出状況からは，埋葬施設内及び地山の土質とは明らかに異質な赤色を呈しており，顔料としては特定できなかったが，赤色を意識して用いられたと考えられる。

また，Ｃ１・Ｃ２号墳では墳頂部の埋葬施設中央に後世の土坑が重複している。どちらも，珠洲Ⅰ～Ⅱ期に比定される擂鉢片が出土しており，埋納土坑の可能性が考えられる。埋土中には拳大の礫がランダムに入り，Ｃ２号墳ではごく小量の炭化物が含まれていた。Ｃ２号墳の土坑埋土に含まれる炭化物で放射性炭素年代測定を行った結果，各試料の暦年較正結果はいずれも11世紀中頃～13世紀前半頃となり，出土珠洲から得られる年代観とも矛盾しないものであった。

古墳名	規模		副葬品												周溝	土師器	須恵器
			鉄製品						鏡	玉類							
	形	m	剣	刀	ヤリ	刀子	斧	鍬・鋤先		勾玉	管玉	棗玉	琥珀玉	ガラス玉			
B13	円	26		3		1	1			土製1						○	TK208～TK23
B14	円	短20長25															
C1	円	24			1									小玉1	土師器	古府クルビ	
C2	円	15													須恵器		○
C4	方	18×18						1		1	1				土師器	○	○
C6	円	17	1						内行花文鏡1 珠文鏡1	3	27	234	丸玉2	小玉15 管玉1	刀子1		
C7	方	11.6×11.6													土師器	古府クルビ	

第６表　板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群副葬品一覧　※墳頂表土出土のものは副葬品に含めている。
C6号墳出土玉類は土壌洗浄分を全て副葬品に含めている。

（３） 出土遺物

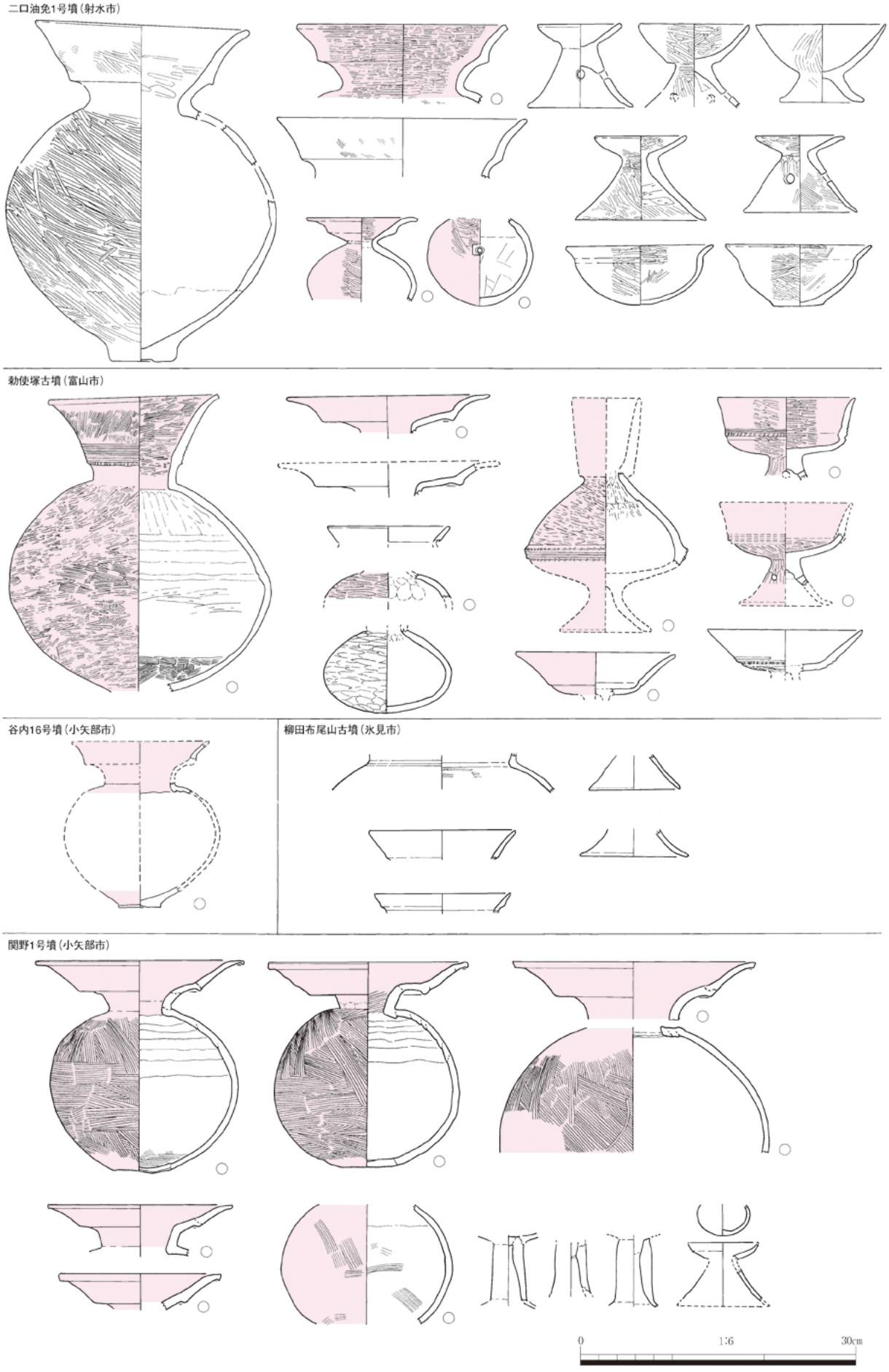
後世の削平や土砂の流失により埋葬施設の遺存状態が悪く，古墳築造当初の副葬位置を留めるものは少ないが，古墳に伴う遺物は土師器・須恵器・金属製品・玉類がある。

土師器はＢ13号墳表土，Ｃ１・Ｃ４・Ｃ７号墳周溝からの出土品がある。比較的遺存状態の良いのはＣ１・Ｃ７号墳の有段口縁壺で，いずれも口縁端部は打ち欠いているとみられる。関野古墳群及び谷内16号墳において，北陸地域の主な古墳時代開始前後頃の墳墓供献土器の編年と変化の意義付けがなされており[注1]，ここでＣ１・Ｃ７号墳出土土器の位置付けを行いたい。Ｃ１号墳出土壺（*10*）は口縁部の段より上部は短く直線的にひらく。胴部は外面ミガキ，内面ハケ調整で，接合はしないがおそらく球形になると思われる。口縁部の有段が明確であること，頸部がしまること，器壁が薄く丁寧な作りであることから，Ｃ７号墳出土壺（*318*）より先行するものと考え得る。*318*は胴部中位に最大径がくる球形平底のプロポーションで，外面及び頸部内面はハケの後ミガキ，胴部内面はナデで，外面及び頸部内面には赤彩が施される。球形平底であること，ミガキ調整を施すこと等から，関野１号墳出土土器（漆町編年９群）より先行すると考える。また，関野１号墳出土土器が畿内系の二重口縁壺であるのに対し，Ｃ１・Ｃ７号墳出土土器は口縁形態やミガキ調整を施す点等は在地系土器の流れで捉えられるもので，この点からも関野１号墳より一段階古い様相と考えたい。Ｃ１・Ｃ７号墳出土土器は供伴する土器が乏しく比較対象が限られるが，漆町編年８・９群前後に比定でき，宿東山１号墳・谷内16号墳とほぼ同時期と考える。

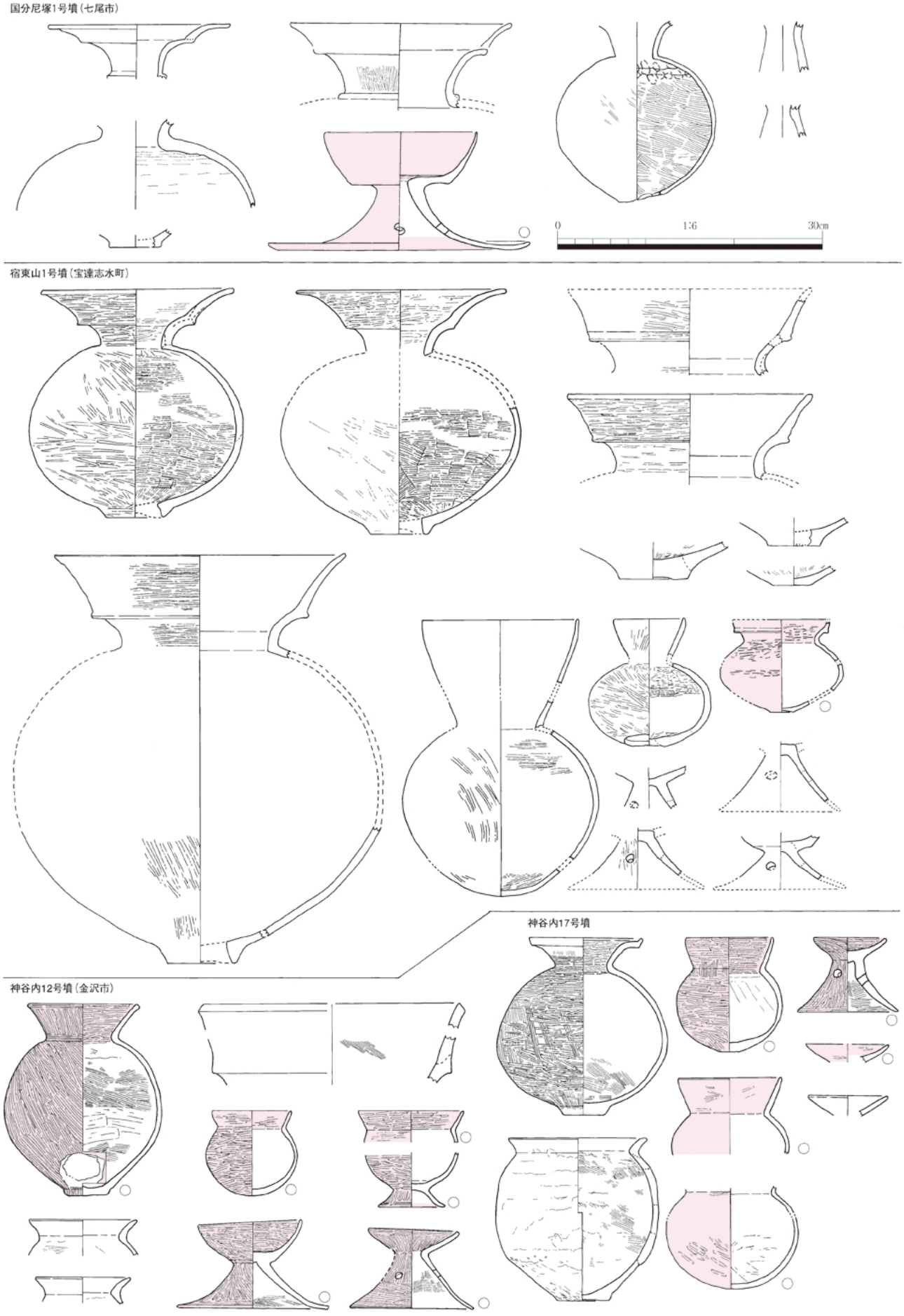
須恵器はＢ13・Ｃ２・Ｃ４号墳から出土しているが，Ｃ２・Ｃ４号墳のものは小片で時期は不明。Ｂ13号墳の須恵器は単脚１段透かしの高杯（*1*）で，ＴＫ208～23に比定される。Ｂ13・Ｃ２号墳出土須恵器の生産地を特定することを目的として蛍光Ｘ線分析を行った。地元の製品の可能性を考え，氷見市園カンデ窯跡出土の須恵器と比較検討したが[注2]，Ｂ13・Ｃ２号墳出土須恵器はいずれも陶邑製品の可能性が高いと推定された。

金属製品については，遺存状態により種々の金属学的分析及び，放射性炭素年代測定を行った。Ｃ６号墳では２面の銅鏡が出土している。珠文鏡（*30*）は放射状区画を有する。珠文鏡は全国で約250面以上が発見されているが，放射状区画をもつ鏡は少ない。中山・林原氏，吉田氏が集成した以後，Ｃ６号墳鏡を入れて17例で，このうちＣ６号墳鏡と同様な４区画をもつ鏡は５例である[注3]。これらの鏡は内区を放射状に区画するという特徴を有するが，文様構成は多様で，同一鏡は存在しない。Ｃ６号墳鏡は吉田氏の分類に従えば４類Ｂに該当し，４世紀後半以降に製作された鏡と考えられる。内行花文鏡（*31*）については，円座式の六花文で，花文間に珠文が１つ配され，清水氏の分類によるとＢ１式に該当し，古墳時代前期中葉には製作が開始されていたと考えられる鏡式である[注4]。なお，銅鏡については鏡背に付着する赤色顔料の分析及び，鉛同位体比の分析を行った。鉛同位体比の分析結果は，珠文鏡は中国華南産材料，内行花文鏡は中国華北産材料を利用した鏡であるというものであった。古墳時代の銅鏡は華南産材料を用いたものが一般的であり，華北産材料を利用した鏡は少なく，これまでに分析された内行花文鏡では椿井大塚山古墳（京都府），蔵王遺跡（新潟県）[注5]例の２面がある。

玉類は，Ｃ１号墳でガラス小玉１点，Ｃ４号墳で水晶勾玉１点，緑色凝灰岩管玉１点の他は，Ｃ６号墳で勾玉３点，管玉27点，棗玉234点，ガラス管玉１点，ガラス小玉15点，琥珀丸玉２点とまとまって出土している。勾玉は滑石系（*298*）・翡翠（*299*）・瑪瑙（*300*）で，石材は異なるがいずれもＣ字状の均整の取れたプロポーションを呈している。琥珀丸玉については琥珀であるかの確認と，産地同定を目的として分析を行った結果，岩手県久慈市産あるいは福島県いわき市産の琥珀の可能性が高



第50図　富山県の主な前期古墳出土土器　（1/6）※各報告書より再トレース，一部改変。



第51図　石川県の主な前期古墳出土土器　（1/6）※各報告書より再トレース，一部改変。